

# System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) バージ ョン 7.3 ユーザーズ ガイド

## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) について.....</b>	<b>8</b>
OMIMSSC アーキテクチャの概要.....	9
SCOM 向け OMIMSSC の主要機能.....	9
SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスのメリット.....	10
SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスによって提供される機能と、SCOM 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack の機能を比較します。.....	10
本リリースの新機能.....	11
<b>章 2: OMIMSSC ライセンスの購入と管理.....</b>	<b>13</b>
OMIMSSC のライセンス タイプ.....	13
OMIMSSC のライセンス対象機能.....	13
OMIMSSC のライセンス不要機能.....	13
OMIMSSC ライセンスの購入.....	13
OMIMSSC 管理ポータルでのライセンスのインポート.....	14
SCOM コンソールでの OMIMSSC ライセンス使用状況の確認.....	14
<b>章 3: OMIMSSC アプライアンスのポート情報と通信マトリックス.....</b>	<b>15</b>
<b>章 4: サポートマトリックス.....</b>	<b>17</b>
SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用するために必要なユーザーの役割.....	19
<b>章 5: SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの導入と構成.....</b>	<b>20</b>
サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード.....	21
SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入する前に.....	21
Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定.....	21
OMIMSSC アプライアンスが Hyper-V でホストされていることの確認.....	22
ESXi での OMIMSSC の導入と設定.....	22
OMIMSSC アプライアンスの設定.....	23
OMIMSSC VM のネットワーク設定.....	24
登録およびデバイス管理のための OMIMSSC および SCOM インターフェイス.....	25
OMIMSSC 管理ポータルへのログイン.....	25
OMIMSSC アプライアンスの現在のバージョン、ホスト名、IP アドレスの表示.....	26
<b>章 6: SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスへの SCOM 管理グループの登録.....</b>	<b>27</b>
Windows 認定資格プロフィールの作成.....	27
Windows 認定資格プロフィールの変更.....	28
Windows 認定資格プロフィールの削除.....	28
SCOM 用 OMIMSSC を使用した SCOM 管理グループと Dell EMC アラート リレー サーバーの登録.....	28
登録設定の変更.....	30
Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング.....	31
アラート リレー サーバーのシステム要件.....	31
アラート リレー サーバーで監視対象デバイスの数の拡張を設定するための前提条件.....	31
SCOM コンソールでのアラート リレー サーバーの検出.....	32

OMIMSSC 管理ポータルから Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをダウンロードしてインストールする.....	32
Dell EMC アラート リレー サーバーのインストーラーによって実行される設定の変更.....	32
Dell EMC アラート リレー サーバーのモニタリング ビュー.....	33
アラート リレー サーバーと SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの同期.....	33
Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーのインストール エラーの修復.....	33
Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーのアンインストール.....	34
<b>章 7: OMIMSSC 管理ポータルで実行できるその他のタスク.....</b>	<b>35</b>
OMIMSSC SSL 証明書.....	35
証明書署名要求 ( CSR ) の生成.....	35
CA 署名付き証明書のアップロード.....	35
デフォルト証明書の復元.....	36
OMIMSSC 管理ポータルおよび OpenManage Integration Dashboard のジョブおよびログ.....	36
OMIMSSC ジョブおよびログの表示.....	36
OMIMSSC アプライアンスのトラブルシューティング ログのダウンロード.....	37
<b>章 8: SCOM コンソールからの OMIMSSC の管理.....</b>	<b>38</b>
SCOM コンソールを使用した Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードへのアクセス.....	38
新しい IP アドレスを使用した現在の OMIMSSC IP アドレスのオーバーライド.....	39
デバイス認定資格プロファイルの作成.....	39
デバイス認定資格プロファイルの変更.....	40
デバイス認定資格プロファイルの削除.....	40
SCOM コンソールを使用して Dell EMC デバイスを検出およびモニタリングするための前提条件.....	41
OMIMSSC での管理サーバーとの Dell EMC アラート リレー サーバーの詳細の同期.....	41
<b>章 9: OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能を使用した PowerEdge サーバーの検出とモニタリング.....</b>	<b>42</b>
PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション向けの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の概要.....	42
OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の拡張可能エディションおよび詳細エディション.....	42
ホスト オペレーティング システムを使用し、WS-Man または iDRAC アクセスを使用した PowerEdge サーバーおよびワークステーションの検出と分類.....	43
Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング ( ライセンス対象 ) を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件.....	43
OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用する PowerEdge サーバーの検出.....	43
SCOM コンソールを使用した PowerEdge サーバーの検出.....	44
WS-Man を使用したオブジェクトの検出.....	45
iDRAC および SCOM コンソールでのアラート設定の構成.....	45
SCOM コンソールでの PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング.....	45
モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラート ビュー.....	46
モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラム ビュー.....	46
PowerEdge サーバーのパフォーマンスと電源のモニタリングの表示.....	47
PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビューの表示.....	47
<b>章 10: iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーの検出と管理.....</b>	<b>49</b>
.....	49
iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの拡張可能エディションおよび詳細エディション.....	49
iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの検出と分類.....	50

iSM-WMI を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件.....	50
iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーの検出.....	50
iSM-WMI を使用したオブジェクトの検出.....	51
iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能.....	51
iSM-WMI を使用した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能 のビューオプション.....	51
<b>章 11: OMIMSSC を使用した Dell EMC シャーシの検出とモニタリング.....</b>	<b>55</b>
シャーシの検出と分類.....	55
OMIMSSC を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出.....	56
SCOM を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出.....	56
シャーシ向け SCOM コンソールでの SNMP RunAsAccount の設定.....	57
OMIMSSC のシャーシ モニタリング機能.....	57
SCOM コンソールのモニタリング対象シャーシ ビュー.....	57
シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能.....	60
シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能を使用して検出されたオブジェクト.....	60
<b>章 12: OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出とモニタリング.....</b>	<b>61</b>
ネットワーク スイッチの検出と分類.....	61
プロパティを上書きしてネットワーク スイッチの検出プロセスをカスタマイズする.....	61
OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出.....	61
SCOM を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出.....	62
ネットワーク スイッチ向け SCOM コンソールでの SNMP RunAsAccount の設定.....	62
OMIMSSC のネットワーク スイッチ モニタリング機能.....	63
SCOM コンソールのモニタリング対象ネットワーク スイッチ ビュー.....	63
<b>章 13: OMIMSSC アプライアンスを使用した Dell EMC デバイスの管理.....</b>	<b>65</b>
OMIMSSC を使用して登録された SCOM で検出されたデバイスのデータを同期する.....	65
OMIMSSC からの Dell EMC デバイスの削除.....	65
<b>章 14: OMIMSSC モニタリング機能用の SCOM コンソールでのタスクの実行.....</b>	<b>67</b>
SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行.....	67
OMIMSSC モニタリング機能を使用した Dell EMC デバイス上で実行されるタスク .....	67
ノードへの接続の確認.....	68
PowerEdge サーバーの保証情報の表示.....	68
SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでの OMSA の起動.....	68
SCOM コンソールを使用した iDRAC の起動.....	69
SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでのリモート デスクトップの起動.....	69
リモート iDRAC のハード リセット操作の実行.....	69
Embedded Server Management ( ESM ) ログのクリア .....	69
電源管理関連のタスク .....	70
Dell CMC コンソールの起動.....	70
<b>章 15: OMIMSSC アプライアンスの設定とデータのバックアップおよび復元.....</b>	<b>71</b>
OMIMSSC 管理ポータルを使用した OMIMSSC の設定とデータのバックアップ.....	71
OMIMSSC アプライアンスの設定とデータの復元.....	72
<b>章 16: SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスのアップグレード.....</b>	<b>75</b>
サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード.....	75

OMIMSSC アプライアンス データのバックアップおよび復元によるアプライアンスのアップグレード	77
OMIMSSC 7.1 および OMIMSSC 7.1.1 のデータのバックアップ	77
IP アドレスを使用した OMIMSSC 7.1 および 7.1.1 バージョンのデータのリストア	78
OMIMSSC バージョン 7.2 から 7.3 へのアップグレード	79
SCOM コンソールの [ アップデートと推奨事項 ] ページを使用した OMIMSSC アプライアンスのアップデート	79
<b>章 17: OMIMSSC に登録された SCOM 管理グループの登録解除</b>	<b>81</b>
<b>章 18: OMIMSSC VM の削除</b>	<b>82</b>
<b>章 19: トラブルシューティング</b>	<b>83</b>
OMIMSSC アプライアンスの導入および OMIMSSC 管理ポータル関連の問題	83
OMIMSSC アプライアンスの導入後、OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられない	83
SCOM コンソールで OpenManage Integration Dashboard を起動できない	83
Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにログインできない	84
OMIMSSC アプライアンスに接続できない	84
OMIMSSC と SCOM コンソール間の接続ができない	84
OMIMSSC アプライアンス関連の問題のある SCOM 管理グループの登録	84
OMIMSSC アプライアンスを導入した後、OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録が失敗するか、Dell EMC 管理パックが正常にインストールされない	84
ローカル アカウントとドメイン アカウントのユーザー名は一致しているにもかかわらずパスワードが異なる場合に発生した問題	85
Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードのビュー管理パックのインポートが、Microsoft System Center-Operations Manager 2012 R2 で失敗する	85
OMIMSSC アプライアンス関連の問題のある SCOM 管理グループの登録解除	86
登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ	86
登録解除ジョブの完了後に OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 によって設定された前提条件を手動で復元する	87
Dell EMC デバイスに関する問題の検出とモニタリング	87
OMIMSSC の再起動後にデバイスを検出および監視できない	87
デバイスを検出するために OMIMSSC で実行しているジョブが 5 時間を過ぎても進行状態のままになる	87
ターゲット デバイス上の SNMP トラップの宛先を設定できない	88
検出されたシャーシまたはネットワーク スイッチからアラートを受信できない	88
OMIMSSC による Dell EMC デバイスのデータ同期の問題の解決	88
その他の問題	89
Dell EMC Feature Management Dashboard での問題の解決	89
イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する	90
Internet Explorer を使用して証明書署名リクエストをダウンロードできない	90
アプライアンスをアップグレードした後、OMIMSSC 管理ポータルが例外を表示する	91
ネットワークに問題がある場合、Dell EMC アラート リレー サーバーと関連付けられたデバイスは Dell EMC OpenManage Integration Dashboard から削除されない	91
<b>章 20: リファレンストピック</b>	<b>92</b>
OMIMSSC でサポートされているモニタリング機能	92
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能	92
Dell EMC シャーシ モニタリング機能	95
Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能	96
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能	98

Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC のモニタリング機能の設定.....	99
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のインポート.....	99
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のアップグレード.....	101
拡張可能エディションおよび詳細エディション対応の Feature Management Dashboard を使用した モニタリング機能のカスタマイズ.....	102
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能の削除.....	102
検出されたデバイスの重要度レベル.....	103
SCOM コンソールでのタスクの実行.....	103
デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド.....	104
OMIMSSC での PowerEdge サーバーのライセンス対象モニタリングの主要機能.....	104
iDRAC9 PowerEdge サーバーのシステム設定ロックダウン モード.....	104
iDRAC9 PowerEdge サーバーの iDRAC グループ マネージャー.....	105
イベント自動解決.....	105
iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーの容量計画.....	105
障害が発生した CMC または OpenManage Enterprise-Modular のステータスの検出と復元.....	106
iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーのポート接続情報.....	106
OMIMSSC によって監視されているサーバーおよびラック型ワークステーションのハードウェア コンポーネント.....	106
OMIMSSC によるモニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント.....	109
OMIMSSC によって監視されるネットワーク スイッチのハードウェア コンポーネント.....	110
OMIMSSC モニタリング機能によって提供される表示オプション.....	110
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー.....	111
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー.....	114
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビュ ーと電源モニタリング ビュー.....	115
OMIMSSC のユニット モニター.....	116
PowerEdge サーバーおよびワークステーション用の System Center Operations Manager 向けの、 OMIMSSC および Dell EMC Windows サーバー エージェント ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 の SNMP 管理パック バージョン 7.3 のライセンス対象監視機能のユニットモニター.....	116
Dell EMC シャーシ モニタリング機能のためのユニット モニター.....	118
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能のユニット モニター.....	118
OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって使用されるイベントルール.....	119
<b>章 21: 追加リソース.....</b>	<b>121</b>
<b>章 22: Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス.....</b>	<b>122</b>
<b>章 23: デル・テクノロジーズへのお問い合わせ.....</b>	<b>123</b>
<b>付録 A: 用語集.....</b>	<b>124</b>
<b>付録 B: 追加トピック.....</b>	<b>125</b>
トラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするための SCOM の設定.....	125
SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成.....	125
複数の Run As アカウントの関連付け.....	126
Web Services Management ( WS-Man ) と SMASH デバイス テンプレートのインストール.....	126
Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニ タリング機能.....	127

# System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) について

Microsoft System Center Operations Manager ( SCOM ) を使用して、データ センター内のデバイスとアプリケーションを監視することができます。Dell EMC は、SCOM 用 OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) アプライアンスに管理パックを提供します。これにより、Microsoft System Center-Operations Manager ( SCOM ) コンソールという単一インターフェイスを使用して、管理者は Microsoft と Dell EMC のデバイスを管理できます。Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは Microsoft SCOM と統合されており、正常性の検出、インベントリー、監視、パフォーマンス メトリックの監視、そして PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション、モジュラーインフラストラクチャ ( PowerEdge MX7000 を含む ) およびネットワーク スイッチのアラート監視を行います。OMIMSSC アプライアンスは、Dell EMC サーバーとラック型ワークステーションのエージェントフリー監視を、iDRAC または iSM 管理パック、Dell EMC シャーシ、および Dell EMC ネットワーク スイッチを介して提供します。

OMIMSSC は、以下のいずれかでホストされている VM です。

- VHD ファイルを使用している Hyper-V。
- OVA ファイルを使用している VMware ESXi。

OMIMSSC は、ZIP ファイル パッケージで使用可能なアプライアンス ベースのソリューションです。アプライアンスでサポートされているファイル形式は 2 種類あり、次の zip パッケージから抽出できます。

- OMIMSSC\_<version>\_SCOM.vhd\_<revision>.zip。ここで、*version* は OMIMSSC アプライアンスのリリースバージョン、*revision* はビルドリビジョン番号であり、VHD ファイル形式に抽出できます。
- OMIMSSC\_<version>\_SCOM.ova\_<revision>.zip。ここで、*version* は OMIMSSC アプライアンスのリリースバージョン、*revision* はビルドリビジョン番号であり、OVA ファイル形式に抽出できます。

上記の両方の圧縮パッケージには、次のものが含まれています。

- VHD ファイルまたは OVA ファイル。
- readme.txt ファイルを含むドキュメント フォルダー。

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは、CentOS に基づいており、Dell EMC デバイスと通信します。デバイスとの通信でサポートされるプロトコルは次のとおりです。

- Web Services-Management ( WS-Man )
- 簡易ネットワーク管理プロトコル ( SNMP )
- Redfish

## トピック：

- [OMIMSSC アーキテクチャの概要](#)
- [SCOM 向け OMIMSSC の主要機能](#)
- [SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスのメリット](#)
- [SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスによって提供される機能と、SCOM 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack の機能を比較します。](#)
- [本リリースの新機能](#)

# OMIMSSC アーキテクチャの概要

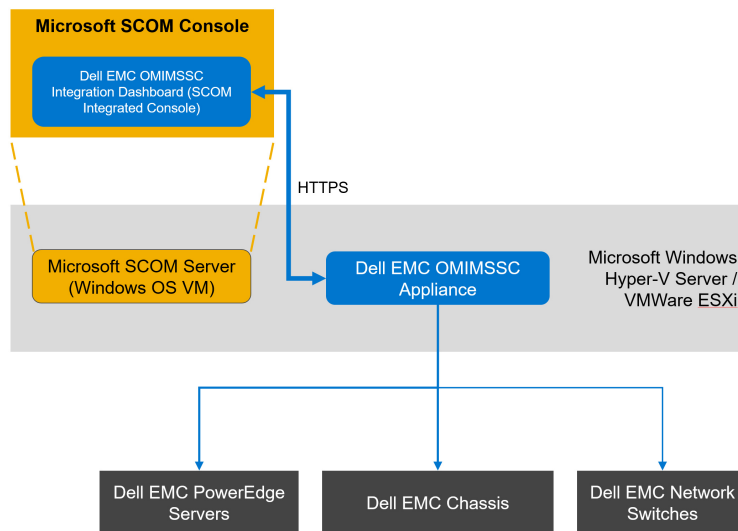


図 1. OMIMSSC アプライアンスのアーキテクチャ

## SCOM 向け OMIMSSC の主要機能

表 1. SCOM 向け OMIMSSC の説明を含む主要機能

機能	説明
ライセンスセンター	OMIMSSC 管理ポータルから OMIMSSC ライセンスを管理します。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) のモニタリング機能	<p>SCOM コンソールの <b>Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード</b> を使用して、次のことをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下を介した、第 12 世代の iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー、第 13 世代の PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポート対象の Dell Precision ラックのライセンスベースの検出およびモニタリング、そして Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーおよび Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェアモニタリング。 <ul style="list-style-type: none"> <li>WS-MAN を使用した iDRAC</li> <li>ホストオペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセス</li> <li>Windows Management Instrumentation (WMI) を使用した iSM</li> </ul> </li> <li>iDRAC を使用した、第 12 世代の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバー、第 13 世代の PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックの検出およびモニタリング、そして Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーおよび Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェアモニタリング。</li> <li>ISM を使用した、第 12 世代の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバー、および第 13 世代の PowerEdge サーバーの検出と監視。サポートされるサーバーの完全なリストについては、サポートサイトにある『iDRAC サービス モジュールインストール</li> </ul>

表 1. SCOM 向け OMIMSSC の説明を含む主要機能 ( 続き )

機能	説明
	<p>ールガイド』の「対応プラットフォーム」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能の WS-Man を使用して検出されたデバイスの SNMP トラップ。</li> </ul>
Dell EMC シャーシ モニタリング機能	<p>SCOM コンソールの <b>Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード</b> を使用して、次のことをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dell EMC シャーシ、および Dell OEM Ready シャーシ デバイスの検出とモニタリング。</li> <li>CMC シャーシのサーバーモジュールとシャーシスロットサマリの検出。</li> <li>シャーシデバイス用の SNMP トラップ。</li> </ul>
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能	<p>SCOM コンソールの <b>Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード</b> を使用して、次のことをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dell EMC ネットワーク スイッチ デバイスの検出とモニタリング。</li> <li>Dell EMC ネットワークスイッチデバイスの SNMP トラップ。</li> </ul>

DRAC モニタリング機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーでは廃止されています。デル・テクノロジーズでは、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーを監視するために、エージェントフリー Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション ( ライセンス対象 ) のモニタリング機能の使用をお勧めします。

## SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスのメリット

- OMIMSSC と SCOM コンソールを統合することによって、データセンターの動作をシンプルにします。
- PowerEdge サーバーのエージェントフリーのモニタリングアーキテクチャを使用します。
- 管理ダッシュボードを使用してデバイスのモニタリングを簡易化します。
- 運用コストを削減し、有効性を高めるとともに、管理者が付加価値のあるタスクを実行できるようにします。
- SCOM 管理グループで Dell EMC アラート リレー サーバー ( 以前のプロキシ管理サーバー ) を構成することによって、監視能力を高めます。
- VHD または OVA ファイル形式を使用して、Hyper-V または ESXi のどちらかに導入できます。

## SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスによって提供される機能と、SCOM 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack の機能を比較します。

機能	SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの機能	SCOM 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack ( 旧 SCOM 向け Dell EMC Server Management Pack Suite ) の機能
提供されるソリューション	OMIMSSC は SCOM と統合されています。このソリューションでは、PowerEdge サーバー、シャーシ、およびネットワーク スイッチを含む Dell EMC デバイスのエージェントフリーのモニタリングを提供します。	Dell EMC PowerEdge サーバーのエージェントベースのモニタリングソリューションを提供します。

機能	SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの機能	SCOM 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack (旧 SCOM 向け Dell EMC Server Management Pack Suite) の機能
検出およびモニタリング機能	次のプラットフォームでエージェントフリーの検出とモニタリングが可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション</li> <li>PowerEdge モジュラー型インフラストラクチャ</li> <li>ネットワーク スイッチ</li> </ul>	ソフトウェアベースのエージェント (OMSA) を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションの検出とモニタリング。
ライセンス対象機能	OMIMSSC アプライアンスには、iDRAC エージェントフリーと iSM を使用した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能のライセンスがあります。	特にありません。Dell EMC PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのエージェントベースのモニタリングソリューションを提供します。
ライセンス不要機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>Dell EMC シャーシ モニタリング機能</li> <li>Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー モニタリング機能</li> <li>Dell EMC シャーシおよびモジュラー型サーバー 関連機能</li> <li>Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OMSA を使用した Dell EMC サーバーとラック型ワークステーションのモニタリング</li> <li>Dell Remote Access Controller (DRAC) モニタリング機能</li> </ul>
Dell EMC アラート リレー サーバー (旧プロキシ管理サーバー) の必要性	OMIMSSC アプライアンスでアラート リレー サーバーが必要か — はい。Dell EMC デバイスを検出する前に Dell EMC アラート リレー サーバーを設定およびオンボーディングする方法の詳細については、 <a href="#">「Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング」</a> 、p. 31] を参照してください。	System Center Operations Manager 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack でアラート リレー サーバーが必要か - 該当なし
サポートされるノード数	600 以上 (1,000 デバイスの倍数)。アラート リレー サーバーを構成する方法の詳細については、サポート サイトの『 <i>System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) による拡張性</i> 』テクニカル ホワイトペーパーを参照してください。	最大 600 デバイス。

System Center Operations Manager 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack の詳細については、サポート サイトにある『System Center Operations Manager 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack ユーザーズ ガイド』を参照してください。

## 本リリースの新機能

- 次によって、OMIMSSC アプライアンスのエージェントフリー監視へのオンボーディングはシームレスになります。
  - OMIMSSC アプライアンスで SCOM 管理グループと Dell EMC アラート リレー サーバー (旧称プロキシ管理サーバー) を登録するための、ウィザードベースの機能拡張
  - SCOM コンソールの監視機能をスケールアップして複数の Dell EMC デバイスを検出および監視するために、アラート リレー サーバー インストーラーをオンボーディングして設定する、Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラー
  - SCOM コンソールの SNMP 監視プロファイルは、SCOM 管理グループの登録後に Dell EMC ハードウェア クラスに自動的に関連づけられ、アラート受信機能がシームレスになります。
- OMIMSSC 管理ポータルで Windows 認定資格プロファイルの作成、編集、削除を行うオプション
- オンライン (<https://linux.dell.com/repo/omimssc-scom/latest/>) またはオフラインのカスタム リポジトリを使用して、最新の OMIMSSC アプライアンス バージョンに更新できます。インポートされた Dell EMC 管理パック、アプライアンス カーネル RPM、およびアプリケーション RPM は自動的に更新されます。
- [アップデートおよび推奨] ページでは、SCOM コンソール管理者は、対応 PowerEdge サーバー、AX ノード、S2D Ready Node に対して、OMIMSSC アプライアンスとエージェントフリー管理パックをインストールまたはアップデートする推奨通知を受け取ります。
- 次をサポートします。

- System Center Operations Manager 2019 のロールアップ 3 のアップデート
- System Center Operations Manager 2016 のロールアップ 10 のアップデート
- 次の最新の iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーのサポート。
  - PowerEdge R7525、R6525、R7515、R6515
  - PowerEdge R750、R650、R750xa
  - PowerEdge R450、R550、R750xs、R650xs
  - PowerEdge C6525、C6520
  - PowerEdge MX750c
  - PowerEdge XR12、XR11
- 次の最新の SmartFabric OS10 ベース ネットワーク スイッチのサポート : MX5108N、MX9116N、S4112F-ON、S4112T-ON、S4128F-ON、S4128T-ON、S4148F-ON、S4148FE-ON、S4148T-ON、S4148U-ON、S4248FB-ON、S4248FBL-ON、S5148F-ON、S5212F-ON、S5224F-ON、S5232F、S5248F-ON、S5296F-ON、S6010-ON、Z9264F-ON
- 次の AX ノードのサポート :
  - AX-7525
  - AX-740xd
  - AX-6515
  - AX-640
- 次の Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready Node のサポート :
  - Storage Spaces Direct R740xd Ready Node
  - Storage Spaces Direct R740xd2 Ready Node
  - Storage Spaces Direct R640 Ready Node
  - Storage Spaces Direct R440 Ready Node
- セキュリティの強化 :
  - セキュア HTTP アクセス (HTTPS) の場合、OMIMSSC アプライアンスは認証局 (CA) またはエンタープライズ CA 署名付き証明書をサポートします。
  - 継続的なセキュリティ強化の一環として、このリリースではセキュリティ関連のさまざまな改善が実装されています。

# OMIMSSC ライセンスの購入と管理

OMIMSSC の Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能はライセンスの対象です。ライセンスは、監視するノード数に応じて購入する必要があります。ノードとは、iDRAC IP (エージェント フリー、WS-Man を使用) または iSM (エージェント ベース、WMI を使用) を使用してモニタリングされるサーバーです。

## トピック：

- OMIMSSC のライセンス タイプ
- OMIMSSC のライセンス対象機能
- OMIMSSC のライセンス不要機能
- OMIMSSC ライセンスの購入
- OMIMSSC 管理ポータルでのライセンスのインポート
- SCOM コンソールでの OMIMSSC ライセンス使用状況の確認

## OMIMSSC のライセンス タイプ

- 評価ライセンス - 最大5つのノードをサポートするライセンスの試用版。デフォルトでは、OMIMSSC アプライアンスには、最大5つのノードを検出してモニタリングできる評価ライセンスが付属しています。
- 本番ライセンス - OMIMSSC によってモニタリングするノード数に基づいて購入します。ライセンス購入の詳細については、[OMIMSSC ライセンスの購入](#)、p. 13 を参照してください。

**メモ:** 評価版ライセンスと本番ライセンスはどちらもノードベースのライセンスであり、PowerEdge サーバーの世代 (第13世代、iDRAC9 ベースなど) に固有のものです。サーバーを廃棄した後で、そのサーバーに関連付けられているライセンスを PowerEdge サーバーの他のノード (世代が同じでも異なっても) に再使用することはできません。Dell Technologies から新しいライセンスを購入する必要があります。

## OMIMSSC のライセンス対象機能

OMIMSSC アプライアンスには、iDRAC エージェント フリーと iSM を使用する Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能のライセンスがあります。

## OMIMSSC のライセンス不要機能

- Dell EMC シャーシ モニタリング機能
- Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー モニタリング機能
- Dell EMC シャーシおよびモジュラー型サーバー 関連機能
- Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能

## OMIMSSC ライセンスの購入

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能を利用するには、デル・テクノロジーズから (管理対象ノードの必要数に応じて) ライセンスを購入する必要があります。ご注文の確認とライセンスが、[ **マイ アカウント—Dell** ] で指定した E メール アドレスに送信されます。購入したライセンスは、<https://www.dell.com/support/software/us/en/04> の Dell Digital Locker ポータルからもダウンロードできます。ライセンスをダウンロードできない場合は、<https://www.dell.com/support/incidents-online/in/en/inbsd1/ContactUs/Dynamic> にアクセスして、デル・テクノロジーズのカスタマーサポートに E メールを送信してください。

ライセンスは、製品エンドユーザー ライセンス契約 (EULA) と同じ条件で規定されています。更新された最新のライセンス条件は、[Dell.com/learn/us/en/uscorp1/terms?s=corp](https://www.dell.com/learn/us/en/usccorp1/terms?s=corp) にあります。詳細については、デル・テクノロジーズの営業およびサポートにお問い合わせください。

## OMIMSSC 管理ポータルでのライセンスのインポート

ライセンスを購入した後、OMIMSSC 管理ポータルにインポートできます。

1. OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. 左ペインを展開し、[ライセンス センター] を選択します。
3. [[ライセンス センター]] ページで [インポート] をクリックし、インポートする XML ファイルを選択します。

[ライセンス サマリー] セクションには、ライセンスされているノード、使用中のノード、検出可能なノードの合計数が表示されます。ライセンスの詳細 (利用資格 ID、製品 ID、合計容量) が [ライセンスの管理] セクションに表示されます。

## SCOM コンソールでの OMIMSSC ライセンス使用状況の確認

SCOM の Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能によって管理される PowerEdge サーバーを表示するには、次のようにします。

1. SCOM コンソールの左ペインで、[モニタリング] を選択します。
2. [Dell EMC] > [Dell EMC Feature Management Dashboard] の順に展開します。

使用されているノード数が **ノードの合計数**列に表示されます。

# OMIMSSC アプライアンスのポート情報と通信マトリックス

OMIMSSC によって監視する必要のあるアプリケーションとデバイスを OMIMSSC アプライアンスに接続するには、OMIMSSC と SCOM 管理サーバーで特定のポート、プロトコル、および通信ネットワークが使用可能であり、有効になっていることを確認する必要があります。

表 2. OMIMSSC アプライアンスのポート情報

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
HTTP サーバー	80	TCP	入力	OMIMSSC 管理ポータル	OMIMSSC アプライアンス	OMIMSSC 管理ポータルのロード中に HTTP から HTTPS へのリダイレクトに使用
SCOM へのインベントリまたは正常性のアップデート	111	TCP	入力	SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	アプライアンスは NFS 共有を許可して、インベントリの詳細を管理パックに共有します。
SCOM ビューからの UI 操作	443	TCP	入力	SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	SCOM コンソールから起動された OMIMSSC ダッシュボードを使用した UI 操作
NFS 共有	2049	TCP/UDP	入力	SCOM 管理サーバー	NFS	OMIMSSC アプライアンスによって登録およびデバイス正常性モニタリングフローで使用される管理対象ノードおよびシステムに使用されている共有 NFS
NFS 共有	4003	TCP/UDP	入力	SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	Mountd サービスに使用
DNS クライアント	53	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	DNS Server (DNS サーバー)	ホスト名を解決するための DNS サーバーへの接続性
動的ネットワーク設定	67 および 68	UDP	出力	OMIMSSC アプライアンス	DHCP サーバー	IP、ゲートウェイ、ネットマスク、DNS、DHCP などのネットワーク詳細情報の入手に使用
インターネット	80	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	Dell オンラインデータアクセス	SCOM の OMIMSSC アプライアンスのサービスパックアップデートリポジトリに接続する際に使用
SNMP	161	UDP	出力	OMIMSSC アプライアンス	管理対象ノード (iDRAC、CMC、ネットワークデバイス)	インベントリと正常性情報を収集するために、管理対象ノードに接続する際に使用
HTTPS サーバー	443	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	管理対象ノード (iDRAC、CMC、ネットワークデバイス)	WS-Man、Redfish、または SNMP を使用します。
Windows ネットワーク共有	445/139	SMB	出力	OMIMSSC アプライアンス	Windows ネットワーク共有	OMIMSSC アプライアンス設定およびデータのファイルのバックアップおよび復元に使用

表 2. OMIMSSC アプライアンスのポート情報 ( 続き )

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
アプライアンスと管理対象システムホスト OS 間の PowerShell 接続性	5985 および 5986	TCP	出力	OMIMSSC アプライアンス	SCOM 管理サーバー	Windows イベントは、リモート PowerShell を使用して作成されます。 Dell EMC 管理パック ルールは、イベントを監視して SCOM DB をアップデートします。

表 3. SCOM 管理サーバーおよび Dell EMC アラート リレー サーバーのポート情報

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
SNMP トラップ	162	UDP	入力	iDRAC、CMC、ネットワーク デバイス	すべての SCOM 管理サーバーおよび Dell EMC アラート リレー サーバー	OMIMSSC は、デバイス全体をすべてのアラート リレー サーバーに分散させます。 アラート リレー サーバーはアラートを受信し、Windows イベントに変換します。
SCOM への正常性またはメトリックのアップデート	5985 および 5986	TCP	入力	OMIMSSC アプライアンス	すべての SCOM 管理サーバー	PowerShell コマンドはアプライアンスから開始されます。
SCOM へのインベントリーまたは正常性のアップデート	111 および 2049	TCP および UDP	出力	すべての SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	アプライアンスは NFS 共有を許可して、インベントリーの詳細を管理パックに共有します。
UI 操作	443	TCP	出力	すべての SCOM 管理サーバー	OMIMSSC アプライアンス	SCOM コンソールから起動された OMIMSSC ダッシュボードを使用した UI 操作

表 4. Dell EMC デバイスのポート情報 ( iDRAC、CMC、OME-Modular、ネットワーク スイッチ )

通信目的	ポート番号	プロトコル	方向	ソース	送信先	説明
SNMP トラップ	162	UDP	出力	iDRAC、CMC、またはネットワーク デバイス	すべての SCOM 管理サーバーおよび Dell EMC アラート リレー サーバー	OMIMSSC は、デバイス全体をすべてのアラート リレー サーバーに分散させます。 アラート リレー サーバーはアラートを受信し、Windows イベントに変換します。
デバイスからの正常性、メトリック、またはインベントリー収集	443	TCP	入力	OMIMSSC アプライアンス	iDRAC、CMC、またはネットワーク デバイス	WS-Man、Redfish、または SNMP を使用します。

# サポートマトリックス

SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの導入および構成を開始する前に、次のソフトウェアとハードウェアの要件が満たされていることを確認します。

表 5. サポートマトリックス

対応ソフトウェアおよびハードウェア	要件とバージョン
Microsoft System Center—Operations Manager ( SCOM )	<p>次の SCOM ビルド番号のいずれかが、SCOM 管理サーバーにすでにインストールされている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOM 1807</li> <li>● SCOM 1801</li> <li>● SCOM 2012 R2 - ロールアップ 14 のアップデート サポート</li> <li>● SCOM 2016 - ロールアップ 10 のアップデート サポート</li> <li>● SCOM 2019 - ロールアップ 2 および 3 のアップデート サポート</li> </ul> <p><b>① メモ:</b> Windows Server 2016 オペレーティングシステムの Nano Server バージョンを実行しているシステムでは、Microsoft サポート技術情報 KB3190029 に記載されている <i>Microsoft System Center 2016 - Operations Manager 用アップデート ロールアップ1</i> を適用します。詳細については、<a href="https://support.microsoft.com/en-us/help/3190029/update-rollup-1">https://support.microsoft.com/en-us/help/3190029/update-rollup-1</a> を参照してください。</p> <p>Microsoft のガイドラインに従って、以前のバージョンから SCOM の最新バージョンにアップグレードすることができます。サポートされているアップグレードシナリオの詳細については、Microsoft System Center のマニュアルを参照してください。</p>
Microsoft Hyper-V マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Windows Server 2019 上 : Microsoft Corporation Version : 10.0.17763.1</li> <li>● Windows Server 2016 上 : Microsoft Corporation Version : 10.0.14393.0</li> <li>● Windows Server 2012 R2 上 : Microsoft Corporation Version : 6.3.9600.16384</li> </ul>
VMware ESXi	7.0 アップデート 2、7.0 アップデート 1、6.7 アップデート 3、および 6.5
ウェブブラウザ	<p>OMIMSSC 管理ポータルを起動するには、次の Web ブラウザーのいずれかを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Microsoft Internet Explorer 11 以降</li> <li>● Mozilla Firefox 30 以降</li> <li>● Google Chrome 23 以降</li> <li>● Microsoft Edge</li> </ul>
SCOM コンソールを使用して管理サーバーに OMIMSSC を導入するための Windows の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次の Windows ファイアウォールルールを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ SCOM SNMP Response</li> <li>○ SCOM SNMP トラップ リスナー</li> <li>○ SCOM Ping 応答</li> </ul> </li> <li>● Windows PowerShell 3.0 以降 ( システムで Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムを実行している場合 )。</li> </ul>
OMIMSSC アプライアンス用 RAM	最小サイズ : 8 GB
OMIMSSC アプライアンス用のプロセッサ コア	4 OMIMSSC アプライアンスが OVA 形式を使用して導入されている場合は、デフォルトで CPU コアが設定されています。VHD 形式を使用する場合は、導入プロセス中に VM の CPU コアを設定する必要があります。
OMIMSSC アプライアンス VM が導入されているシステム上のハードドライブ。	最小サイズ : 40 GB

表 5. サポートマトリックス ( 続き )

対応ソフトウェアおよびハードウェア	要件とバージョン	
<b>管理サーバー ( MS ) の要件</b>		
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCOM 2019 については、 <a href="https://www.docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/?view=sc-om-2019">https://www.docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/?view=sc-om-2019</a> を参照してください。</li> <li>SCOM 2016 については、 <a href="https://www.docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/?view=sc-om-2016">https://www.docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/?view=sc-om-2016</a> を参照してください。</li> <li>SCOM 2012 R2 については、 <a href="https://www.docs.microsoft.com/en-us/previous-versions/system-center/system-center-2012-R2">https://www.docs.microsoft.com/en-us/previous-versions/system-center/system-center-2012-R2</a> を参照してください。</li> </ul> シャーシの詳細と拡張可能エディションは、SCOM 2019、SCOM 2016、SCOM 2012 R2 でのみサポートされています。	
<b>管理下システム要件</b>		
<b>OMIMSSC の機能</b>	<b>対応ソフトウェアおよびハードウェア</b>	<b>要件とバージョン</b>
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 )	Lifecycle Controller 搭載の iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー	ファームウェア バージョン 4.40.40.00 以前のバージョン
	Lifecycle Controller 搭載の iDRAC8 ベースの PowerEdge 第 13 世代サーバー	ファームウェア バージョン 2.xx.xx.xx
	iDRAC7 ベースの PowerEdge 第 12 世代サーバー	ファームウェア バージョン 1.6x.6x および 2.xx.xx.xx
iDRAC サービス モジュール ( iSM ) のモニタリング機能	iDRAC9 ベースおよび第 13 世代 PowerEdge サーバー用 iSM	4.0.1、3.5.1、および 3.4.0
Dell EMC シャーシ モニタリング機能	Dell EMC PowerEdge FX2/FX2s	ファームウェア バージョン 2.21 および 2.20
	Dell EMC PowerEdge VRTX	ファームウェア バージョン 3.21 および 3.20
	Dell EMC PowerEdge M1000e	ファームウェア バージョン 6.21 および 6.20
OpenManage Enterprise - Modular モニタリング機能	Dell EMC PowerEdge MX7000	ファームウェア バージョン 1.10.20 および 1.10.10
DRAC モニタリング機能	Lifecycle Controller 搭載 iDRAC8 モジュラー型およびモノリス型	ファームウェア バージョン 2.xx.xx.xx
	iDRAC7 モジュラー型およびモノリス型	ファームウェア バージョン 2.xx.xx.xx および 1.6x.6x
	iDRAC6 モノリス型	ファームウェア バージョン 2.92 および 2.85
	iDRAC6 モジュラー型	ファームウェア バージョン 3.80 および 3.65
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能	N Series のネットワーク スイッチ	ファームウェア バージョン 6.6.xx.xx および 6.5.xx.xx
	M、S、および Z Series のネットワーク スイッチ	ファームウェア バージョン 10.xx.xx.xx、9.14.xx.xx、および 9.13.xx.xx

**シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能**

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能は、シャーシ スロットのモジュラー型ブレードとの相関に使用されます。モジュラー型ブレードは、サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能、またはサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング ( ライセンス対象 ) 機能を使用して検出することができます。サポートされている Dell EMC シャーシ、iDRAC、iSM、および OMSA バージョンについては、それぞれの対応するファームウェア バージョンのセクションを参照してください。

**メモ:** OMIMSSC は、グループ内のいずれかの SCOM 管理サーバーの登録を通じて、1つの SCOM 管理グループの登録をサポートします。

① **メモ:** ゲートウェイ サーバーの場合、デバイスを検出するには OMIMSSC アプライアンスから iDRAC にアクセスできる必要があります。

**トピック:**

- SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用するために必要なユーザーの役割

## SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用するために必要なユーザーの役割

- Windows 認定資格プロフィール ユーザー アカウントを作成します。
- ユーザーは次のメンバーである必要があります。
  - ドメイン ユーザー グループ。
  - SCOM 管理サーバーおよびアラート リレー サーバー上のローカル管理者グループ。
  - 運用マネージャー管理者グループ。

# SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの導入と構成

データセンター内の Dell EMC デバイスやその他のモニタリングアプリケーションを監視するために、OMIMSSC アプライアンスと統合することで、Microsoft System Center—Operations Manager (SCOM) を共通のインターフェイスとして使用することができます。管理者は、OMIMSSC を導入して構成した後、関連付けられている SCOM 管理サーバーを登録する必要があります。

OMIMSSC アプライアンスの導入プロセスの概要：

- Hyper-V または ESXi に OMIMSSC を導入します。
- OMIMSSC コマンドライン インタフェース (CLI) を使用して、管理者として初めてログインします。
- 初回ログインの後に、OMIMSSC VM を設定します。
- SCOM 用の OMIMSSC アプライアンスを使用して、SCOM 管理サーバーと Dell EMC アラート リレー サーバーを登録します。

**メモ:** OMIMSSC を使用して SCOM 管理サーバーを正常に登録し、Dell EMC 管理パックをインストールするには、次の手順を実行します。

- OMIMSSC の導入時に、VM でゲスト時間とホストオプションの同期が有効になっていることを確認します。
- OMIMSSC VM ネットワーク設定の構成中に、IPv4 構成で固定 IP アドレスを割り当てる場合は、IP アドレスを入力して変更を保存します。CLI で [ ネットワークの設定 ] オプションを再度開いて、ホスト名を変更します。[OMIMSSC VM のネットワーク設定](#)、p. 24 を参照してください。

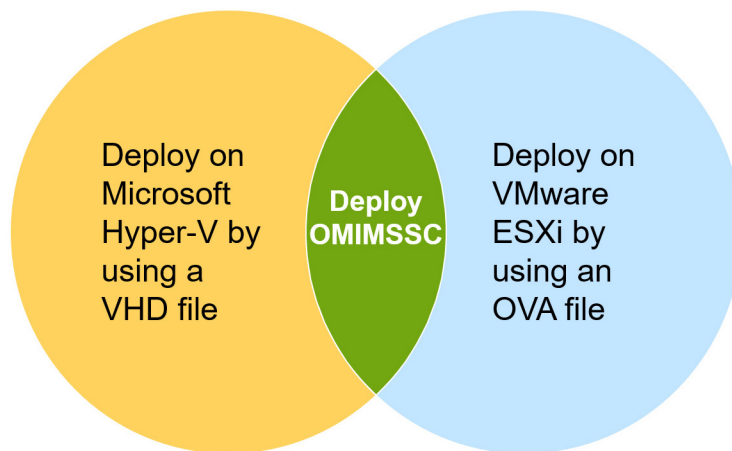


図 2. SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの導入

SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの導入を開始する前に、デル・テクノロジーズは以下を読むことをお勧めします。

- 「サポート マトリックス」セクションで、サポートされているハードウェアとソフトウェアの要件を確認してください。
- サポート サイトで入手可能な最新の OMIMSSC リリース ノート。OMIMSSC の新機能、制限事項、既知の問題に関する情報を確認してください。

**トピック：**

- サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード
- SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入する前に
- Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定
- ESXi での OMIMSSC の導入と設定
- OMIMSSC アプライアンスの設定
- 登録およびデバイス管理のための OMIMSSC および SCOM インターフェイス

# サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード

## 手順

1. デル・テクノロジーのサポート サイトから OMIMSSC の ZIP ファイルをダウンロードします。

- メモ:** ライセンス キーをダウンロードできない場合は、[www.dell.com/support/softwarecontacts](http://www.dell.com/support/softwarecontacts) にアクセスして、デル・テクノロジーのサポートに問い合わせてください。製品について、地域のデル・テクノロジーのサポート電話番号を探します。

2. VHD または OVA ファイルを解凍して、OMIMSSC アプライアンスをセットアップします。

- メモ:** VHD ファイルを解凍する前に、OMIMSSC アプライアンスを導入するシステムに 60 GB 以上のディスク空き容量を確保するようにしてください。

## SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入する前に

Hyper-V または ESXi のいずれかの方法を使用して OMIMSSC を導入する前に、次のことを確認します。

- 仮想スイッチまたは VM ネットワークが管理グループのネットワーク内で有効になっており、OMIMSSC アプライアンスおよび Management Server と通信できる。
- Hyper-V または ESXi ホストのいずれかに VM で推奨されるメモリー容量がある。「サポート マトリックス」セクションを参照してください。

OMIMSSC アプライアンスの導入は、次の方法のいずれかでを行います。

- Hyper-V を使用している場合は、VHD ファイルを使用して VM を導入します。[Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定](#)、p. 21 を参照してください。
- VMware ESXi を使用している場合は、OVA ファイルを使用して VM を導入します。[ESXi での OMIMSSC の導入と設定](#)、p. 22 を参照してください。

NTP サーバーをセットアップして、Hyper-V ホストまたは ESXi ホストと SCOM Management Server の間で時刻を同期させられます。

## Hyper-V での OMIMSSC の導入と設定

### このタスクについて

Hyper-V Manager UI を使用して、Hyper-V に OMIMSSC を導入することができます。

前提条件：

- ソフトウェアとハードウェアの要件が満たされており、必要なユーザーの役割が設定されていることを確認します。「サポート マトリックス」セクションを参照してください。
- 必要な OMIMSSC ZIP ファイルがサポート サイトからダウンロードされ、VHD ファイルが導入用に抽出されます。[サポート サイトからの OMIMSSC のダウンロード](#)、p. 21 を参照してください。
- [SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入する前に](#)、p. 21 のガイドラインに従っていることを確認します。

OMIMSSC を Hyper-V に導入するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. Hyper-V Manager で、[アクション メニュー] から [新規] > [仮想マシン] の順に選択します。

[仮想マシンの新規作成ウィザード] が表示されます。

- [始める前に] セクションで、手順を読み、[次へ] をクリックします。
- [名前と場所の指定] セクションで、VM の名前を入力し、[次へ] をクリックします。  
VM を別の場所に保存する場合は、[仮想マシンを別の場所に格納する] チェック ボックスを選択します。[参照] をクリックし、新しい場所を選択します。
- [世代の指定] セクションで、[第1世代] を選択してから、[次へ] をクリックします。
- [メモリーの割り当て] セクションで、新しく作成された VM のディスク領域を割り当てます。例えば、8,192 MB を選択します。

- e. [ ネットワークの設定 ] セクションで、[ 接続 ] ドロップダウン メニューから、新しい VM に使用するネットワークを選択します。
  - f. [ 次へ ] をクリックします。
  - g. [ 仮想ハード ディスクの接続 ] セクションで、[ 既存の仮想ハード ディスクを使用する ] を選択します。
  - h. OMIMSSC VHD ファイルが保存されている場所を参照し、そのファイルを選択します。
  - i. [ サマリー ] セクションで、入力したデータを確認し、[ 終了 ] をクリックします。
2. 仮想プロセッサの数の値を 4 に設定します。デフォルトでは、プロセッサの数が 1 に設定されています。プロセッサ数を設定するには次のようにします。
    - a. VM のリストで、[ OMIMSSC ] を右クリックしてから [ 設定 ] を選択します。
    - b. [ 設定 ] ダイアログ ボックスの左ペインで、[ プロセッサ ] を選択します。
    - c. [ 仮想プロセッサ数 ] ボックスで、4 を入力または選択します。
    - d. [ OK ] をクリックします。
  3. Hyper-V でホストされている VM で [ 時刻同期オプション ] を有効にするには、次の手順を実行します。
    - a. Hyper-V 上にホストされている VM を選択します。
    - b. VM を右クリックして、[ 設定 ] を選択します。
    - c. [ 管理 ] > [ 統合サービス ] > [ 時刻同期 ] の順にクリックします。  
Hyper-V および SCOM Management Server の時間が同期されます。

## OMIMSSC アプライアンスが Hyper-V でホストされていることの確認

### このタスクについて

OMIMSSC を Hyper-V に導入した後、必要な構成で OMIMSSC が Hyper-V でホストされていることを確認するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. OMIMSSC アプライアンス VM を右クリックし、[ 設定 ] をクリックします。
2. メモリー スペースとプロセッサ数が推奨どおりであることを確認します。
  - a. 要件を満たしていない場合、スタートアップ RAM にメモリーを増設し、[ 適用 ] をクリックします。
3. プロセッサ数が推奨どおりであることを確認します。
  - a. 要件を満たしていない場合は、[ プロセッサ数 ] の [ 仮想プロセッサ数 ] にプロセッサ数を指定します。
4. [ IDE コントローラー : IDE コントローラー 0 ] > [ ハード ドライブ ] の順にクリックして、[ 仮想ハードディスク ] フィールドが OMIMSSC ファイルを示していることを確認します。
  - a. 示していない場合は、[ 参照 ] をクリックして、OMIMSSC の抽出されたファイルを選択します。
  - b. [ 適用 ] をクリックします。
5. 仮想スイッチが物理 NIC に接続されていることを確認します。
  - a. 接続されていない場合は、NIC を構成し、[ 仮想スイッチ ] ドロップダウン メニューから適切な NIC を選択します。
  - b. [ 適用 ] をクリックします。
6. [ Hyper-V マネージャー ] メニューで、アプライアンス VM を右クリックし、次の手順を実行します。
  - a. [ 接続 ] をクリックし、[ 起動 ] をクリックします。  
選択されたアプライアンスの VD で新たに作成された VM がカーネル パニック例外で起動しない場合は、VM の設定を編集します。VM の動的メモリー オプションを有効にします。

## ESXi での OMIMSSC の導入と設定

### このタスクについて

ESXi を使用して OMIMSSC を導入する前に、圧縮された ZIP ファイルからローカル ドライブに OVA ファイルが解凍されていることを確認します。OMIMSSC を ESXi に導入するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. IP アドレスを使用して ESXi を起動します。  
[ VMware ESXi ] のログインページが表示されます。
2. ユーザー名とパスワードを入力して、[ ログイン ] をクリックします。

3. 左ペインで、[ 仮想マシン ] を選択します。
4. 仮想マシンを作成するには、[ VM の作成/登録 ] を選択します。  
[ 仮想マシンの新規作成 ] ウィザードが表示されます。
  - a. [ 作成タイプの選択 ] で [ OVF または OVA ファイルから仮想マシンを導入 ] を選択します。
  - b. [ 次へ ] をクリックします。
  - c. [ OVF および VMDK ファイルを選択 ] セクションで、作成する仮想マシンの名前を入力します。
  - d. [ ファイルをクリックして選択またはドラッグ/ドロップ ] を選択します。
  - e. *OMIMSSC\_xx.ova* ファイルをダブルクリックします。OVA 管理パックがインストール プロセスにアップロードされます。
  - f. [ 次へ ] をクリックします。
  - g. [ ストレージの選択 ] セクションで、設定ファイルと VD ファイルを保存するストレージまたはデータストアを選択します。
  - h. [ 次へ ] をクリックします。
  - i. [ 導入オプション ] セクションで、必要なネットワーク マッピングを選択します。
    - デフォルトでは、ディスク プロビジョニング機能は [ シン ] として選択されています。
    - 仮想マシンの電源を自動的にオンにするオプションが有効になります。
  - j. [ 次へ ] をクリックします。
  - k. [ 終了準備完了 ] セクションで、指定した設定を確認し、[ 終了 ] をクリックします。  
仮想マシンの作成プロセスが開始されます。[ 最近のタスク ] ペインでステータスを確認できます。
5. ESXi でホストされている VM の [ ゲスト時刻とホストを同期 ] オプションを有効にします。
  - a. 仮想マシンを選択して、[ 編集オプション ] をクリックします。
  - b. [ VM オプション ] を選択します。
  - c. [ VMware ツール ] > [ 時刻 ] > [ ゲスト時刻をホストと同期 ] の順に選択します。


## OMIMSSC アプライアンスの設定

### このタスクについて

OMIMSSC アプライアンスを導入した後、初めて OMIMSSC に管理者としてログインするときには、次の手順を実行します。

### 手順

1. VM のリストで、[ OMIMSSC ] を右クリックしてから [ 接続 ] を選択します。  
デフォルトでは、VM は電源オフ モードです。
2. メニューバーで [ 起動 ] 記号をクリックします。
3. ログインを試行する前に、すべてのサービスが開始されるまで 5 分間待ちます。
4. CLI で、次のように入力します。
  - `localhost login=admin`
  - Enter new Admin password=安全で強力なパスワードを入力します。
  - Please confirm new Admin password=同じパスワードを再度入力します。

 **メモ:** デル・テクノロジーズでは、アプライアンス管理者ユーザーおよび OMIMSSC ダッシュボードのログイン ページを認証するために強力なパスワードを設定して使用することをお勧めします。
5. Enter を押します。  
コマンド ライン インターフェイス (CLI) が表示されます。

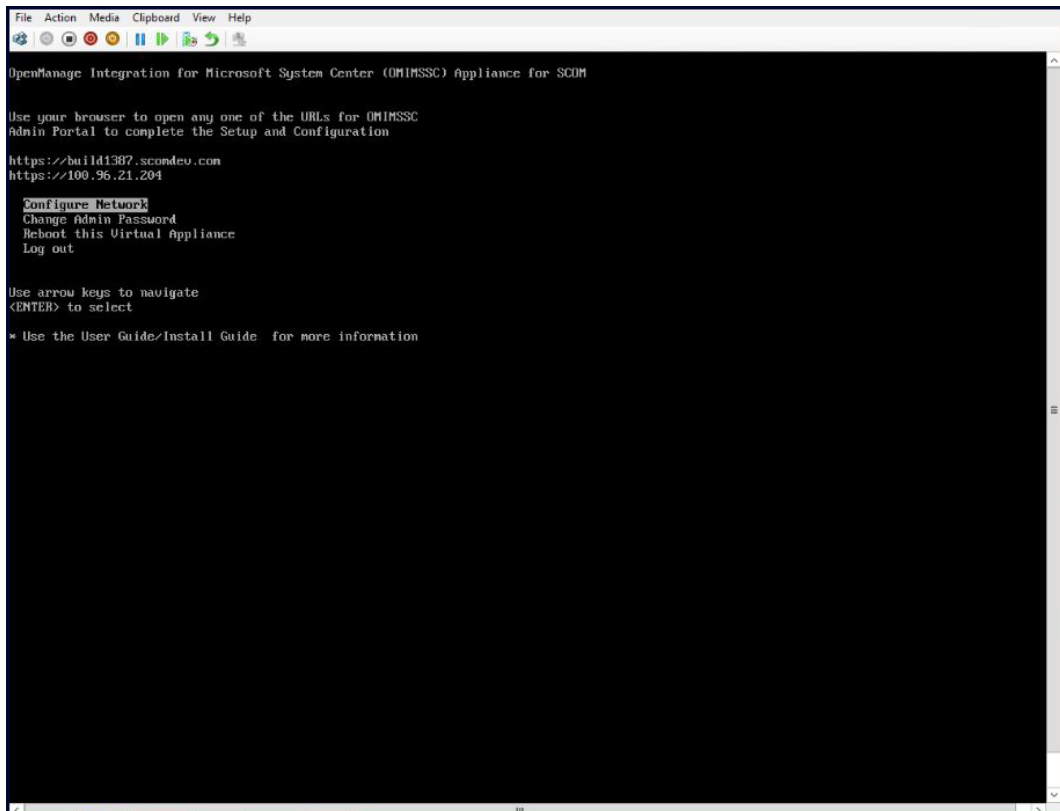


図 3. OMIMSSC コマンドライン インターフェイス

## OMIMSSC VM のネットワーク設定

### このタスクについて

OMIMSSC に初回ログインした後に、SCOM 管理サーバーを使用して OMIMSSC ネットワーク設定を構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. CLI で、[ ネットワークの設定 ] を選択し、Enter を押します。
2. [[ ネットワーク マネージャー ]] セクションで、次の操作を実行します。
  - a. [ 接続の編集 ] を選択し、Enter を押します。
    - i. Ethernet 接続 - eth0 を選択し、[ 編集 ] を選択します。
    - ii. Enter を押します。
  - b. IPv4 アドレスを入力するには、[ IPv4 設定 ] を選択し、次のいずれかを選択します。
    - 自動割り当て：デフォルトでは、[ 自動 ] が選択され、DHCP で割り当てられた IPv4 アドレスが自動的に入力されます。
    - 手動割り当て：オプションを [ 手動 ] に変更し、静的な IPv4 アドレスを入力します。Enter を押します。
  - c. DNS サーバーで DNS の IP アドレスを入力し、Enter を押します。
  - d. [ 戻る ] を選択して CLI に戻り、[ ネットワークの設定 ] を選択して、Enter を押します。
  - e. [ システムホスト名の設定 ] を選択して ENTER を押します。
  - f. [ ホスト名 ] ボックスに、ホストシステムの FQDN を入力し、[ OK ] を押します。  
たとえば、**HostName.DomainName.com** などです。
  - g. 確認を求めるプロンプトが表示されたら、[ Enter ] を押します。
3. CLI から、新しく導入した OMIMSSC アプライアンスの管理ポータル URL を書き留めます。

**メモ:** SCOM 管理サーバーに OMIMSSC アプライアンスからアクセスできることを確認します。

- メモ:** ホスト名 :
- 英数字 (a~z と 0~9)、ハイフン (-)、ピリオド (.) を使用できます。
  - 先頭にハイフンまたはピリオドを使用することはできません。
  - アンダースコア (\_) などの他の特殊文字を含めることはできません。

- メモ:** [ デバイス構成 ] オプションを選択すると、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスを変更できます。
- これ以降、アプライアンスのホスト名は変更しないでください。
  - アプライアンスのネットワーク設定を構成するときに、静的 IP または動的 IP の使用を選択できます。ただし、OMIMSSC アプライアンスを使用して SCOM コンソール上のデバイスを検出して監視している間は、IP アドレスが変更されていないことを確認してください。

4. [ 終了 ] を選択して、Enter を押します。

## 登録およびデバイス管理のための OMIMSSC および SCOM インターフェイス

SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの場合は、実行するデバイス管理タスクのタイプに基づいて、以下でモニタリング操作を実行する必要があります。

- **OMIMSSC 管理ポータル** - サポートされている Web ブラウザーを介してアクセスすることで、OMIMSSC 管理者としてログインして以下を行うことができます。OMIMSSC アプライアンスを使用した SCOM 管理グループの登録、Windows 認定資格プロファイルの変更、登録設定の編集を行ってモニタリング範囲を変更、SCOM 管理グループの登録解除、OMIMSSC アプライアンスの設定およびデータのバックアップおよび復元、さまざまなユーザーによって DELL EMC OMIMSSC で開始されたすべてのジョブの表示、ライセンスの詳細とコンソールの詳細の表示、および SCOM 用 DELL EMC OMIMSSC アプライアンスのアップグレード。
- **SCOM コンソール** - SCOM コンソールには、コンソールで検出されたオブジェクトを表示するための Dell EMC 状態ビュー、アラートビュー、ダイアグラムビュー、およびパフォーマンスメトリックビューがあります。
- **Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** - SCOM コンソールの [ 監視 ] ペインにある Dell EMC フォルダーの下に、ビューとして表示されます。このページは、Dell EMC デバイスの検出、モニタリング、およびパフォーマンス監視に使用します。例えば、SCOM コンソールからの OpenManage Integration Dashboard の開始、Dell EMC デバイス ( PowerEdge サーバー、ラック型ワークステーション、シャーシ、ネットワークスイッチなど ) の検出、デバイス認定資格プロファイルの管理、およびジョブの管理に関連するタスクです。

- メモ:** SCOM コンソールの OMIMSSC 管理ポータルまたは Dell EMC OpenManage Integration Dashboard にアクセスする前に、Internet Explorer ( デフォルトの Web ブラウザーの場合 ) でこれらの設定を構成します。
- [ インターネット オプション ] > [ セキュリティ ] > [ ローカルイントラネット ] > [ サイト ] > [ 詳細 ] の順に移動し、ローカルイントラネットゾーンに含める OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスと FQDN を入力します。
  - [ インターネット オプション ] > [ 詳細 ] > [ セキュリティ ] の順に移動し、[ 暗号化されたページをディスクに保存しない ] オプションの選択を解除します。

## OMIMSSC 管理ポータルへのログイン

このタスクについて

- メモ:** Internet Explorer で、OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする前に、次の設定を構成します。
- [ インターネット オプション ] > [ セキュリティ ] > [ ローカルイントラネット ] > [ サイト ] > [ 詳細 ] の順に移動し、ローカルイントラネットゾーンに含める OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスと FQDN を入力します。
  - [ インターネット オプション ] > [ 詳細 ] > [ セキュリティ ] の順に移動し、[ 暗号化されたページをディスクに保存しない ] オプションの選択を解除します。

OMIMSSC 管理ポータルへのログイン方法 :

手順

1. サポートされている Web ブラウザーを起動して、OMIMSSC の IP アドレスを入力します。  
OMIMSSC の IP アドレスまたは URL の詳細を知るには、[OMIMSSC VM のネットワーク設定](#)、p. 24 を参照してください。
2. OMIMSSC 管理ポータルの [[ ログイン ]] ページで、OMIMSSC 管理者パスワードを入力します。

OMIMSSC 管理者パスワードは、OMIMSSC アプライアンスの構成時に設定します。OMIMSSC アプライアンスの設定、p. 23 を参照してください。

3. [ ログイン ] をクリックします。  
Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center - 管理ポータル ページが表示されます。

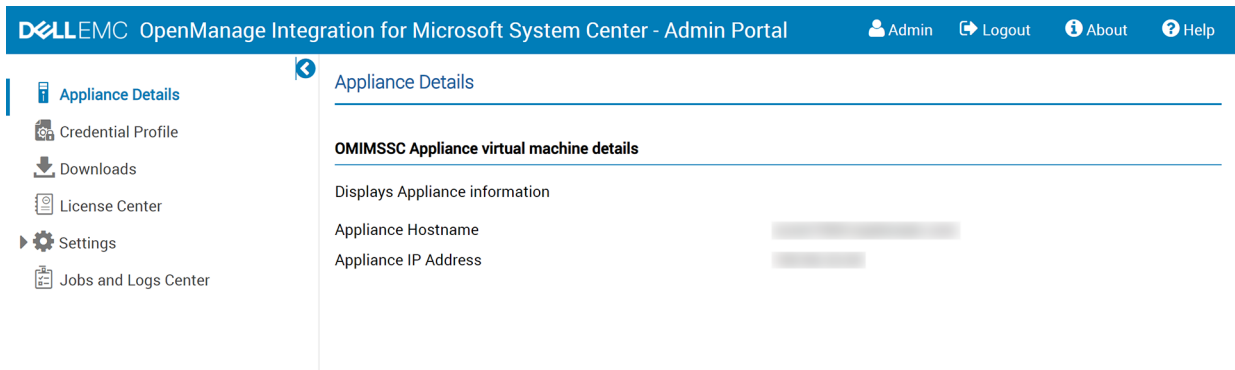


図 4. OMIMSSC 管理ポータル

## OMIMSSC アプライアンスの現在のバージョン、ホスト名、IP アドレスの表示

### 手順

1. OMIMSSC 管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. OMIMSSC アプライアンスのバージョンを表示するには、右上隅の [ バージョン情報 ] をクリックします。  
SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの導入したビルドとバージョンが表示されます。
3. 管理ポータルで左ペインを展開し、[ アプライアンスの詳細 ] をクリックします。  
アプライアンスのホスト名と IP アドレスが作業中のペインに表示されます。

# SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスへの SCOM 管理グループの登録

SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入し、SCOM Management Server にネットワーク プロパティを設定した後、SCOM Management Server を OMIMSSC アプライアンスに登録する必要があります。登録時に、次のアクティビティが実行されます。

- すべての前提条件が Management Server で設定されます。
- Dell EMC 管理パックが、Management Server にコピーされ、SCOM コンソールにインポートされます。

登録ジョブが完了すると、SCOM 向け OMIMSSC を使用して SCOM コンソールで Dell EMC デバイスを検出してモニタリングできます。

SCOM 管理グループ内に複数の SCOM Management Server がある場合は、グループ内のすべての Management Server が OMIMSSC アプライアンスに登録されます。SCOM Management Server が All Management Server Resource Pool ( AMSRP ) に追加または削除された場合は、OMIMSSC に登録されている SCOM コンソールデータを同期する必要があります。OMIMSSC での管理サーバーとの Dell EMC アラート リレー サーバーの詳細の同期、p. 41 を参照してください。

## SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスによる拡張性

より多くのデバイスを追加してインフラストラクチャをスケールアップする場合、SCOM 環境に Dell EMC アラート リレー サーバー (旧プロキシ管理サーバー) を追加することにより、モニタリング機能をシームレスに拡張できます。Dell EMC アラート リレー サーバーを使用すると、Management Server からモニタリング、パフォーマンス メトリック、および SNMP アラートのワークフローをオフロードできます。これにより、SCOM 管理グループ内でモニタリングされるデバイスの数を拡張できます。SCOM コンソールでアラート リレー サーバーをエージェント管理対象 Windows システムとして検出します。

SCOM Management Server と Dell EMC アラート リレー サーバーが同じドメインにあることを確認します。

特定された各システムで、OMIMSSC 管理ポータル の [[ ダウンロード ]] ページから [ Dell EMC アラート リレー サーバー Installer ] をダウンロードしてインストールします。アラート リレー サーバーを設定およびオンボーディングする方法については、[ Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング、p. 31 ] を参照してください。SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスによる拡張性の詳細については、サポート サイトにある『System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) による拡張性』テクニカル ホワイトペーパーを参照してください。

## トピック：

- [Windows 認定資格プロフィールの作成](#)
- [SCOM 用 OMIMSSC を使用した SCOM 管理グループと Dell EMC アラート リレー サーバーの登録](#)
- [登録設定の変更](#)
- [Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング](#)

## Windows 認定資格プロフィールの作成

### このタスクについて

認定資格プロフィールは、ユーザーのロールベースの機能を認証することにより、ユーザー資格情報の使用と管理を簡素化します。各認定資格プロフィールには、単一ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードが含まれています。Windows 認定資格プロフィールは、SCOM 用の OMIMSSC アプライアンスを使用して SCOM 管理グループを登録したり、OMIMSSC アプライアンスのデータをバックアップおよび Windows ネットワーク共有パスから復元したりするために使用されます。

Windows 認定資格プロフィールを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 対応 Web ブラウザーで、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスを入力し、OMIMSSC 管理者ユーザーとしてログインします。[ Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft Windows Center - 管理ポータル ] ページが表示されます。
2. 左ペインを展開するには、[ > ] アイコンをクリックし、[ 認定資格プロフィール ] を選択します。
3. 作業中のペインで、[ 作成 ] をクリックし、次のデータを入力または選択します。

- a. デフォルトでは、[ 認定資格プロフィール タイプ ] のドロップダウン メニューから [ Windows 認定資格プロフィール ] が選択されています。
  - b. プロフィールの名前と説明を入力します。
  - c. [ 認証情報 ] セクションで、OMIMSSC を使用して SCOM 管理サーバーを登録する、または OMIMSSC アプライアンスのデータをバックアップおよび復元するために Windows ネットワーク共有パスにアクセスするユーザーのユーザー資格情報を入力します。  
ユーザーは、管理グループ内のすべての管理サーバーでローカル管理者権限を持つドメイン ユーザーである必要があり、運用マネージャー管理者の役割に追加されている必要があります。
  - d. SCOM 管理グループのドメイン名を入力します。
4. [ 終了 ] をクリックします。

### タスクの結果

新しい Windows 認定資格プロフィールが正常に作成され、[ 認定資格プロフィール ] ページに表示されます。


## Windows 認定資格プロフィールの変更

### 手順

1. OMIMSSC 管理ポータルで、[ > ] アイコンをクリックして左ペインを展開し、[ 認定資格プロフィール ] を選択します。
2. 編集する Windows 認定資格プロフィールを選択し、[ 編集 ] をクリックします。
3. 設定を変更して、[ 完了 ] をクリックします。

## Windows 認定資格プロフィールの削除

### このタスクについて

 **メモ:** 登録または登録編集ジョブで使用されている Windows 認定資格プロフィールは削除できません。

### 手順

1. OMIMSSC 管理ポータルで、[ > ] アイコンをクリックして左ペインを展開し、[ 認定資格プロフィール ] を選択します。
2. 削除する Windows 認定資格プロフィールを選択し、[ 削除 ] をクリックします。
3. [[ 認定資格プロフィールの削除 ]] ページで [ はい ] をクリックして、Windows 認定資格プロフィールの削除を確認します。

# SCOM 用 OMIMSSC を使用した SCOM 管理グループと Dell EMC アラート リレー サーバーの登録

### 前提条件

すべての SCOM 管理サーバーでリモート PowerShell を有効にします。

### 手順

1. サポートされている Web ブラウザーで、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスを入力し、OMIMSSC ADMIN ユーザーとしてログインします。  
SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの構成中に、OMIMSSC ADMIN のユーザー資格情報を使用する必要があります。[OMIMSSC アプライアンスの設定](#)、p. 23 を参照してください。
2. 左ペインを展開するには、[ > ] アイコンをクリックして、[ 設定 ] > [ コンソール登録 ] の順に選択します。
3. 作業ペインで、[ 登録 ] をクリックします。
4. [ SCOM 用 OMIMSSC のオンボードの概要 ] ダイアログ ボックスには、SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用した SCOM 管理サーバーの登録プロセスの概要、Dell EMC アラート リレー サーバーの設定に関連する手順、および SCOM 用 OMIMSSC を使用したデバイスの検出に関する概要が提供されています。情報を読んで、[ 次へ ] をクリックします。
5. SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用して管理グループを登録するには、次の手順を実行します。
  - a. 登録の名前を入力します。


- b. [ SCOM MS FQDN ] ボックスに、SCOM 管理グループ内の SCOM 管理サーバーの FQDN を入力します。
- c. [ 認証情報 ] ドロップダウン メニューから、SCOM 管理サーバーおよび Operations Manager の管理者権限でローカル管理者権限を持つ Windows 認定資格プロフィールを選択します。

認定資格プロフィールを作成するには、[Windows 認定資格プロフィールの作成](#)、p. 27 を参照してください。

- d. OMIMSSC アプライアンスと SCOM 管理サーバーの間の接続を確認するには、[ テスト接続 ] をクリックします。テスト接続が正常に行われた場合は、次のメッセージ `Test connection is successful` が表示されます。
- e. 検出された Dell EMC デバイスからのアラートを SCOM コンソールで受信するには、SNMP v1 または v2 の SNMP コミュニティ名を入力します。

DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount が作成され、SCOM コンソールの SNMP 監視アカウントプロファイルに関連付けられます。この RunAsAccount は、すべての Dell EMC ハードウェアデバイスを対象としています。ターゲット デバイス オブジェクトを変更するには、登録ジョブが完了するのを待ってから、SCOM コンソールを開いて [ Administration ] > [ Run As 設定 ] > [ プロファイル ] > [ SNMP 監視アカウント ] の順に選択します。[ DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount ] を選択し、[ 編集 ] をクリックして、関連するクラスを変更します。

- f. [ モニタリング範囲 ] で、SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用して監視するデバイスのタイプを選択します。

 **メモ:** 登録ジョブを続行するには、[ モニタリング範囲 ] で少なくとも 1 つのデバイスのタイプを選択する必要があります。

- g. [ モニタリングモード ] で、SCOM 用 OMIMSSC を使用したデバイス モニタリングのための [ 拡張可能 ] モードまたは [ 詳細 ] モードのいずれかを選択します。

[ 拡張可能 ] モードでは、基本的なデバイスおよびコンポーネント グループレベルのインベントリと正常性監視のメトリックを表示できます。[ 詳細 ] モードでは、詳細なデバイスおよびコンポーネントレベルのインベントリ（メモリー、プロセッサ、ストレージコントローラーなど）、および正常性監視メトリック（電力および温度など）を表示できます。

[ 詳細 ] モードのモニタリングを使用すると、最大 300 のデバイスを監視できます。監視対象デバイスの数が上限を超えると、OMIMSSC は自動的に監視モードを [ 拡張可能 ] に変更します。

- h. [ 次へ ] をクリックします。

- i. [ 適用 ] をクリックして登録ジョブを開始します。

登録サブタスクが実行され、各サブタスクのステータスが表示されます。サブタスクの完了までにかかる時間は 30~40 分で、SCOM サーバーの既存の負荷によって異なります。登録ジョブとそれに関連付けられたログのステータスを表示するには、[ 設定 ] > [ ジョブとログ ] の順にクリックします。登録ジョブが表示されます。サブタスクを表示するには、登録ジョブを展開します。[ 進行状況ステータス ] 列には、登録ジョブの進行状況が表示されます。

サブタスクのいずれかが失敗した場合は、[ ジョブとログ ] > [ 履歴 ] で登録ジョブを展開して、サブタスクと関連するログのステータスを表示します。問題を解決するには、[ [トラブルシューティング](#)、p. 83 ] のセクションも参照してください。

- j. [ 次へ ] をクリックします。

6. Dell EMC アラート リレー サーバーを設定およびオンボードするには、次の手順を実行します。

- a. SCOM コンソールで、エージェントで管理された Windows システムとしてアラート リレー サーバーを検出します。
- b. アラート リレー サーバーとして使用する予定のエージェントで管理された各 Windows システム上の OMIMSSC 管理ポータルから、[ Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラー ] をダウンロードしてインストールします。Dell EMC アラート リレー サーバーのインストールおよび設定の詳細については、[ [Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング](#)、p. 31 ] を参照してください。
- c. SCOM コンソールで、アラート リレー サーバーが Dell EMC アラート リレー サーバーの状態ビューに表示された後で、[ モニタリング ] > [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード ] の順に移動して、アラート リレー サーバーの詳細を OMIMSSC アプライアンスと同期します。[ 概要 ] ページで、[ SCOM MS と同期 ] を選択します。

7. [ 終了 ] をクリックします。

## タスクの結果

SCOM コンソールを使用した管理サーバーは、OMIMSSC アプライアンスに正常に登録され、[[ コンソール登録 ]] ページに一覧表示されます。

- すべての OMIMSSC ( 関連する管理パック ) が SCOM コンソールにインポートされるまで、15~20 分かかる場合があります。イベント ID 71 が生成されます。構成の変更の詳細については、[ ジョブとログ ] > [ 履歴 ] の登録ジョブのログを参照してください。
- 登録プロセス中に、すべての Dell EMC 管理パックが OMIMSSC アプライアンスから SCOM 管理サーバーにコピーされ、C:\Program Files\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\<version> フォルダーに保存されます。モニタリング用に選択されたデバイスに基づいて、必要な管理パックが SCOM コンソールにインポートされます。
- 以下の前提条件は、OMIMSSC アプライアンスによって自動的に設定されます。
  - SCOM 管理サーバー：
    - Windows サーバーの Client for NFS 機能が有効になっている。

- Persistence Version Store Maximum の値が 131072 に設定されている。
- Dell EMC アラート リレー サーバー :
  - レジストリー エントリー 「HKLM: \\\SOFTWARE\\Dell\\Dell Server Management Pack Suite」 が設定されている。
  - WinRM ルールがファイアウォールに追加される。
  - WinRM クライアントとサーバーの認証が有効になっている。
- 登録中または登録後のすべての問題のトラブルシューティングについては、「[トラブルシューティング](#)、p. 83」を参照してください。

SCOM 管理グループ内に複数の SCOM 管理サーバーがある場合は、このプロセスによって SCOM 管理グループ内のすべての SCOM 管理サーバーを登録します。SCOM 管理サーバーがすべての管理サーバー リソース プール (AMSRP) から追加または削除された場合は、OMIMSSC に登録されている SCOM コンソールのデータを同期します。[OMIMSSC での管理サーバーとの Dell EMC アラート リレー サーバーの詳細の同期](#)、p. 41 を参照してください。

**メモ:** Windows のイベント ビューアーで、[ Windows ログ ] > [ アプリケーション ] の下にイベント ID 71 の情報イベントが生成されます。このイベントには、SCOM 管理サーバーで設定される前提条件に関する情報が入っています。

[ Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード ] のリンクは、SCOM コンソールの [ モニタリング ] > [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ペイン ] に表示されます。これで、Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードまたは SCOM コンソールを使用して、デバイスの検出とモニタリングを開始できるようになりました。

**警告:** ( SCOM 管理グループ内の ) SCOM 管理サーバーを別の SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスに登録する前に、現在のアプライアンスから登録を解除するようにしてください。SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスからの管理サーバーの登録解除の詳細については、「[OMIMSSC に登録された SCOM 管理グループの登録解除](#)、p. 81」を参照してください。

## 登録設定の変更

### このタスクについて

[ コンソール登録 ] ページの [ 編集 ] オプションを使用して、登録設定を編集できます。

登録編集オプションを使用して、次の操作を実行できます。

- Windows 認定資格プロフィールを変更する。
- SNMP v1 または v2 コミュニティー名をアップデートする。
- SCOM コンソールで監視するデバイスの監視範囲およびモードを変更する。
- 登録ジョブのいずれかのサブ タスクが完了できない場合に、登録ジョブを再実行する。

**メモ:** [ コンソール登録 ] ページで、登録、登録解除、または強制登録解除ジョブが進行中の場合、登録設定を変更するための [ 編集 ] オプションは無効になります。これらのジョブが完了するのを待ってから、登録設定を編集してください。

### 手順

1. Web ブラウザーで、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスを入力し、OMIMSSC ADMIN ユーザーとしてログインします。
2. 左ペインを展開するには、[ > ] アイコンをクリックして、[ 設定 ] > [ コンソール登録 ] の順に選択します。
3. 作業中のペインで、登録を選択して [ 編集 ] をクリックします。  
[ 登録設定の編集 ] ページが表示されます。
4. 次の設定を編集できます。
  - a. 登録名。
  - b. [ SCOM MS FQDN ] ボックスに、OMIMSSC アプライアンスに登録する新しい SCOM 管理サーバーの FQDN を入力します。  
この新しい FQDN は、[ コンソール登録 ] ページに新しいエントリーとしてリストされます。
  - c. [ 認証情報 ] ドロップダウン メニューから、SCOM 管理サーバーでのローカル管理者権限および運用マネージャー権限を持つ別の Windows 認定資格プロフィールを選択できます。  
認定資格プロフィールを作成するには、[Windows 認定資格プロフィールの作成](#)、p. 27 を参照してください。
  - d. OMIMSSC アプライアンスと SCOM 管理サーバーの間の接続を確認するには、[ テスト接続 ] をクリックします。  
テスト接続が正常に行われた場合は、次のメッセージ Test connection is successful が表示されます。
  - e. SNMP v1 または v2 の SNMP コミュニティー名。  
DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount という名前の Run As アカウントが作成され、SCOM コンソールの SNMP 監視アカウント プロフィールに関連付けられます。これは、SCOM コンソール上で検出された Dell EMC デバイスからのアラートを受信するために使用されます。
  - f. [ 監視範囲 ] では、SCOM の OMIMSSC アプライアンスを使用して監視するデバイス タイプを変更できます。

**メモ:** 登録ジョブを続行するには、[ モニタリング範囲 ] で少なくとも1つのデバイスのタイプを選択する必要があります。

- g. [ 監視モード ] で、SCOM の OMIMSSC を使用したデバイス監視の [ 拡張可能 ] モードまたは [ 詳細 ] モードのいずれかを選択します。監視対象の Dell EMC デバイスの数が 300 を超える場合は、拡張可能モニタリング モードのみを選択できます。
- h. [ 次へ ] をクリックします。  
[[ 登録設定の編集 - 変更の適用 ]] ページが表示されます。
- i. [ 適用 ] をクリックして、登録の編集ジョブを開始します。  
登録の編集ジョブでサブタスクが開始され、各サブタスクのステータスが表示されます。登録の編集ジョブのサブタスクが完了するまで 20~40 分待ちます。

作成されたジョブのステータスと、登録の編集ジョブに関連付けられているログを表示するには、[ ジョブとログ ]、[ 実行中のジョブ ] タブの順に選択します。登録の編集ジョブがリストされます。登録の編集ジョブを展開すると、サブタスクが表示されます。[ 進行状況ステータス ] 列には、登録ジョブの進行状況が表示されます。

いずれかのサブタスクが失敗した場合は、[ ジョブとログ ] > [ 履歴 ] で、登録の編集ジョブを展開して、サブタスクと関連するログのステータスを表示します。また、ユーザーズガイドの [トラブルシューティング](#)、p. 83 セクションを参照して問題を解決できます。

- j. [ 次へ ] をクリックします。

### タスクの結果

登録の編集ジョブが正常に完了すると、[ コンソール登録 ] ページに SCOM 管理サーバーがリストされます。

現在の登録設定の変更と以前の登録設定に基づいて、OMIMSSC はそれに応じた SCOM 管理サーバーの前提条件を設定します。Dell EMC 管理パックは、登録の編集ジョブ中に選択されたデバイス監視の範囲およびモードに応じて、削除または SCOM コンソールにインポートされます。

## Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング

System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft Windows System Center ( OMIMSSC ) アプライアンスでは、Dell EMC アラート リレー サーバー ( 旧プロキシ管理サーバー ) を構成するオプションを提供しています。デバイスを追加してインフラストラクチャをスケールアップする場合、OMIMSSC 環境にアラート リレー サーバーを追加することにより、モニタリング機能をシームレスに拡張できます。

### アラート リレー サーバーのシステム要件

アラート リレー サーバーをホストする管理下ノード上の Windows VM のソフトウェアおよびハードウェアの最小要件は次のとおりです。

- 管理下ノードでサポートされているオペレーティングシステム：
  - SCOM 2019 については、<https://docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/system-requirements?view=sc-om-2019> にある「サーバー オペレーティングシステム」セクションを参照してください。
  - SCOM 2016 については、<https://docs.microsoft.com/en-us/system-center/scom/system-requirements?view=sc-om-2016> にある「サーバー オペレーティングシステム」セクションを参照してください。
  - SCOM 2012 R2 については、<https://docs.microsoft.com/en-us/previous-versions/system-center/system-center-2012-R2> にある「サーバー オペレーティングシステム」セクションを参照してください。
- CPU コア数 — 8
- RAM — 32 GB

### アラート リレー サーバーで監視対象デバイスの数の拡張を設定するための前提条件

- 管理サーバーのローカル管理者権限を持つドメイン ユーザーであること、SCOM 管理グループにアラート リレー サーバーをインストールして設定するための運用マネージャー管理者の役割が割り当てられていることを確認します。
- Dell EMC アラート リレー サーバーとして使用するには、SCOM エージェントが Windows VM にインストールされている必要があります。

- SCOM コンソールで、アラート リレー サーバーがエージェントベースのシステムとして検出されていることを確認します。
  - 各 SCOM サーバーと、拡張性セットアップのすべてのアラート リレー サーバーに、Microsoft が公開しているホットフィックス ( <https://support.microsoft.com/en-us/help/4481376/> ) を適用します。アラート リレー サーバーの C:\Program Files\Microsoft Monitoring Agent\Agent\SnmpModules.dll で [ SnmpModules.dll ] を見つけます。
- ① **メモ:** アラート リレー サーバーが、すべての管理サーバー リソース プール ( AMSRP ) の一部である管理サーバー上でホストされていることを確認します。

## SCOM コンソールでのアラート リレー サーバーの検出

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ 管理 ] を選択して [ 検出ウィザード ] をクリックします。
2. [ Windows コンピューター ] を選択して [ 次へ ] をクリックします。
3. [ 高度な検出 ] を選択して、[ 管理サーバー ドロップダウン ] メニューから [ 管理グループ ] 内の [ 管理サーバー ] を選択して [ 次へ ] をクリックします。
4. [ コンピューター名のブラウズ又はタイプイン ] を選択して [ ブラウズ ] をクリックします。  
SCOM コンソールで検出されるアラート リレー サーバーの詳細を入力します。
5. [ 検出 ] をクリックします。

### タスクの結果

Dell EMC アラート リレー サーバーが検出された後、それは SCOM コンソールの [ 管理 ] > [ デバイス管理 ] > [ 管理対象エージェント ] に表示されます。

## OMIMSSC 管理ポータルから Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをダウンロードしてインストールする

### 手順

1. Web ブラウザーで、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスを入力し、OMIMSSC ADMIN としてログインします。  
SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの構成中に、OMIMSSC ADMIN のユーザー資格情報を使用します。Dell Technologies サポートサイトの『System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ユーザーズガイド』の「OMIMSSC アプライアンスの構成」セクションを参照してください。
2. OMIMSSC 管理ポータルで左ペインを展開し、[ > ] アイコンをクリックして [ ダウンロード ] を選択します。
3. [ Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラー ] をクリックします。  
SCOM 管理グループ内の各アラート リレー サーバーにインストーラーを保存します。
4. [ DellEMCAAlertRelayServerInstaller.msi ] ファイルをダブルクリックし、[ 次へ ] をクリックします。
5. ライセンス契約を読んでライセンス条項に同意するには、[ ライセンス契約の条件に同意します ] を選択してから [ 次へ ] をクリックします。
6. [ インストール ] をクリックします。

### タスクの結果

- ① **メモ:** Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをダウンロードした場所から削除しないことをお勧めします。ダウンロードした MSI ファイルを使用してのみ、Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをアンインストールできます。

## Dell EMC アラート リレー サーバーのインストーラーによって実行される設定の変更

アラート リレー サーバーに Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーがインストールされた後、次の設定が行われます。

- ログは C:\Users\\AppData\Local\Temp\Dell EMC.OMIMSSC.Configuration の下に作成されます。
- Windows のイベント ビューアーで、[ Windows ログ ] > [ アプリケーション ] の下にイベント ID 72 の情報イベントが生成されます。アラート リレー サーバー関連の設定が [ 全般 ] タブの下に表示されます。

- レジストリー エントリーは [ HKEY\_LOCAL\_MACHINE ] > [ SOFTWARE ] > [ Dell ] > [ DSMPS ] に作成されます。
- 正常性サービス関連のレジストリー エントリーは [ HKEY\_LOCAL\_MACHINE ] > [ SYSTEM ] > [ CurrentControlSet ] > [ services ] > [ HealthService ] > [ Parameters ] でアップデートされます。
  - Persistence Version Store Maximum Registry Path を 131072 に設定します。
  - 最大グローバル保留データ数レジストリーを 20408 に設定します。
  - 状態キュー アイテム レジストリーを 20480 に設定します。
  - 永続性チェック ポイントの奥行き ( 最大 ) レジストリーを 20971520 に設定します。
  - Microsoft Monitoring Agent Health Services が開始されます。

**メモ:** レジストリー キーの設定の詳細については、<https://docs.microsoft.com/en-us/archive/blogs/>を参照してください。

SCOM の OMIMSSC アプライアンスを使用した SCOM 管理サーバーの登録中に、アラート リレー サーバー用の Dell EMC 管理パック ([ Dell EMC アラート リレー サーバー モデル ] と [ Dell EMC アラート リレー サーバー ビュー ]) が SCOM コンソールに自動的にインポートされます。

## Dell EMC アラート リレー サーバーのモニタリング ビュー

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択して展開します。
  - a. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] > [ Dell EMC アラート リレー サーバー ダイアグラム ビュー ] の順に移動して、ネットワーク上のアラート リレー サーバーを階層化された図で表示できます。
  - b. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC 状態ビュー ] > [ Dell EMC アラート リレー サーバー状態ビュー ] の順に移動して、ネットワーク上の SCOM によって管理されているアラート リレー サーバーのステータスを表示できます。
2. 詳細情報を表示するには、リストからアラート リレー サーバーを選択します。アラート リレー サーバーの詳細が [[ 詳細ビュー ]] セクションに表示されます。

## アラート リレー サーバーと SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの同期

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択し、[ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] の順に展開します。
2. Management Server のローカル管理者権限を使用して、OMIMSSC にログインします。
3. ホームページで、[ 同期済み SCOM Management Server および Dell EMC アラート リレー サーバー セクション ] まで下にスクロールして、[ SCOM MS と同期 ] をクリックします。
4. 同期タスクが完了すると、アラート リレー サーバーの数がアップデートされます。[ アラート リレー サーバーの表示 ] をクリックして、検出されたアラート リレー サーバーを表示します。

### 次の手順

OMIMSSC アプライアンスが新しいアラート リレー サーバー情報でアップデートされるまで 15 分間待機してから、Dell EMC デバイスの検出を続行します。

## Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーのインストール エラーの修復

### 手順

1. ダウンロードした場所から [ DellEMCAAlertRelayServerInstaller.msi ] ファイルをダブルクリックし、[ 次へ ] をクリックします。
2. 修復を選択してから、次へをクリックします。
3. [ インストール ] をクリックします。

### タスクの結果

Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーの修復中は、次の点に注意してください。

- インストール ログは、C:\Users\\AppData\Local\Temp\Dell EMC.OMIMSSC.Configuration から削除されません。
- [ HKEY\_LOCAL\_MACHINE ] > [ SYSTEM ] > [ CurrentControlSet ] > [ Services ] > [ HealthService ] > [ Parameters ] の下のレジストリー エントリーは、以前の値に復元されます。

**メモ:** Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーの修復後、必要に応じてレジストリー エントリーの値を手動で更新する必要があります。

## 次の手順

Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーの修復に失敗した、またはインストールの問題が解決しない場合は、Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーによって作成されたレジストリーのバックアップを使用してレジストリー設定を手動で復元し、C:\Program Files\Dell Management Packs\Automationにある構成スクリプトを使用してDell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをインストールできます。

# Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーのアンインストール

## このタスクについて

**警告:** Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをアンインストールすると、それぞれのアラート リレー サーバーに関連付けられている Dell EMC デバイスの監視が停止します。したがって、SCOM コンソールで Dell EMC デバイスの監視を続行するには、適正な数のアラート リレー サーバーが使用可能であることを確認します。

## メモ:

- Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをアンインストールする前に、C:\Program Files\Dell Management Packs フォルダを開いて、関連付けられているすべてのアラート リレー サーバーファイルが正常に削除されていることを確認します。
- Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーは、Windows のコントロールパネルを使用してアンインストールできません。

## 手順

1. ( オプション ) Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーがシステムから削除された場合は、Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにアクセスし、左ペインで [ ダウンロード ] を選択して、インストーラーをダウンロードします。
2. ダウンロードした場所から [ DellEMCAAlertRelayServerInstaller.msi ] ファイルをダブルクリックし、[ 次へ ] をクリックします。
3. [ 削除 ] を選択してから [ 次へ ] をクリックします。
4. [ 削除 ] をクリックし、Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーのアンインストールを確認するには、[ はい ] をクリックします。
5. [ 終了 ] をクリックします。

## タスクの結果

**メモ:** Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをアンインストールしても、ログはシステムから削除されません。

Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーが正常にアンインストールされた後、アラート リレー サーバーは [ 管理 ] > [ デバイス管理 ] > [ デバイス管理 ] > [ 管理対象エージェント ] に表示されなくなります。対応する Dell EMC アラート リレー サーバーのダイアグラム ビューと Dell EMC アラート リレー サーバーの状態ビューは表示されません。アンインストール中に実行されたレジストリー アップデートに関する詳細情報とともに、Windows のイベント ビューアにイベント ID 74 が生成されます。

[ Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード ] > [ SCOM MS と同期する ] を選択すると、警告メッセージが表示され、アラート リレー サーバーに関連付けられているすべてのデバイスが監視されなくなり、SCOM コンソールから削除されることが通知されます。デバイスは、OMIMSSC アプライアンスによって SCOM コンソールで監視されるように再検出する必要があります。

# OMIMSSC 管理ポータルで実行できるその他のタスク

以降のセクションでは、OMIMSSC 管理ポータルで実行できるその他のタスクについて詳しく説明します。

## トピック：

- [OMIMSSC SSL 証明書](#)
- [OMIMSSC 管理ポータルおよび OpenManage Integration Dashboard のジョブおよびログ](#)
- [OMIMSSC アプライアンスのトラブルシューティング ログのダウンロード](#)


## OMIMSSC SSL 証明書

SCOM 用の Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは、セキュアな HTTP アクセス (HTTPS) のために証明書を使用します。デフォルトでは、OMIMSSC は、HTTPS のセキュアなトランザクションに自己署名の証明書をインストールして使用します。セキュリティを強化するために、認証局 (CA) 署名またはカスタム証明書を使用することをお勧めします。自己署名証明書は、Web ブラウザーとサーバーの間で暗号化されたチャネルを確立するためには十分です。自己署名証明書を認証に使用することはできません。

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは、OpenSSL API を使用して証明書署名要求 (CSR) を作成します。2,048 ビットのキー長を持つ RSA 暗号化標準が使用されています。OMIMSSC によって生成された CSR は、信頼された認証局からデジタル署名付き証明書を取得します。OMIMSSC は、セキュアな通信を行うために、デジタル証明書を使用して Web サーバーで HTTPS を有効にします。

OMIMSSC の認証には、次のタイプの証明書を使用できます。


- 自己署名証明書：OMIMSSC は、アプライアンスのホスト名変更時に自己署名証明書を生成します。
- 信頼できる認証局 (CA) のベンダーによって署名された証明書。

 **メモ:** 証明書を作成する場合は、会社のポリシーを検討してください。

## 証明書署名要求 (CSR) の生成

新しい CSR を生成すると、以前生成された CSR で作成された証明書をアプライアンスにアップロードできなくなります。CSR を生成するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC 管理ポータルで左ペインを展開し、[ 設定 ] > [ セキュリティ ] の順に選択します。
2. [ OMIMSSC SSL 証明書 ] ページで、[ 証明書署名要求の生成 ] をクリックします。
3. [ 証明書署名要求の生成 ] ダイアログボックスに、識別名、プライマリー サブジェクト代替名、会社名、部署名、市町村、都道府県、国または地域、電子メール アドレスなどの詳細を入力します。
4. [ 生成 ] をクリックします。
5. [ ダウンロード ] をクリックして、アクセス可能な場所に生成された CSR を保存します。

 **メモ:** Internet Explorer では、ファイルのダウンロードを許可するオプションを有効にする必要があります。詳細については、[Internet Explorer を使用して証明書署名リクエストをダウンロードできない、p. 90] を参照してください。

## CA 署名付き証明書のアップロード

証明書が PEM フォーマットを使用していることを確認してください。

HTTPS 証明書は、OMIMSSC アプライアンスとホストシステムまたは OMIMSSC 間のセキュアな通信に使用できます。セキュアな通信を確立するには、CSR 証明書を認証署名局に送信してから、OMIMSSC 管理ポータルを使用して署名付き証明書をアップロードします。

1. OMIMSSC 管理ポータルで左ペインを展開し、[ 設定 ] > [ セキュリティ ] の順に選択します。
2. [ OMIMSSC SSL 証明書 ] ページで、[ 証明書のアップロード ] をクリックします。
3. [ 参照 ]、[ 証明書 ] の順に選択します。

4. [ アップロード ] をクリックします。

- メモ:** 証明書がアップロードされている間は、OMIMSSC アプライアンスが数分応答しなくなり、サービスが再起動されることがあります。タスクが完了したら、OMIMSSC 管理ポータル上の既存の全ブラウザセッション、および SCOM コンソール上の Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードを終了しておくことをお勧めします。OMIMSSC 管理ポータルに再度ログインして、アップロードされた証明書を表示します。

## デフォルト証明書の復元

- OMIMSSC 管理ポータルで左ペインを展開し、[ 設定 ] > [ セキュリティ ] の順に選択します。
- [ OMIMSSC SSL 証明書 ] ページで、[ デフォルト証明書の復元 ] をクリックします。
- 確定するには、[ はい ] をクリックします。

- メモ:** 証明書が復元されている間は、OMIMSSC アプライアンスが数分応答しなくなり、サービスが再起動されることがあります。タスク完了したら、ブラウザ キャッシュをクリアし、OMIMSSC 管理ポータル上の既存の全ブラウザセッション、および SCOM コンソール上の Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードを終了します。OMIMSSC 管理ポータルに再度ログインします。

## OMIMSSC 管理ポータルおよび OpenManage Integration Dashboard のジョブおよびログ

OMIMSSC で開始されたタスクに関するすべての情報と、ジョブの進行状況のステータスを表示できます。また、[ ジョブおよびログ ] ページでサブタスクを表示できます。ジョブをフィルタリングして、特定カテゴリのジョブを表示することもできます。OMIMSSC 管理ポータルと OpenManage Integration Dashboard のジョブを表示できます。

ジョブ名はユーザーから提供されるか、システムによって生成され、サブタスクは管理対象サーバーの IP アドレスに応じて命名されます。サブタスクを展開して、そのジョブのアクティビティログを表示します。ジョブには次の 4 つのカテゴリがあります。

- [ 実行中 ] - 現在実行中であるか進行中の状態であるジョブを示します。
- [ 履歴 ] - 過去に実行されたジョブとそのジョブのステータスを示します。
- [ スケジュール ] - 将来の日時にスケジュールされているジョブを示します。また、スケジュールされたジョブをキャンセルすることもできます。
- [ 汎用ログ ] - サブタスクに固有ではない OMIMSSC アプライアンス固有の共通ログメッセージ、およびユーザー名とコンソール FQDN を指定して各ユーザーのその他のアクティビティを示します。
  - [ アプライアンスログ ] - OMIMSSC への Management Server の登録や OMIMSSC の再起動など、OMIMSSC アプライアンス固有のログメッセージをすべて表示します。OMIMSSC 管理ポータルでのみ使用できます。
  - [ 汎用ログ ] - [ 実行中 ]、[ 履歴 ]、および [ スケジュール ] タブで表示されるジョブ全体に共通するすべてのログメッセージが表示されます。これらのログは、コンソールとユーザーに固有です。

OMIMSSC で定義されるジョブには、次のようにさまざまな状態があります。

- [ キャンセル済み ] - 手動でキャンセルされたか、OMIMSSC が再起動したため、ジョブはキャンセルされました。
- [ 成功 ] - ジョブは正常に完了しました。
- [ 失敗 ] - ジョブを正常に実行できませんでした。
- [ 進行中 ] - ジョブは実行中です。
- [ スケジュール ] - ジョブは将来の時刻に開始するようにスケジュールされています。
- [ 待機中 ] - ジョブは実行開始のためのキュー内にあります。
- [ 繰り返し ] - ジョブは一定の時間間隔で繰り返し実行されます。

- メモ:** 複数のジョブが同時に同じサーバーに送信されると、ジョブは失敗します。そのため、時間を分けてジョブをスケジュールしてください。

## OMIMSSC ジョブおよびログの表示

### このタスクについて

OMIMSSC 管理ポータルまたは OpenManage Integration Dashboard を使用して ( SCOM コンソール自体で表示可能 )、さまざまなタイプのジョブのステータス ( 実行中、スケジュール、完了 ( 履歴 ) ) を表示できます。ジョブのステータスを表示するには、次の手順に従います。


## 手順

1. OMIMSSC 管理ポータルまたは Dell EMC OpenManage Integration Dashboard にログインします。
2. 左ペインで、[ ジョブとログセンター ] をクリックします。
3. 実行中、スケジュール済み、履歴などのジョブの特定のカテゴリを表示するには、それぞれのタブをクリックします。選択したカテゴリの下にジョブのリストが表示されます。ジョブは、OMIMSSC によって監視されるデバイスに基づいて分類されます。
4. デバイスで実行されているジョブに関する情報を表示するには、ジョブ名を展開します。さらに展開すると、ジョブのログメッセージが表示されます。
5. ( オプション ) さまざまなカテゴリのジョブを表示するには、フィルターを使用します。[ ステータス ] 列にステータスを表示することもできます。
6. ジョブ関連の汎用ログメッセージを表示するには、[ 汎用ログ タブ ] を選択し、[ 汎用ログ ] を展開します。
7. OMIMSSC 管理ポータルで、アプライアンス固有のログメッセージを表示するには、[ 汎用ログ タブ ] を選択し、[ アプライアンス ログ ] を展開します。  
[ アプライアンス ログ オプション ] は、Dell EMC OpenManage Integration Dashboard では使用できません。

# OMIMSSC アプライアンスのトラブルシューティング ログのダウンロード

## このタスクについて

OMIMSSC アプライアンスには、OMIMSSC アプライアンスを使用して完了したアクティビティに関する詳細なログ情報を含む ZIP ファイルをダウンロードするオプションが用意されています。

 **メモ:** ダウンロードしたトラブルシューティング バンドルには、SCOM 管理サーバーと Dell EMC アラート リレー サーバーから収集されたログはありません。

トラブルシューティング バンドルをダウンロードするには、次を行います。

## 手順

1. OMIMSSC 管理ポータルで、左ペインを展開して [ 設定 ] > [ ログ ] の順に選択します。
2. [[ トラブルシューティング バンドルのダウンロード ]] をクリックします。

## タスクの結果

ログを表示するには、ダウンロードしたファイルを解凍し、そのカテゴリに固有の詳細情報が記載されている必要なログファイルを選択します。

# SCOM コンソールからの OMIMSSC の管理

OMIMSSC アプライアンスの主な機能は、SCOM コンソールを単一の共通インターフェイスとして使用し、Dell EMC デバイスをモニタリングおよび管理できるようにすることです。SCOM コンソールを使用してデバイスを管理するには、OMIMSSC から SCOM コンソールに特定の Dell EMC 管理パックをインポートして導入する必要があります。

## トピック：

- SCOM コンソールを使用した Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードへのアクセス
- デバイス認定資格プロフィールの作成
- SCOM コンソールを使用して Dell EMC デバイスを検出およびモニタリングするための前提条件
- OMIMSSC での管理サーバーとの Dell EMC アラート リレー サーバーの詳細の同期

## SCOM コンソールを使用した Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードへのアクセス

### このタスクについて

Dell EMC デバイスを検出して管理するには、SCOM コンソールを使用して Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードにログインします。OMIMSSC の現在の IP アドレスを変更した場合は、[新しい IP アドレスを使用して現在の OMIMSSC IP アドレスをオーバーライドすることができます。](#)

**① メモ:** Internet Explorer では、Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードにアクセスする前に、SCOM コンソールで次の設定を構成します。

- [インターネット オプション] > [セキュリティ] > [ローカルイントラネット] > [サイト] > [詳細] の順に移動し、以下を入力します。
  - OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスと FQDN。
  - リンク：`about:security_Microsoft.EnterpriseManagement.Monitoring.Console.exe`、`about:internet`、および `about:blank` (ローカルイントラネット ゾーンのものを含む)。
- [インターネット オプション] > [詳細] > [セキュリティ] の順に移動し、[暗号化されたページをディスクに保存しない] オプションの選択を解除します。

SCOM コンソールから Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードにログインするには、次の操作を行います。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[モニタリング] を選択してから、[Dell EMC] > [Dell EMC OpenManage Integration ビュー] の順に展開します。
2. [Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード] を選択します。
3. 作業中のペインで、SCOM 管理サーバーのローカル管理者資格情報でログインします。Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードの [概要] ページが表示されます。

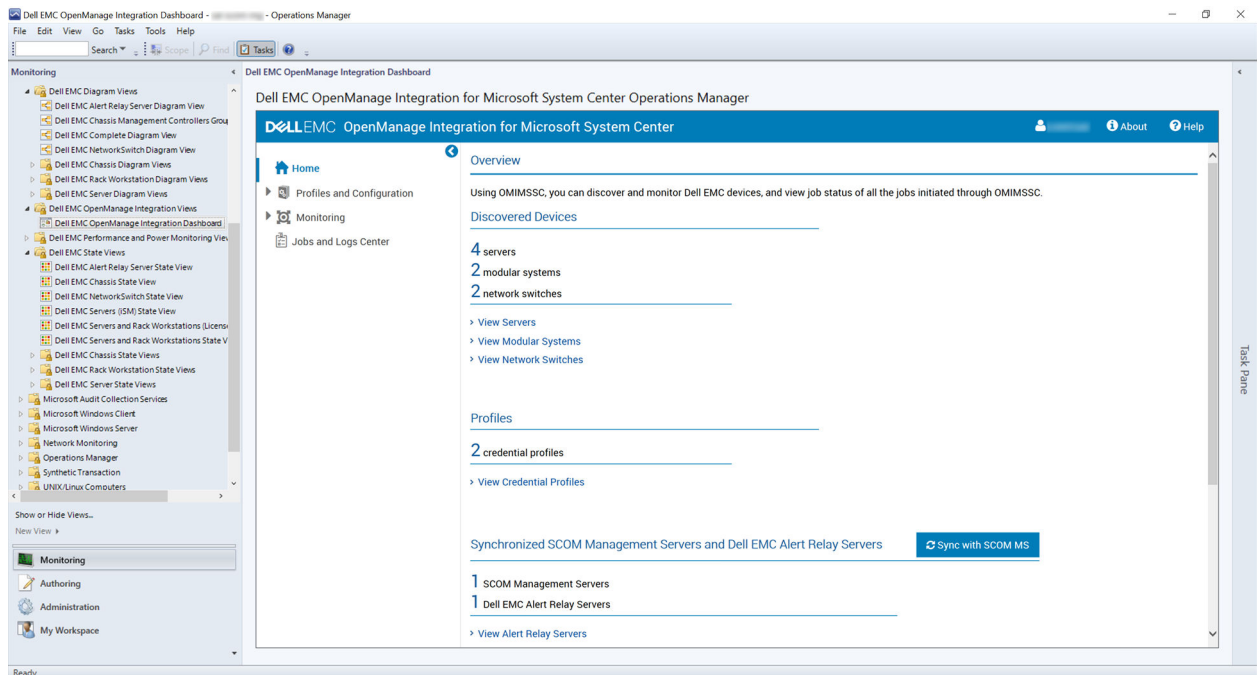


図 5. [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard - 概要 ] ページ

## 新しい IP アドレスを使用した現在の OMIMSSC IP アドレスのオーバーライド

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ オーサリング ] を選択し、[ 管理パック オブジェクト ] > [ モニター ] の順に展開します。
2. [ 検索対象 ] フィールドで、アプライアンスを検索し、[ 管理サーバー ] > [ Dell EMC SDK Override Appliance IP ] までスクロール までスクロール ダウンします。
3. [ Dell EMC Appliance IP ] の下で、オーバーライド値を新しい IP アドレスに変更します。
4. [ Dell EMC SDK Appliance IP override ] 管理パックに上書きされた情報を保存します。

## デバイス認定資格プロファイルの作成

### このタスクについて

認定資格プロファイルは、ユーザーのロールベースの機能を認証することにより、ユーザー資格情報の使用と管理を簡素化します。各認定資格プロファイルには、単一ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードが含まれています。OMIMSSC は、デバイス認定資格プロファイルを使用します。このプロファイルは、iDRAC コンソール、Chassis Management Controller、OpenManage Enterprise Modular、またはネットワークスイッチ管理コンソールへのアクセスに使用される資格情報、SNMP コミュニティー文字列、HTTPS ポート番号、および SNMP ポート番号のフィールドで構成されます。表示されるフィールドは、選択したプロトコルに応じて異なります。たとえば、HTTP には、ユーザー名、パスワード、ポート番号のオプションがあります。

**メモ:** デバイス認定資格プロファイルは、サーバー、モジュラー型システム、またはネットワークスイッチの検出に使用されます。

Dell EMC OpenManage Integration Dashboard からデバイス認定資格プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

### 手順

1. SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] を展開します。
3. Dell EMC OpenManage Integration Dashboard にログインします。
4. 左ペインを展開し、[ プロファイルと設定 ] > [ 認定資格プロファイル ] を選択します。使用可能な認定資格プロファイルが作業中のペインに一覧されます。

5. [ 作成 ] をクリックします。
6. [ 認定資格プロフィール ] ダイアログ ボックスで、次のデータを入力または選択します。
  - a. [ 認定資格プロフィール タイプ ] ドロップダウン メニューから、[ デバイス認定資格プロフィール ] を選択します。
  - b. 新しい認定資格プロフィールの名前と説明を入力します。
7. デバイス認定資格プロフィールを作成するには、次の手順を実行します。
  - PowerEdge サーバー、シャーシ、モジュラー型システム：
    - a. プロトコルとして HTTP を選択します。
    - b. 認証情報を入力します。
    - c. 必要に応じて、WS-Man または Rest のポート番号を変更します。
  - ネットワーク スイッチ：
    - a. プロトコルとして SNMP を選択します。
    - b. コミュニティー文字列と SNMP ポート番号を入力します。
8. [ デフォルト プロファイル ] ドロップダウン メニューから、SCOM で検出されたデバイスを同期するには、次のいずれかを選択し、それを選択した認定資格タイプのデフォルト プロファイルとして設定します。

OMIMSSC は、デフォルト プロファイルを使用して、ネイティブの SCOM コンソールで検出されたデバイスを検出します。

  - iDRAC - サーバーのデフォルト プロファイル。
  - CMC - Chassis Management Controller または OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) のデフォルト プロファイル。
  - ネットワーク スイッチ - ネットワーク スイッチのデフォルト プロファイル。
  - なし - このプロファイルをデフォルト プロファイルとして設定しません。

デフォルトの iDRAC プロファイルは、デバイスの検出時、または同期化の実行時にデバイスにアクセスするために使用されません。
9. [ 終了 ] をクリックします。

#### タスクの結果

デバイス認定資格プロフィールが作成され、[ 認定資格プロフィール ] リストに表示されます。リストを更新するには、[ 更新 ] をクリックします。

## デバイス認定資格プロフィールの変更

#### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ モニタリング ペイン ] で、[ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード ] の順にクリックします。
3. Dell EMC OpenManage Integration Dashboard にログインします。
4. [ プロファイルと設定 ] > [ 認定資格プロフィール ] をクリックします。
5. 編集するデバイス認定資格プロフィールを選択し、[ 編集 ] をクリックします。
6. 設定を変更して、[ 保存 ] をクリックします。

## デバイス認定資格プロフィールの削除

#### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ モニタリング ペイン ] で、[ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボード ] の順にクリックします。
3. Dell EMC OpenManage Integration Dashboard にログインします。
4. 左ペインで、[ プロファイルと設定 ] > [ 認定資格プロフィール ] の順にクリックします。
5. 削除するデバイス認定資格プロフィールを選択し、[ 削除 ] をクリックします。

# SCOM コンソールを使用して Dell EMC デバイスを検出およびモニタリングするための前提条件

SCOM コンソールで Dell EMC デバイスの検出とモニタリングを開始する前に、以下を必ず実行します。

- OMIMSSC アプリアンスで SCOM Management Server を登録する際に、必要なモニタリング範囲（サーバー、シャーシ、および/またはネットワーク スイッチ）、およびモニタリング モード（拡張可能または詳細）を選択します。モニタリング範囲またはモニタリング モードのいずれかを変更するには、OMIMSSC 管理ポータルで登録設定を編集します。
- SCOM コンソールで OMIMSSC を使用して検出およびモニタリングする Dell EMC デバイスの数に基づいて、1つ以上の Dell EMC アラート リレー サーバーを構成してオンボーディングします。アラート リレー サーバーとして使用する Windows システムを選択し、アラート リレー サーバーをインストールして構成する方法の詳細については、「[Dell EMC アラート リレー サーバーの構成およびオンボーディング](#)、p. 31」を参照してください。

## OMIMSSC での管理サーバーとの Dell EMC アラート リレー サーバーの詳細の同期

### 手順

1. SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integrations ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] の順にクリックします。  
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. 資格情報を入力して、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. [ 概要 ] ページで、[ 同期された SCOM 管理サーバーと Dell EMC アラート リレー サーバー ] セクションまで下にスクロールして、[ SCOM MS と同期 ] をクリックします。
5. [ SCOM 管理サーバーと Dell EMC アラート リレー サーバーの同期 ] ダイアログボックスで、SCOM 管理グループに追加または削除された Dell EMC アラート リレー サーバーがリストされます。[ 同期 ] をクリックします。

### タスクの結果

[ 概要 ] ページで、SCOM 管理サーバーの数と Dell EMC アラート リレー サーバーの数がアップデートされます。[ アラート リレー サーバーの表示 ] をクリックすると、設定されたすべての Dell EMC アラート リレー サーバーが表示されます。

# OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能を使用した PowerEdge サーバーの検出とモニタリング

## トピック：

- PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション向けの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の概要
- ホスト オペレーティング システムを使用し、WS-Man または iDRAC アクセスを使用した PowerEdge サーバーおよびワークステーションの検出と分類
- Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング (ライセンス対象) を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件
- OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用する PowerEdge サーバーの検出
- SCOM コンソールを使用した PowerEdge サーバーの検出
- WS-Man を使用したオブジェクトの検出
- iDRAC および SCOM コンソールでのアラート設定の構成
- SCOM コンソールでの PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング

## PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーション向けの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の概要

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング (ライセンス対象) 機能は、次のデバイスの検出とモニタリングの方法に基づいて、詳細または拡張可能インベントリを提供します。

- 第 12 世代、第 13 世代、および iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー
- PowerVault サーバ
- Dell Precision ラック
- Dell ブランドの OEM サーバー
- Dell OEM Ready サーバー
- Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノード

これは、ライセンス付きの機能です。モニタリング設定に基づいて、次の方法のいずれかで管理下の Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションにインストールされた iDRAC または iDRAC サービス モジュール (iSM) から、これらのデバイスを検出および監視できます。

- iDRAC WS-Man
- ホスト オペレーティング システムを使用した iDRAC アクセス
- iSM-WMI

## OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能の拡張可能エディションおよび詳細エディション

### 拡張可能エディション

- iSM-WMI を使用してライセンスされたモニタリング機能に対してのみ、個別のグループ レベルまでインベントリを生成しません。
- 拡張可能エディションでは、インスタンス レベルまでのインベントリを使用できます。
- サーバー、ラック型ワークステーション、コンポーネントグループ レベルでの正常性モニタリング。

## 詳細エディション

- 個々のコンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。
- 電源、温度、NIC、プロセッサ、メモリー、Compute Usage per Second ( CUPS )、PCIe SSD 摩耗率、および I/O パフォーマンス メトリックを表示します。

# ホスト オペレーティング システムを使用し、WS-Man または iDRAC アクセスを使用した PowerEdge サーバーおよびワークステーションの検出と分類

OMIMSSC アプライアンスを使用すると、PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの検出と分類を行うことができます。次の表は、iDRAC-WS-Man を使用した Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング ( ライセンス対象 ) 機能によるハードウェア検出とグループ化の詳細の一覧を示しています。

表 6. PowerEdge サーバーの検出とグループ化

グループ	ダイアグラムビュー	ハードウェアタイプ
Dell EMC PowerEdge サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>• Dell EMC モノリス型サーバー</li><li>• Dell EMC モジュラー型サーバー</li><li>• Dell EMC Sled グループ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Dell PowerEdge システム</li><li>• Dell PowerVault システム</li></ul>
Dell EMC ラック型ワークステーション	Dell EMC ラック型ワークステーションのダイアグラム	Dell Precision ラック

## Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング( ライセンス対象 ) を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件

- 共通の前提条件：
  - Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング ( ライセンス対象 ) 機能を使用して Dell EMC PowerEdge サーバーを検出する前に、Microsoft SMASH ライブラリー ( MPB ) ファイルをインストールします。Microsoft SMASH ライブラリー ( MPB ) ファイルのインストールの詳細については、[Web Services Management \( WS-Man \) と SMASH デバイス テンプレートのインストール](#)、p. 126 を参照してください。
- ホスト オペレーティング システムを使用した iDRAC アクセスの場合：
  - iSM バージョンが管理下ノードにインストールされている必要があります。
  - ホスト オペレーティング システムを使用した iDRAC アクセスが有効になっている必要があります。ホスト オペレーティング システムを使用した iDRAC アクセスを使用して PowerEdge サーバーを検出する方法の詳細については、<https://www.dell.com/idracmanuals> にある iDRAC7 または iDRAC8 ユーザーズ ガイドの「ホスト オペレーティング システムを介した iDRAC アクセス」セクションを参照してください。

## OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用する PowerEdge サーバーの検出

### このタスクについて

IP アドレスまたは IP 範囲を使用して、SCOM コンソールの [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] から iDRAC WS-Man を使って、Dell EMC PowerEdge サーバーを検出できます。

OMIMSSC から iDRAC WS-Man を使用して PowerEdge サーバーを検出するには、次のようにします。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。


2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] の順に展開し、[ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] を選択します。  
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. OMIMSSC ダッシュボードを表示するための認証情報を入力してから、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. [ モニタリング ] を選択し、[ サーバーの表示 ] リンクをクリックして PowerEdge サーバーを検出します。
5. [ サーバー ビュー ] ページで、[ 検出 ] をクリックします。
6. [ 検出 ] ダイアログ ボックスで、検出するサーバーの iDRAC IP アドレスおよびデバイス タイプ認証情報を入力します。IP 範囲を使用してサーバーを検出する場合は、開始範囲と終了範囲を含むサブネット内の IP ( IPv4 ) の範囲を入力します。
  - a. [ IP 範囲または IP アドレス範囲を使用した検出 ] で、
    - IP アドレスでサーバーを検出する場合は、次のようにします。
      - a. [ iDRAC IP アドレス ] ボックスに、検出するサーバーの IP アドレスを入力します。
      - IP アドレス範囲で複数のサーバーを検出する場合は、次のようにします。
        - a. IP アドレスの範囲を入力します。
        - b. 特定の IP アドレスが検出されないように除外するには、[ 除外範囲を有効にする ] チェック ボックスをオンにして、除外する IP アドレスの範囲を入力します。

一度に最大 250 台のサーバーを検出することができ、1 時間の間隔で検出ジョブが連続してトリガーされます。
7. [ この認定資格プロファイルを適用 ] ドロップダウン メニューから、デバイスの検出に使用する必要があるデバイス認定資格プロファイルを選択します。デバイス認定資格プロファイルを作成するには、[ 新規作成 ] をクリックします。 [デバイス認定資格プロファイルの作成](#)、p. 39 を参照してください。
8. このジョブのステータスを表示するには、[ ジョブ リストに移動 ] チェック ボックスをオンにします。
9. この検出タスクのジョブ名を入力します。
10. [ 終了 ] をクリックします。  
検出ジョブが作成されて開始され、検出されたサーバーが [ サーバー ビュー ] ページにリストされます。

## SCOM コンソールを使用した PowerEdge サーバーの検出

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ オーサリング ] を選択します。
2. 左ペインで、[ モニタリングの追加ウィザード ] リンクをクリックして、次のアクションを実行します。
3. [[ モニタリングの追加ウィザード ]] ダイアログ ボックスの [ モニタリング タイプ ] で、[ WS-Management と SMASH デバイス検出 ] を選択し、[ 次へ ] をクリックします。
4. [[ 全般プロパティ ]] で、テンプレートの名前と説明を入力します。
  - a. [ 管理パック ] で、[ 新規 ] をクリックします。
  - b. [ 名前 ] フィールドで管理パックの名前を入力して、[ 新規 ] をクリックします。  
管理パックの作成の詳細については、Microsoft SCOM のマニュアルを参照してください。
  - c. [ 作成 ] をクリックします。  
[ 管理パック ] ドロップダウン メニューで、作成された管理パックが選択されています。
5. [ 次へ ] をクリックします。
6. [ ターゲットの指定 ] ドロップダウン メニューの [[ ターゲットの選択 ]] で、これらのデバイスのモニタリングのためのリソースプールを選択して、[ 次へ ] をクリックします。
7. [[ 認証情報 ]] で、[ 新規 ] をクリックし、シンプル認証の Run As アカウントを作成します。
 


 **メモ:** iDRAC 用に AD ドメイン認証情報を使用している場合は、`username@domainname.com` というフォーマットで認証情報を入力してください。

  - a. [ Run As アカウント ] ドロップダウンメニューから作成した Run As アカウントを選択して、[ 次へ ] をクリックします。
8. [[ デバイス ]] で、[ 追加 ] をクリックします。
  - a. [[ デバイスの追加 ]] 画面で、検出するシステムの iDRAC IP ( 優先検出方法が iDRAC WS-Man の場合 ) またはホスト IP ( 優先検出方法がホスト オペレーティングシステムを使用した iDRAC アクセスの場合 ) アドレスをモニタリング設定に基づいて指定します。システムの優先 IP アドレスは、次の方法で指定できます。
    - 提供した **IP サブネット** をスキャンする。

- 指定された **IP 範囲** をスキャンする。
  - iDRAC IP/ ホスト IP アドレスのリストを含むテキストファイルをインポートする。  
詳細については、<https://www.dell.com/idracmanuals> で『Integrated Dell Remote Access Controller7/9 with Lifecycle Controller ユーザーズ ガイド』の『iSM PowerShell スクリプトを使用した設定』を参照してください。
- [ 詳細オプション ] をクリックし、[ CA チェックを省略 ] および [ CN チェックを省略 ] オプションを選択して、[ OK ] をクリックします。
  - [ デバイスのスキャン ] をクリックして、ネットワーク上の Dell EMC PowerEdge サーバーを検索します。  
IP アドレスが [ 使用可能デバイス ] にリストされます。
  - [ 追加 ] をクリックして、監視する IP アドレスのリストを追加し、[ OK ] をクリックします。
- [[ 監視するデバイスの指定 ]] の下で、[ 作成 ] をクリックします。
  - [ 閉じる ] をクリックします。  
スキャンした PowerEdge サーバーは、最初に [ モニタリング ] > [ WS-Management と SMASH モニタリング ] > [ WS-Management デバイス状況 ] の下に一覧表示されます。Operations Manager によって自動的にトリガーされた SMASH 検出が完了すると、PowerEdge サーバーが [ モニタリング ] > [ WS-Management と SMASH モニタリング ] > [ SMASH デバイス状態 ] に表示されます。
  - [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を使用して Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング ( ライセンス対象 ) 機能を有効にします。

## WS-Man を使用したオブジェクトの検出

- 検出オブジェクト - Dell EMC PowerEdge サーバーの検出
- 説明 - Dell EMC PowerEdge サーバーを分類し、主要な属性およびコンポーネントに入力します。
- 検出オブジェクト - Dell Device Helper の検出
- 説明 - Dell Device Helper をオブジェクトとして検出します。
- 検出オブジェクト - Dell ホスト NIC 関連検出
- 説明 - ホスト NIC インターフェイスと物理インターフェイスを関連させます。

 **メモ:** チーム内の NIC を 1 つだけ表示します。

## iDRAC および SCOM コンソールでのアラート設定の構成

PowerEdge サーバーを検出した後、OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールでアラートを受信するために、ターゲット iDRAC で次のアクションを自動的に実行します。

- iDRAC からアラート通知を送信するオプションは、PowerEdge サーバーに応じて、[ システム設定 ] > [ アラート構成 ] > [ アラート ] または [ アラート設定 ] で有効になります。
- [ SNMP トラップ構成 ] で、[ 送信先アドレス ] は、使用可能な送信先番号フィールドのデバイスに関連づけられたアラートリレーサーバーの IP アドレスに設定されます。

SCOM コンソールでは、コミュニティ文字列タイプの [ DellEMC\_OMIMSSC\_SNMPL\_RunAsAccount ] アカウントが作成されます。対応する Run As 設定プロファイル — [ SNMP モニタリングアカウント ] は、SNMP v1 または v2 コミュニティ文字列を使用して作成されます。デフォルトでは、DellEMC\_OMIMSSC\_SNMPL\_RunAsAccount は Dell EMC ハードウェア クラスに関連付けられます。SCOM で構成された SNMP モニタリング アカウントを使用すると、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション ( ライセンス対象 ) アラート ビューに iDRAC から SNMP アラートが表示されます。SNMP v1 または v2 コミュニティ文字列をアップデートする方法、または関連するクラスを変更する方法については、『SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成、p. 125』と『複数の Run As アカウントの関連付け、p. 126』を参照してください。

## SCOM コンソールでの PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング

OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールの [ Dell EMC ] フォルダーの下に、モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションに関する次のタイプのビューを提供します。

- [モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラート ビュー](#)、p. 46
- [モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラム ビュー](#)、p. 46
- [PowerEdge サーバーのパフォーマンスと電源のモニタリングの表示](#)、p. 47

- PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビューの表示、p. 47

## モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラートビュー

アラートビュー オプションは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションからのハードウェアおよびストレージのアラートを管理するために使用することができます。PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、およびサポートされている Dell Precision ラックの Broadcom および Intel ネットワーク インターフェイス カードから受信したイベントのリンク アップおよびリンク ダウン アラートは、**Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)** 機能によって表示されます。

## モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのアラートの表示

### このタスクについて

SCOM コンソールで Dell EMC サーバーおよびラック モニタリング (ライセンス対象) 機能のアラートを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. 左ペインで、[ モニタリング ] をクリックし、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC アラート ビュー ] の順に展開します。  
次の Dell EMC アラートビュー が表示されます。
  - Dell EMC ネットワーク インターフェイス アラート ビュー — 検出された NIC からのリンクアップおよびリンクダウン アラートが表示されます。
  - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) アラート ビューと、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション アラート ビュー - 第 12 世代、第 13 世代、さらに iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、および iDRAC7、iDRAC8、または iDRAC9 搭載の Dell Precision ラックの SNMP トラップが表示されません。
  - Dell EMC ラック型ワークステーションアラートビュー
    - Dell EMC ネットワークインタフェースアラート
    - Dell EMC ラック型ワークステーションアラート
2. **Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) アラート ビュー** を選択します。  
作業中のペインに、アラートの重要度、解決状態、またはユーザーに割り当てられたアラートなど、指定した条件を満たすアラートが表示されます。
3. アラートを選択すると、そのアラートに関する情報が [ アラートの詳細 ] セクションに表示されます。

## モニタリング対象サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラムビュー

[ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] には、ネットワーク上の PowerEdge サーバーおよび対応 Precision ラック型ワークステーションの階層的な図が表示されます。

## サーバーおよびラック型ワークステーションのダイアグラム ビューの表示

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] をクリックしてから [ Dell EMC ] > [ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] の順に展開します。  
使用可能なダイアグラム ビューの詳細については **OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー**、p. 111 を参照してください。
2. ステータスを表示するサーバーまたはラック型ワークステーションに基づいて、それぞれのダイアグラム ビューを選択します。  
右側のペインに、選択した Dell EMC サーバまたはラック型ワークステーションの階層的な図が表示されます。
3. デバイスに関する詳細情報を表示するには、ダイアグラム内のコンポーネントを選択します。  
コンポーネントの詳細は、[ 詳細ビュー ] セクションに表示されます。

## PowerEdge サーバーのパフォーマンスと電源のモニタリングの表示

### 手順

- SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
- [ Dell EMC ] > [ Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー ] を選択します。  
**メモ:** すべてのパフォーマンス メトリック ルールは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング 監視 ( ライセンス対象 ) 機能に対してデフォルトでは無効に設定されています。  
使用可能なパフォーマンスおよび電源モニタリング ビューの詳細については、OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー、p. 115 を参照してください。
- システム ボードの使用率**メトリクスを表示するには、[ Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ] > [ Dell EMC システム ボードの使用率 ] を選択します。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー、p. 115 を参照してください。
- 個々のパフォーマンスビューからカウンタを選択し、時間範囲 ( 必須値 ) を選択します。  
収集されるデータは、各システムについて図形式で表示されます。

### タスクの結果

ユニット モニターは、2つの連続するサイクルでパフォーマンス カウンターを監視し、それが設定された重要しき値を超過するかどうかをチェックします。重要しき値を超過すると、サーバーが状態を変更して重要アラートが生成されます。このユニットモニターはデフォルトで無効になっています。しきい値は、SCOM コンソールの [ オーサリング ] ペインから上書き ( 有効化 ) することができます。ユニットモニターは、ライセンス対象のモニタリング機能の [ Dell サーバー ] オブジェクトで使用できます。ユニットモニターを有効にして、ユニットモニターのしきい値を設定するには、パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニットモニターの有効化、p. 47 を参照してください。

**メモ:** 電源モニタリングは、電源モニタリング機能の属性を備えた Dell EMC PowerEdge サーバーにのみ適用されます。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の詳細エディションが存在する場合にのみ有効になります。

**メモ:** ディスク パフォーマンス ビュー - iSM ( % ) は、デフォルトでは無効になっており、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の詳細エディションがインストールおよびインポートされた場合にのみ表示されます。

## パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化

### 手順

- SCOM コンソールの左側のペインで、[ オーサリング ] をクリックします。
- [ 管理バック オブジェクト ] を展開し、[ モニター ] を選択します。
- 作業中のペインの [ 検索対象 ] フィールドで、パフォーマンスを検索します。  
パフォーマンスがモニタリングされているデバイスのリストが表示されます。
- Dell サーバーが見つかるまで下にスクロールして、[ パフォーマンス ] を展開します。  
Dell サーバーに関連付けられているパフォーマンス ユニット モニターのリストが表示されます。
- 有効にするユニット モニターを右クリックし、[ オーバーライド ] > [ モニターのオーバーライド ] > [ クラスのすべてのオブジェクト : Dell サーバー ] をクリックします。
- [ プロパティをオーバーライド ] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。
  - [ 有効 ] 行の [ オーバーライド値 ] を [ True ] に設定します。
  - [ 管理バック ] セクションで、ドロップダウン リストから管理バックを選択します。  
OMIMSSC の管理バックを作成するには、[ 新規 ] をクリックします。
- [ 適用 ] をクリックします。


## PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビューの表示

### 手順

- SCOM の左側のペインで、[ モニタリング ] を選択し、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC 状態ビュー ] の順に展開します。

ネットワーク上で SCOM によって管理されている Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのステータスが表示されます。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー、p. 114 を参照してください。

2. コンポーネントに関するデータを表示するには、コンポーネントを選択します。  
詳細は [[ 詳細ビュー ]] セクションに表示されます。

 **メモ:** グループの稼働状態は、サブコンポーネントの稼働状態のステータスをロールアップしたものです。

# iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーの検出と管理

## トピック：

- 
- iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの拡張可能エディションおよび詳細エディション
- iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの検出と分類
- iSM-WMI を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件
- iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーの検出
- iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能

## このタスクについて

iSM-WMI を使用した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能は、次のデバイスの検出およびモニタリングの方法に基づいて、詳細または拡張可能インベントリを提供します。

- YX2X、YX3X、および iDRAC 9 ベースの PowerEdge サーバー
- PowerVault サーバ
- Dell Precision ラック
- Dell ブランドの OEM サーバー
- Dell OEM Ready サーバー
- PowerEdge Storage Space Direct Ready ノード

これらのデバイスのインベントリとモニタリングは、iSM-WMI を介して管理下 Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションにインストールされた iDRAC サービス モジュール ( iSM ) を介して行うことができます。iSM でサポートされているプラットフォームのリストについては、デル・テクノロジーのサポート サイトで『iDRAC サービス モジュール インストール ガイド』を参照してください。

## iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの拡張可能エディションおよび詳細エディション

### このタスクについて

iSM-WMI モニタリング機能を使用して検出されたサーバーおよびラック型ワークステーションは、SCOM コンソールで「サーバー ( iSM-WMI )」として分類されます。

- 拡張可能エディション
  - 個々のコンポーネントレベルまでのインベントリの生成。
  - サーバー、ラック型ワークステーション、コンポーネントグループレベルでの正常性モニタリング。
- 詳細エディション
  - 個々のコンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。
  - 電源、温度のメトリック、NIC、プロセッサ、メモリー、Compute Usage per Second ( CUPS )、PCIe SSD 摩耗率、IO パフォーマンス メトリックの表示。

# iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの検出と分類

## このタスクについて

次の表は、iSM-WMI を使用した Dell EMC サーバーおよびラックのモニタリング機能によるハードウェア検出とグループ化に関する情報を示しています。

表 7. iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーの検出とグループ化

グループ	ダイアグラムビュー	ハードウェアタイプ
Dell EMC PowerEdge サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>● Dell EMC モノリス型サーバー</li><li>● Dell EMC モジュラー型サーバー</li><li>● Dell EMC Sled グループ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● Dell PowerEdge システム</li><li>● Dell PowerVault システム</li></ul>
Dell EMC ラック型ワークステーション	Dell EMC ラック型ワークステーションのダイアグラム	Dell Precision ラック

## iSM-WMI を使用して PowerEdge サーバーを検出するための前提条件

- iSM の必要なバージョンが管理下ノードにインストールされている。[サポートマトリックス](#)、p. 17 を参照してください。  
**メモ:** Microsoft Nano サーバーを実行しているシステムで iSM-WMI 機能を使用してデバイスをモニタリングしている場合は、[デル・テクノロジーズのサポートサイトの『iDRAC サービス モジュールインストールガイド』の「Nano オペレーティングシステムでの iDRAC サービス モジュールのインストール」](#) セクションを参照してください。
- Windows Management Instrumentation ( WMI ) 機能がホストで有効に設定されている。詳細については、[デル・テクノロジーズのサポートサイトの『Integrated Dell Remote Access Controller 7/8/9 with Lifecycle Controller ユーザーズ ガイド』の「Windows Management Instrumentation プロバイダー」](#) セクションを参照してください。
- [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] で、[ エージェント プロキシの有効化 ] タスクが、iSM-WMI を使用して Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能に対して実行されます。

## iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーの検出

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ 管理 ] を選択します。
  2. 左ペインで、[ 検出ウィザード ] を選択します。
  3. 作業中のペインで、[ Windows コンピューター ] を選択し、[ コンピューターとデバイス管理ウィザード ] により表示されるタスクを実行します。詳細については、[Microsoft SCOM のマニュアル](#)を参照してください。  
**メモ:** インストーラーは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 管理パックを SCOM コンソールに自動的にインポートします。インストーラーが管理パックのインストールに失敗した場合は、SCOM コンソールで、[ 管理パックのインポート ] ウィザードまたは [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を使用して管理パックをインポートしてください。  
**メモ:** 分散型の環境では、デバイスの検出が正常に行われなかった場合があります。エラー メッセージに表示されているすべての条件が検証されていることを確認してから、デバイスを検出します。
- 検出されたサーバーは、[ Dell EMC 状態ビュー ] の [ Dell EMC サーバー ( iSM ) 状態ビュー ] の下に表示されます。

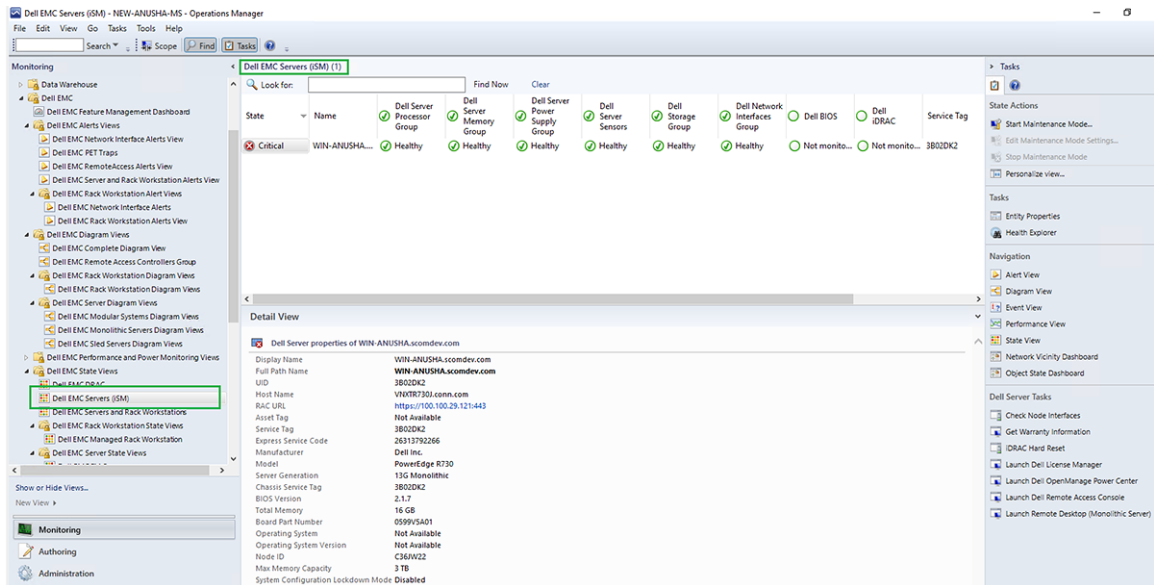


図 6. iSM-WMI を使用して検出された PowerEdge サーバー

初めて iDRAC サービス モジュール ( iSM ) から Dell EMC PowerEdge サーバーが検出されると、Dell Server ( iSM ) informational alert が生成されます。この情報アラートは、1 回限りのアラートです。

## iSM-WMI を使用したオブジェクトの検出

### このタスクについて

[ Dell EMC PowerEdge サーバーの検出 ] - Dell EMC PowerEdge サーバーを分類し、キーの属性とコンポーネントを入力します。

## iSM-WMI を使用した PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能

SCOM コンソールの [ モニタリング ] ペインを使用して、検出された Dell EMC PowerEdge サーバーの正常性情報を提供するビューを選択します。SCOM コンソールで検出されるデバイスの重要度レベルに応じて、ネットワーク上の Dell EMC PowerEdge サーバーの正常性を示すことができます。

これには、一定間隔とイベント発生時の両方における、Dell EMC モジュラー型サーバー、Dell EMC モノリス型サーバー、および Dell Precision ラック型ワークステーションのグループレベルでの正常性のモニタリングが含まれます。

## iSM-WMI を使用した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能のビューオプション

SCOM コンソールで [ モニタリング ] > [ Dell EMC ] の順に選択すると、サーバーおよびラック型ワークステーションをモニタリングするための次のビュータイプがあります。

- iSM-WMI を使用したモニタリング機能のアラート ビュー、p. 52
- iSM-WMI を使用したモニタリング機能のダイアグラム ビュー、p. 52
- iSM-WMI を使用したモニタリング機能のパフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー、p. 52
- iSM-WMI を使用したモニタリング機能の状態ビュー、p. 54

## iSM-WMI を使用したモニタリング機能のアラート ビュー

このビューは、iSM-WMI を使用して Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能からハードウェアおよびストレージ イベントを管理するために使用できます。Broadcom およびインテル ネットワーク インターフェイス カード (NIC) から受け取ったイベントのアラートのリンクアップおよびリンクダウンが表示されます。

iSM-WMI を使用して PowerEdge サーバーおよびワークステーション用の DSMPS のモニタリング機能によって表示されるアラートビューを表示するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC アラート ビュー ] を展開します。次のアラートが表示されます。
  - [ Dell EMC ネットワーク インターフェイス アラート ビュー ] - 検出された NIC からのリンクアップおよびリンクダウン アラート。
  - [ Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション アラート ] - iDRAC7、iDRAC8、または iDRAC9 を搭載した第 12 世代、第 13 世代、および iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、Dell Precision ラックの SNMP トラップが表示されます。
  - Dell EMC ラック型ワークステーションアラートビュー
    - [ Dell EMC ネットワーク インターフェイス アラート ] - 検出された NIC からのリンクアップおよびリンクダウン アラート。
    - [ Dell EMC ラック型ワークステーションアラート ]
3. 必要なアラート ビューを選択します。右ペインに、アラートの重要度、解決状態、ユーザーに割り当てられたアラートなど何らかの基準を満たすアラートが表示されます。
4. [ アラート詳細 ] セクションで詳細を表示するアラートを選択します。

## iSM-WMI を使用したモニタリング機能のダイアグラム ビュー

### このタスクについて

Dell EMC ダイアグラム ビューには、ネットワーク上のすべての Dell EMC PowerEdge サーバーおよび対応ラック型ワークステーションの階層的な図が表示されます。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] を展開します。
3. [ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] フォルダーに移動して、使用可能なダイアグラム ビューを確認します。[OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー](#)、p. 111 を参照してください。
4. 必要な [ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] を選択して、右ペインで選択した Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションの階層的な図を表示します。
5. ダイアグラム内のコンポーネントを選択して、[ 詳細ビュー ] セクションに詳細を表示します。

## iSM-WMI を使用したモニタリング機能のパフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー

### このタスクについて

Dell EMC パフォーマンスと電源モニタリングを SCOM コンソールで表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ モニタリング ] ペインで、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー ] を展開します。次のパフォーマンスおよび電源モニタリング ビューを使用できます。
  - [ Dell パフォーマンスビュー ( iSM ) ]
  - [ ディスクパフォーマンス - iSM ( % ) ]

**メモ:** すべてのパフォーマンス メトリック ルールは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能に対してデフォルトでは無効に設定されています。

3. システム ボードの使用率メトリックを表示するには、[ Dell EMC パフォーマンスと電源モニタリング ] > [ Dell EMC システム ボードの使用率 ] をクリックして、以下のビューを表示します。
  - [ CPU 使用率 - iSM ( % ) ]
  - [ IO 使用率 - iSM ( % ) ]
  - [ メモリ使用率 - iSM ( % ) ]
  - [ システム全体の使用率 - iSM ( % ) ]
4. 個々のパフォーマンスビューからカウンタを選択し、時間範囲 ( 必須値 ) を選択します。  
収集されるデータは、システムごとに図形式で表示されます。

#### 次の手順

ユニット モニターは、パフォーマンス カウンターを 2 サイクル連続して監視し、しきい値を超えているかどうかを確認します。しきい値を超えると、Dell EMC PowerEdge サーバの状態が変化し、アラートが生成されます。このユニット モニターはデフォルトで無効になっています。SCOM コンソールの [ オーサリング ] ペインのしきい値を上書き ( 有効化 ) できます。ユニット モニターは、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の [ Dell Windows Server ] オブジェクトで使用できます。ユニット モニターのしきい値を有効にするには、[パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化](#)、p. 47 を参照してください。

PowerEdge サーバのパフォーマンス収集ルールを有効にする方法、およびパフォーマンス情報の収集に関する詳細については、[SCOM コンソールで設定された PowerEdge サーバ パフォーマンス コレクション ルールの有効化](#)、p. 53 を参照してください。

## SCOM コンソールで設定された PowerEdge サーバ パフォーマンス コレクション ルールの有効化

#### このタスクについて

デフォルトでは、サーバ パフォーマンス コレクション ルールは無効になっています。有効にするには、次の手順に従います。

#### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ オーサリング ] を選択します。
2. [ ルール ] を選択し、[ 検索対象 ] フィールドで、「エンリッチ」を検索します。
3. 有効にするルールを右クリックし、[ 上書き ] > [ モニターの上書き ] > [ クラスの全オブジェクト ] の順に選択します。  
たとえば、すべての Dell EMC システムのネットワーク インターフェイスに関するデータを収集するには、次のルールを右クリックします。
  - 送信されたパケットの総数
  - 受信されたバイト数
  - 受信されたパケット総数
  - 送信されたバイト数
4. [ 有効 ] を選択し、上書き値 を True に設定します。
5. [ 管理パック ] セクションで、ドロップダウン リストから管理パックを選択します。  
管理パックを作成するには、[ 新規 ] をクリックします。
6. [ 適用 ] をクリックします。

#### タスクの結果

SCOM コンソールで、[ モニタリング ] > [ Dell EMC ] > [ Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー ] を選択して、Dell EMC PowerEdge サーバから収集されたパフォーマンス情報を表示します。

パフォーマンス コレクション ルールは、以下のパラメーターについての情報を収集します。

- ディスクパフォーマンス ( % )
- 環境温度 ( セ氏 )
- アンペア数 ( アンペア )
- エネルギー消費量 ( kWh )
- ピークアンペア数 ( アンペア )
- ピーク電力 ( ワット )
- 物理ネットワークインターフェイス
- 電力消費量 ( BTU/ 時 )
- 電力消費量 ( ワット )

- チューニングされたネットワークインタフェース

- ① **メモ:** サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の詳細エディションをインポートすると、無効のパフォーマンス (ネットワーク パフォーマンスを除く) とライセンス不要のディスク パフォーマンス (%) の収集ルールがデフォルトで有効になります。
- ① **メモ:** [ ディスク パフォーマンス (%) ] - このビューには、PowerEdge サーバーの SSD の [ 残存する定格書き込み耐久性 ] が表示されます。データを表示するには、SSD オブジェクトを検索します。
- ① **メモ:** ネットワーク統計は、デフォルトでは無効になっていますが、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能の詳細エディションでのみ定義されています。

## iSM-WMI を使用したモニタリング機能の状態ビュー

### このタスクについて

状態ビューを使用して、さまざまなモニタリング機能で監視される Dell EMC デバイスの正常性を表示できます。デバイスの状態を表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC 状態ビュー ] を展開します。  
モニタリング機能に基づいて、さまざまな状態ビューがリストされます。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー、p. 114 を参照してください。
3. コンポーネントに関するデータを表示するには、コンポーネントを選択します。  
[ 詳細ビュー ] セクションに情報が表示されます。

### タスクの結果

コンポーネントの正常性は、コンポーネントに関連付けられた未解決のアラートを確認することによって取得されます。検出されたデバイスの重要度レベル、p. 103 対応する重大度レベルにおけるさまざまな状態コンポーネントについて説明しています。

# OMIMSSC を使用した Dell EMC シャーシの検出とモニタリング

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2 または FX2s シャーシ、PowerEdge VRTX シャーシ、PowerEdge M1000E シャーシ、Dell OEM Ready シャーシ上の Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise—Modular ( CMC/OME-M ) の以下を使用した検出とモニタリングをサポートします。

- SNMP および/または WS-Man プロトコル
- Redfish

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、対応する SCOM バージョンの個々のシャーシ コンポーネントの詳細エディション モニタリングもサポートします。

## トピック：

- シャーシの検出と分類
- OMIMSSC を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出
- SCOM を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出
- シャーシ向け SCOM コンソールでの SNMP RunAsAccount の設定
- OMIMSSC のシャーシ モニタリング機能
- シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能

## シャーシの検出と分類

OMIMSSC アプライアンスは、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2/FX2s、PowerEdge M1000e、PowerEdge VRTX 上の Dell EMC Chassis Management Controller/ OpenManage Enterprise—Modular ( CMC/OME-M ) を検索して分類することができます。

次の表は、Dell EMC シャーシ モニタリング機能によるハードウェア検出とグループ化の詳細を一覧にしたものです。

表 8. Dell EMC シャーシの検出とグループ化

グループ	ダイアグラムビュー	ハードウェアタイプ
Dell EMC CMC/OME-M	Dell シャーシダイアグラムビュー	ネットワーク上の CMC/OME-M インスタンス、シャーシとそのコンポーネント、シャーシ内で使用されるサーバー モジュール スロット。
Dell EMC PowerEdge M1000e	Dell EMC M1000e シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge M1000e
Dell EMC PowerEdge VRTX	Dell EMC VRTX シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge VRTX
Dell EMC FX2	Dell EMC FX2 シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge FX2
Dell EMC PowerEdge MX7000	Dell EMC MX7000 シャーシダイアグラムビュー	PowerEdge MX7000

# OMIMSSC を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出

## このタスクについて

[ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] で、IP アドレスまたは IP 範囲を使用して Dell EMC PowerEdge シャーシを検出できます。シャーシを検出するには、シャーシの IP アドレスとデバイス タイプ認証情報を入力します。IP 範囲を使用してシャーシを検出する場合は、範囲の開始と終了を含めることによって、サブネット内の IP ( IPv4 ) の範囲を指定します。

OMIMSSC を使用して Dell EMC PowerEdge シャーシを検出するには、次の手順を実行します。

## 手順


1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] の順に展開し、[ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] を選択します。  
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. OMIMSSC ダッシュボードを表示するための認証情報を入力してから、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. [ モニタリング ] を選択して、シャーシを検出するための [ モジュラー型サーバーの表示 ] リンクをクリックします。
5. [ [ モジュラー型システム ビュー ] ] ページで、[ 検出 ] をクリックします。
6. [ 検出 ] ダイアログ ボックスで、以下を行います。
  - a. [ IP 範囲または IP アドレス範囲を使用した検出 ] で、
    - IP アドレスを使用してシャーシを検出するには、
      - a. [ IP アドレス ] ボックスに、検出するシャーシの IP アドレスを入力します。
      - IP アドレス範囲を使用して複数のシャーシを検出するには、
        - a. IP アドレスの範囲を入力します。
        - b. 特定の IP アドレスが検出されないように除外するには、[ 除外範囲を有効にする ] チェック ボックスをオンにして、除外する IP アドレスの範囲を入力します。
7. [ この認定資格プロファイルを適用 ] ドロップダウン メニューから、デバイスの検出に使用する必要があるデバイス認定資格プロファイルを選択します。デバイス認定資格プロファイルを作成するには、[ 新規作成 ] をクリックします。[デバイス認定資格プロファイルの作成](#)、p. 39 を参照してください。
8. このジョブのステータスを表示するには、[ ジョブ リストに移動 ] チェック ボックスをオンにします。
9. この検出タスクのジョブ名を入力します。
10. [ 終了 ] をクリックします。  
検出ジョブが作成および開始され、検出されたシャーシが [ [ モジュラー型システム ビュー ] ] ページに一覧されます。

# SCOM を使用した Dell EMC PowerEdge シャーシの検出

## このタスクについて

シャーシ デバイスは、SCOM コンソールの [ 管理 ] セクションでネットワーク デバイスとして検出されなければなりません。SCOM コンソールでシャーシを検出するには、次のアクションを実行します。

## 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ 管理 ] をクリックします。
2. 左ペインで、[ 検出ウィザード ] をクリックします。
3. [ ネットワーク デバイス ] を選択し、[ コンピューターとデバイス管理ウィザード ] によってプロンプトが表示されたら、タスクを完了します。詳細については、Microsoft SCOM のマニュアルを参照してください。  
 **メモ:** シャーシ デバイスを検出するために作成した Run As アカウントを選択します。
4. [ デバイス コンソールの追加 ] 画面で、検出するシャーシの IP アドレスを入力します。
5. SNMP V1 または SNMP V2 [ Run As アカウント ] ドロップダウン メニューから必要な Run As アカウントを選択します。
6. [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を使用して、シャーシ モニタリング機能を有効にします。

OMIMSSC コンソールから Microsoft System Center との同期を実行して、SCOM コンソールで検出されたシャーシ デバイスの検出を完了します。

## シャーシ向け SCOM コンソールでの SNMP RunAsAccount の設定

Dell EMC PowerEdge シャーシを検出した後、アラートを受信するには、Dell EMC Chassis Management Controller または OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) から SCOM コンソールにアラート通知を送信するオプションを手動で有効にする必要があります。

SCOM コンソールでは、コミュニティ文字列タイプの [ DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount ] アカウントが作成されます。対応する Run As 設定プロファイル — [ SNMP モニタリングアカウント ] は、SNMP v1 または v2 コミュニティ文字列を使用して作成されます。デフォルトでは、DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount は Dell EMC ハードウェア クラスに関連付けられます。SNMP v1 または v2 コミュニティ文字列をアップデートする方法、または関連するクラスを変更する方法については、「SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成、p. 125」と「複数の Run As アカウントの関連付け、p. 126」を参照してください。

## OMIMSSC のシャーシ モニタリング機能

Operations Manager の [ モニタリング ] ペインを使用して、検出された Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) デバイスの完全な正常性情報を表示するビューを選択することができます。Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、Dell CMC/OME-M デバイスの正常性を検出および監視します。検出されたデバイスの重要度レベル、p. 103 は、ネットワーク上の Dell CMC/OME-M デバイスの正常性を示します。

シャーシ モニタリングには、一定間隔およびイベント発生時の両方における Dell シャーシ デバイスの正常性のモニタリングが含まれます。

**メモ:** Dell EMC シャーシの詳細モニタリングを実行するには、プロファイル ( Dell CMC ログイン アカウント Run as プロファイル ) に対して、Dell Modular Chassis クラスまたは各 CMC オブジェクト ( 異なる CMC/OME-M デバイスで異なる Run As アカウントがある場合 ) としてのターゲットに Dell CMC へのアクセスに必要な WS-Man 認証情報 Run As アカウントを関連付けます。

## SCOM コンソールのモニタリング対象シャーシ ビュー

OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールの [ モニタリング ] > [ Dell EMC ] で Dell EMC シャーシを監視するための次のタイプのビューを提供します。

- [モニタリング対象 Dell EMC シャーシのアラートの表示](#)、p. 57
- [シャーシのダイアグラム ビューの表示](#)、p. 58
- [PowerEdge シャーシのパフォーマンスおよび電源モニタリングの SCOM コンソールでの表示](#)、p. 59
- [シャーシの状態ビューの表示](#)、p. 60

## モニタリング対象 Dell EMC シャーシのアラートの表示

### このタスクについて

モニタリング対象シャーシのアラート ビューは、Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) デバイスからのハードウェアおよびストレージ イベントの管理に使用できます。シャーシ デバイスから送信された SNMP トラップは、Dell EMC シャーシ モニタリング機能によって表示されます。

シャーシ モニタリング アラートを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC アラート ビュー ] を展開します。  
次のアラート ビューが表示されます。
  - [ Dell EMC シャーシ アラート ] - 検出されたシャーシ デバイスからの SNMP トラップが表示されます。

- [ Dell EMC シャーシのアラートビュー ]
  - [ Dell EMC FX2 シャーシのアラートビュー ] — 検出された PowerEdge FX2 シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
  - [ Dell EMC M1000E シャーシのアラートビュー ] — 検出された PowerEdge M1000E シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
  - [ Dell EMC MX7000 シャーシのアラートビュー ] — 検出された PowerEdge MX7000 シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
  - [ Dell EMC VRTX シャーシのアラートビュー ] — 検出された PowerEdge VRTX シャーシデバイスからの SNMP トラップが表示されます。
- 3. 必要なアラートビューを選択します。  
アラートの重要度、解決状態、またはユーザーに割り当てられたアラートなど、指定した条件を満たすアラートが作業中のペインに表示されます。
- 4. アラートを選択すると、そのアラートに関する情報が [ アラート詳細 ] セクションに表示されます。

## シャーシのダイアグラムビューの表示

### このタスクについて

SCOM コンソールのモニタリング対象シャーシのダイアグラムビューで、次の操作を行います。

### 手順

1. SCOM コンソールの左側のペインで、[ モニタリング ] を選択してから、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC ダイアグラムビュー ] の順に展開します。
2. 次のビューの [ Dell EMC ダイアグラムビュー ] フォルダーを選択します。
  - [Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ダイアグラムビューの表示](#)、p. 58
  - Dell EMC FX2 シャーシダイアグラムビュー
  - Dell EMC M1000E シャーシダイアグラムビュー
  - Dell EMC MX7000 シャーシダイアグラムビュー
  - Dell EMC VRTX シャーシダイアグラムビュー

[OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラムビュー](#)、p. 111 を参照してください。
3. 必要なダイアグラムビューを選択します。  
作業中のペインに、選択した Dell EMC シャーシの階層的な図が表示されます。
4. ダイアグラム内のコンポーネントを選択して、[ 詳細ビュー ] セクションに詳細を表示します。

## Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ダイアグラムビューの表示

[ Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ] ダイアグラムビューには、すべての Dell EMC Chassis Management Controllers/ OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M )、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2、PowerEdge M1000E、および PowerEdge VRTX、およびそのインベントリが図示されます。

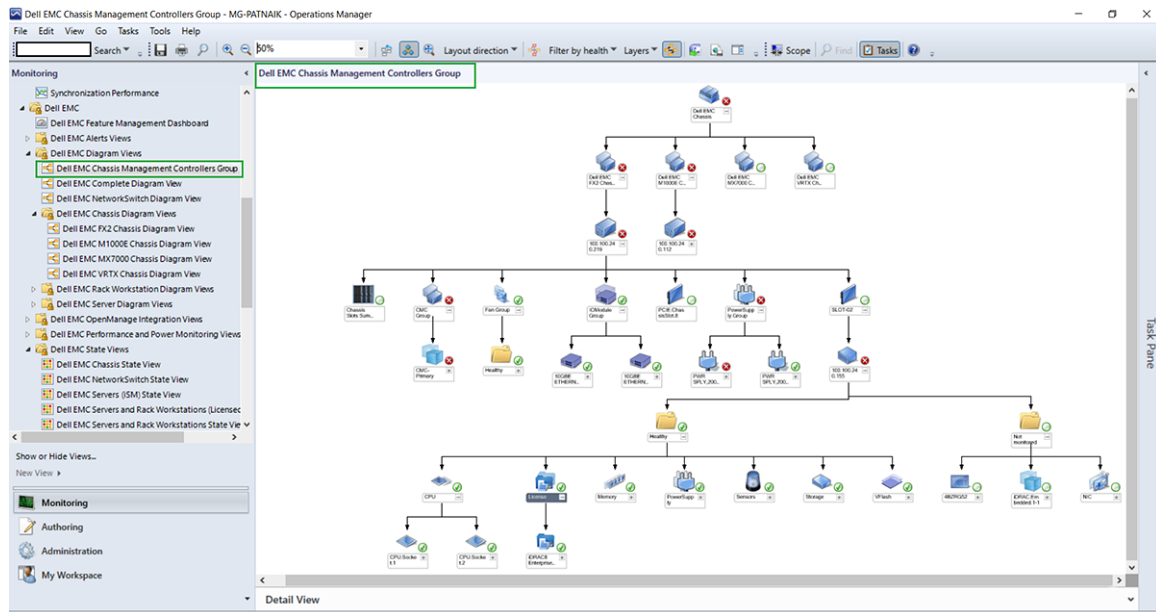


図 7. Dell EMC Chassis Management Controllers グループのダイアグラム ビュー

検出された Dell EMC CMC シャーシについて、以下を表示するために、デフォルトで無効となっているスロット検出を有効にしてください。

- [ シャーシスロットサマリ ] 内の使用中および空きスロットのサマリ。
- [ ダイアグラムビュー ] に反映された、CMC シャーシで変更済みのスロットインベントリの詳細。
- ライセンス対象またはライセンス不要のモニタリング機能を使用して検出された Dell EMC PowerEdge サーバと、[ Dell EMC Chassis Management Controllers グループ ] ダイアグラムに表示される CMC シャーシのスロットとの相関関係。Dell EMC PowerEdge サーバは、ダイアグラムのスロットの下に表示されます。

**メモ:** シンプル認証、基本認証、ダイジェスト認証のみを使用した CMC/OME-M スロット検出の [ Run As アカウント ] を作成します。

**メモ:** モジュラー型システムの iDRAC ファームウェアは、CMC ファームウェアとの互換性を備えている必要があります。互換性がないと、サービス タグが [ 使用不可 ] として表示され、シャーシブレード相関が不可能となる場合があります。

## PowerEdge シャーシのパフォーマンスおよび電源モニタリングの SCOM コンソールでの表示

### このタスクについて

[ Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビュー ] は、Dell EMC シャーシ モニタリング機能の詳細機能がインストールされており、メトリック パラメータのオーバーライド時にメトリック モニタリングを選択しなければ使用できません。メトリック パラメータのオーバーライドの詳細については、[デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド](#)、p. 104 を参照してください。

Dell EMC シャーシのパフォーマンスおよび電源モニタリングを表示するには、次のようにします。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー ] > [ Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビュー ] の順に展開します。
3. 個々のパフォーマンスビューからカウンタを選択し、時間範囲 ( 必須値 ) を選択します。収集されたデータが、システムごとにグラフに表示されます。

## シャーシの状態ビューの表示

Dell EMC シャーシの状態ビューは、Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) デバイスの正常性を表示するために使用できます。

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択してから [ Dell EMC ] > [ Dell EMC 状態ビュー ] の順に展開します。
2. 必要なシャーシグループを選択して、正常性の状態を表示します。次のデバイスのステータスを表示することができます。
  - Dell EMC 状態ビュー
  - Dell EMC シャーシ状態ビュー
  - Dell EMC FX2 シャーシ状態ビュー
  - Dell EMC M1000E シャーシ状態ビュー
  - Dell EMC MX7000 シャーシ状態ビュー
  - Dell EMC VRTX シャーシ状態ビュー

OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー、p. 114 を参照してください。

コンポーネントの正常性は、コンポーネントに関連付けられた未解決のアラートを確認することによって取得されます。検出されたデバイスの重要度レベル、p. 103 は、OMIMSSC が対応する重大度レベルで使用しているさまざまな状態コンポーネントを示します。

## シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能

シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能は次をサポートします。

- シャーシ スロットでライセンス対象またはライセンス不要のモニタリング機能を使用して検出されたモジュラー型サーバー 関連。
  - ① **メモ:** Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) スロット検出はデフォルトで無効になっています。このため、関連機能を動作させるには、CMC/OME-M スロット検出を有効にします。
- シャーシ共有ストレージコンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバの相関。
  - ① **メモ:** シャーシ共有コンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバとの相関のために、Dell EMC シャーシ詳細モニタリング エディションをインポートします。

## シャーシ モジュラー型サーバー 関連機能を使用して検出されたオブジェクト

- **検出オブジェクト** - Dell EMC シャーシとモジュラー型サーバーとの相関関係を検出します。
- **説明** - Dell EMC シャーシと Dell モジュラー型システムとの相関関係を検出します。
- **検出オブジェクト** - Dell EMC シャーシ ストレージからブレード サーバーへの相関関係を検出します。
- **説明** - Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーション モニタリングによって検出された Dell EMC PowerEdge サーバで、シャーシ共有コンポーネント間の相関関係を検出します。
- ① **メモ:** 検出された相関モジュラー型サーバーのパフォーマンス グラフは Dell EMC サーバ パフォーマンス ビューと Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビューの両方に表示されます。

# OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出とモニタリング

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、M-Series、Z-Series、N-Series、S-Series スイッチなどのネットワーク スイッチの検出とモニタリングをサポートします。Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能では、SNMP ベースの通信が実行されます。

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、サポート対象の SCOM のバージョンの個々のスイッチ コンポーネントの詳細なレベルでのモニタリングも行います。

## トピック：

- ネットワーク スイッチの検出と分類
- プロパティを上書きしてネットワーク スイッチの検出プロセスをカスタマイズする
- OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出
- SCOM を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出
- ネットワーク スイッチ向け SCOM コンソールでの SNMP RunAsAccount の設定
- OMIMSSC のネットワーク スイッチ モニタリング機能

## ネットワーク スイッチの検出と分類

ネットワーク スイッチ モニタリング機能によるハードウェア検出とグループ化の詳細は、次のとおりです。

- グループ - Dell EMC ネットワーク スイッチ
- ダイアグラム ビュー - Dell EMC ネットワーク スイッチのダイアグラム ビュー
- ハードウェア タイプ - ネットワーク、スイッチ、およびそのコンポーネント上のスイッチ インスタンス。

## プロパティを上書きしてネットワーク スイッチの検出プロセスをカスタマイズする

検出パラメーター、パフォーマンス、および正常性メトリックを上書きすることによって、ネットワーク スイッチの検出をカスタマイズできます。ネットワーク スイッチの検出パラメーターおよび正常性メトリックを上書きするには、[デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド](#)、p. 104 を参照してください。[ 検出、モニタリング、およびパフォーマンス間隔の上書き ] ページで、スイッチ パラメーターを編集するには、[ ネットワーク スイッチ ] チェック ボックスを選択します。

## OMIMSSC を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出

### このタスクについて

IP アドレスまたは IP 範囲を使用して、スイッチを検出できます。スイッチを検出するには、スイッチの IP アドレスとスイッチのデバイス認定資格プロファイルを指定します。IP 範囲を使用してスイッチを検出する場合は、範囲に開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを含めることによって、サブネット内の IP ( IPv4 ) の範囲を指定します。

OMIMSSC を使用してネットワーク スイッチを検出するには、次のようにします。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。

2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] の順に展開し、[ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] を選択します。  
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. 資格情報を入力して、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. 左ペインで [ モニタリング ] > [ ネットワーク スイッチ ビュー ] の順に選択し、[ 検出 ] をクリックします。
5. [ 検出 ] ダイアログ ボックスで次の手順を実行します。
  - [ IP 範囲または IP アドレス範囲を使用した検出 ] で IP アドレスの範囲を使用して、複数のネットワーク スイッチを検出するには、次のようにします。
    - a. IP アドレスの範囲を入力します。
    - b. 特定の IP アドレスが検出されないように除外するには、[ 除外範囲を有効にする ] チェック ボックスをオンにして、除外する IP アドレスの範囲を入力します。
  - IP アドレスを使用してネットワーク スイッチを検出するには、次のようにします。
    - a. [ ネットワーク スイッチの IP アドレス ] ボックスに、検出するネットワーク スイッチの IP アドレスを入力します。
6. [ この認定資格プロファイルを適用 ] ドロップダウン メニューから、デバイスの検出に使用する必要があるデバイス認定資格プロファイルを選択します。デバイス認定資格プロファイルを作成するには、[ 新規作成 ] をクリックします。[デバイス認定資格プロファイルの作成](#)、p. 39 を参照してください。
7. このジョブのステータスを表示するには、[ ジョブ リストに移動 ] チェック ボックスをオンにします。
8. この検出タスクのジョブ名を入力します。
9. [ 終了 ] をクリックします。  
検出ジョブが作成および開始され、検出されたネットワーク スイッチが[[ ネットワーク スイッチ ビュー ]] ページに表示されます。

## SCOM を使用した Dell EMC ネットワーク スイッチの検出

### 前提条件

前提条件 : OMIMSSC 管理ポータルから SCOM コンソールに Dell EMC ネットワーク スイッチ管理パックをインポートします。


### このタスクについて

Dell EMC ネットワーク スイッチは、SCOM コンソールでネットワーク デバイスとして検出できます。

SCOM を使用してネットワーク スイッチを検出するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ 管理 ] をクリックします。
2. 左ペインで、[ 検出ウィザード ] をクリックします。
3. [ ネットワーク デバイス ] を選択し、[ コンピューターとデバイス管理ウィザード ] によってプロンプトが表示されたら、タスクを完了します。詳細については、Microsoft Operations Manager のマニュアルを参照してください。
4. SNMP V1 または V2 の [ Run As アカウント ] ドロップダウン メニューから必要な Run as アカウントを選択します。
5. ネットワーク スイッチ管理パックが OMIMSSC 管理ポータルからインポートされている場合は、ネットワーク スイッチ モニタリング機能は有効です。

 **メモ:** OMIMSSC コンソールから Microsoft System Center との同期を実行して、SCOM コンソールで検出されたネットワーク スイッチの検出を完了します。

## ネットワーク スイッチ向け SCOM コンソールでの SNMP RunAsAccount の設定

Dell EMC ネットワーク スイッチを検出した後、アラートを受信するには、ネットワーク スイッチから SCOM コンソールにアラート通知を送信するオプションを手動で有効にする必要があります。

SCOM コンソールでは、コミュニティ文字列タイプの [ DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount ] アカウントが作成されます。対応する Run As 設定プロファイル — [ SNMP モニタリングアカウント ] は、SNMP v1 または v2 コミュニティ文字列を使

用して作成されます。デフォルトでは、DellEMC\_OMIMSSC\_SNMP\_RunAsAccount は Dell EMC ハードウェア クラスに関連付けられます。SNMP v1 または v2 コミュニティ文字列をアップデートする方法、または関連するクラスを変更する方法については、「SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成、p. 125」と「複数の Run As アカウントの関連付け、p. 126」を参照してください。

## OMIMSSC のネットワーク スイッチ モニタリング機能

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、Dell EMC ネットワーク スイッチの稼働状態を検出してモニタリングします。SCOM コンソールの [ モニタリング ] ペインで、検出された Dell EMC ネットワーク スイッチの完全な稼働状態情報を表示するビューを選択できます。検出されたデバイスの重要度レベル、p. 103 は、ネットワーク上の Dell EMC ネットワーク スイッチの稼働状態を示しています。

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、Dell EMC ネットワーク スイッチに対して、一定間隔でのモニタリングと稼働状態に変更が発生した場合のモニタリングの両方を行います。

**メモ:** ネットワーク スイッチの稼働状態のモニタリング中、SNMP モニタリング アカウントにコミュニティ文字列 Run As アカウントを関連付けます。SNMP モニタリング アカウントは、Dell EMC ネットワーク スイッチのクラスまたは各スイッチ オブジェクト (異なるネットワーク スイッチ デバイスで異なる Run As アカウントがある場合) を対象にしています。

## SCOM コンソールのモニタリング対象ネットワーク スイッチ ビュー

OMIMSSC アプライアンスは、SCOM コンソールの [ モニタリング ] > [ Dell EMC ] で Dell EMC ネットワーク スイッチを監視するための次のタイプのビューを提供します。

- [モニタリング対象 Dell EMC ネットワーク スイッチのアラートの表示](#)、p. 63
- [ネットワーク スイッチのダイアグラム ビューの表示](#)、p. 63
- [ネットワーク スイッチの状態ビューの表示](#)、p. 64

## モニタリング対象 Dell EMC ネットワーク スイッチのアラートの表示

### このタスクについて

このアラートの表示は、Dell EMC ネットワーク スイッチからのハードウェアの管理に使用できます。検出されたネットワーク デバイスまたはスイッチを介して送信された SNMP トラップが、Dell EMC ネットワーク スイッチ アラート ビューに表示されます。次の手順に従って、ネットワーク スイッチのモニタリング アラートを表示します。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC アラート ビュー ] を展開します。  
事前に定義された基準を満たしたアラートと、ネットワーク スイッチに割り当てられたアラートが表示されます。
3. アラートを選択すると、そのアラートに関する情報が [ アラート詳細 ] セクションに表示されます。

## ネットワーク スイッチのダイアグラム ビューの表示

### このタスクについて

Dell EMC ダイアグラム ビューには、検出されたすべての Dell EMC ネットワーク スイッチの階層的な図が表示されます。SCOM コンソールにネットワーク スイッチ モニタリング機能の図を表示するには、次のようにします。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC アラート ビュー ] の順に展開します。
3. 次のように、表示する [ ダイアグラム ビュー ] フォルダーを選択します。[ ]
  - 完全ダイアグラムビュー
  - Dell EMC ネットワークスイッチのダイアグラムビュー[OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラム ビュー](#)、p. 111 を参照してください。

- 必要なダイアグラム ビューを選択します。
- ネットワーク スイッチ グループを展開して、検出されたサポートおよび未サポート スイッチを表示します。
- ダイアグラムビューのスイッチコンポーネントをさらに展開して、基盤となるコンポーネントを表示できます。  
[ 詳細ビュー ] セクションで、詳細を表示するコンポーネントを選択します。

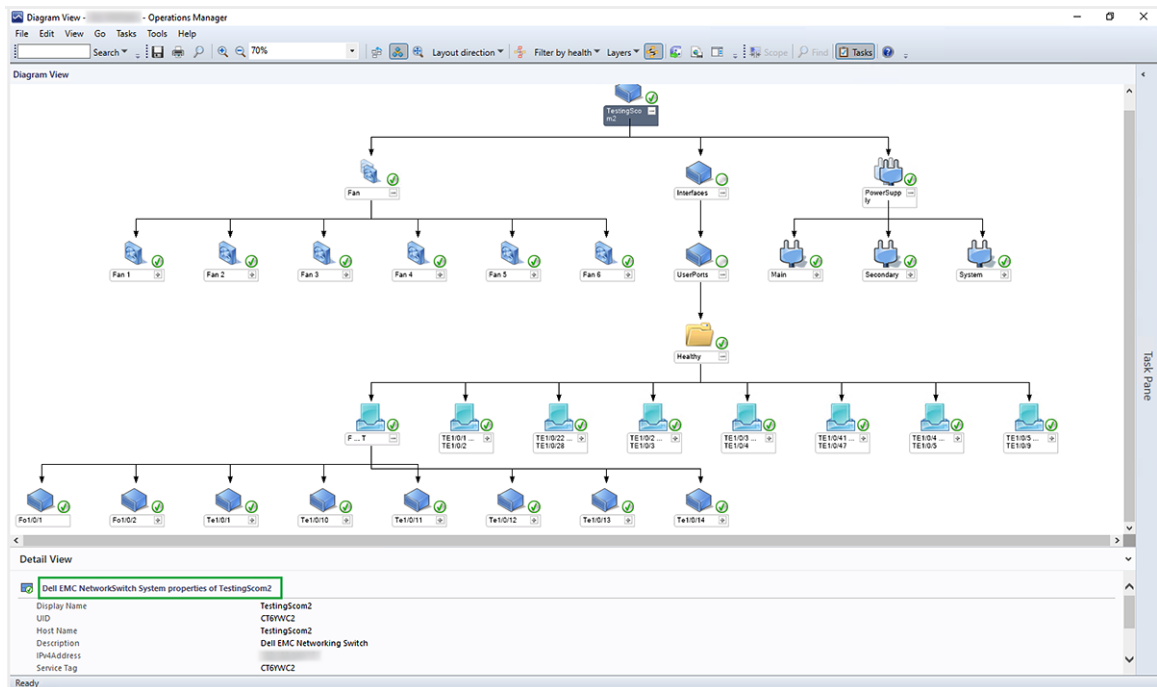


図 8. Dell EMC ネットワーク スイッチのダイアグラム ビュー

## ネットワーク スイッチの状態ビューの表示

### このタスクについて

SCOM コンソールで検出された Dell EMC ネットワーク スイッチの稼働状態を表示するには、次の手順に従います。

### 手順

- SCOM コンソールの左側のペインで、[ モニタリング ] を選択してから、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC 状態ビュー ] の順に展開します。
- [ Dell EMC ネットワーク スイッチ状態ビュー ] を選択します。  
検出されたすべてのネットワーク スイッチの稼働状態が表示されます。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー、p. 114 を参照してください。  
**メモ:** グループの稼働状態は、すべてのサブコンポーネントの稼働状態のステータスをロールアップしたものです。
- [ 詳細ビュー ] セクションに詳細を表示するには、[ Dell EMC ネットワーク スイッチ状態ビュー ] でコンポーネントを選択します。

# OMIMSSC アプライアンスを使用した Dell EMC デバイスの管理

## トピック：

- OMIMSSC を使用して登録された SCOM で検出されたデバイスのデータを同期する
- OMIMSSC からの Dell EMC デバイスの削除

## OMIMSSC を使用して登録された SCOM で検出されたデバイスのデータを同期する

### 前提条件

前提条件：

OMIMSSC との同期を実行する前に、認定資格プロフィールを作成します。

### このタスクについて

OMIMSSC と同期する予定のデバイスのタイプに基づいて、ドロップダウンメニューから、デフォルトプロファイルを iDRAC、CMC、またはネットワークスイッチに設定します。デフォルトでは、デバイスは6時間ごとに同期されます。OMIMSSC アプライアンスを使用してデバイスを同期するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integrations ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] の順にクリックします。  
OMIMSSC ログイン ページが作業中のペインに表示されます。
3. 資格情報を入力して、OMIMSSC にログインします。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. [ モニタリング ] を選択して、同期するデバイスタイプに対応するリンクをクリックします。
  - PowerEdge サーバーを同期するには、[ サーバーの表示 ] をクリックします。
  - CMC またはシャーシを同期するには、[ モジュール型システムの表示 ] をクリックします。
  - ネットワークスイッチを同期するには、[ ネットワークスイッチの表示 ] をクリックします。
5. [ <デバイスタイプ>の表示 ] ページでデバイスを選択し、[ MSSC との同期 ] をクリックします。
6. 確認のメッセージが表示されたら、[ はい ] をクリックします。

### タスクの結果

ジョブが作成され、登録された SCOM 内の選択したデバイスのデータが OMIMSSC と同期されます。

## OMIMSSC からの Dell EMC デバイスの削除

### 手順


1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ Dell EMC OpenManage Integration ビュー ] > [ OpenManage Integration Dashboard ] の順にクリックします。
3. 管理者として OMIMSSC にログインします。
4. [ モニタリング ] を選択して、削除するデバイスタイプを選択します。たとえば、サーバーを削除するには、[ サーバーの表示 ] をクリックします。

OMIMSSC によって監視されているデバイスのリストが表示されます。

5. [ <デバイス タイプ>の表示 ] ページで、デバイスを選択します。
6. [ 削除 ] をクリックします。
7. 確認のメッセージが表示されたら、[ はい ] をクリックします。

#### タスクの結果

OMIMSSC からデバイスを削除するジョブが開始されます。ジョブのステータスを表示するには、[ ジョブおよびログ ] ページを参照してください。削除処理には数分かかります。

 **メモ:** 削除操作が SCOM コンソールからトリガーされた場合、オブジェクトを削除するには1回の検出サイクルが必要です。

# OMIMSSC モニタリング機能用の SCOM コンソールでのタスクの実行

## トピック：


- SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行
- OMIMSSC モニタリング機能を使用した Dell EMC デバイス上で実行されるタスク

## SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] を展開します。
3. [ ダイアグラム ビュー ]、[ 状態ビュー ]、または [ アラート ビュー ] のいずれかを展開します。
4. タスクを実行するデバイスを選択します。  
デバイスによって使用されるモニタリング機能を使用して実行可能なタスクのリストが、SCOM コンソールの [ タスク ] ペインに表示されます。
5. [ タスク ] ペインで、実行するタスクをクリックします。  
タスクが開始され、タスクが正常に実行されると、タスクの概要が表示されます。

### タスクの結果

 **メモ:** 一部のタスクには、正常に実行するための前提条件があります。

## OMIMSSC モニタリング機能を使用した Dell EMC デバイス上で実行されるタスク

デバイスまたはコンポーネントを選択すると、関連するタスクが SCOM コンソールの [ タスク ] ペインに表示されます。これは、OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能を使用して Dell EMC デバイス上で実行できるタスクのリストです。

OMSA を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能によってサポートされるタスクの詳細については、サポートサイトの『*Microsoft System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack ユーザーズ ガイド*』を参照してください。

SCOM コンソールで実行される OMIMSSC タスク	OMIMSSC モニタリング機能			
	サーバーおよびラック型ワークステーション (iDRAC WS-Man)	サーバーおよびラック型ワークステーション (iSM-WSMI)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
ノードインターフェイスの確認	はい	はい	はい	いいえ
保証情報の取得	はい	はい	いいえ	いいえ
Dell OpenManage Server Administrator (モノ	はい	いいえ	いいえ	いいえ

SCOM コンソールで実行される OMIMSSC タスク	OMIMSSC モニタリング機能			
	サーバーおよびラック型ワークステーション (iDRAC WS-Man)	サーバーおよびラック型ワークステーション (iSM-WMI)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
リス型サーバー)の起動				
Dell EMC Remote Access Console の起動	はい	はい	いいえ	いいえ
Remote Desktop (モノリス型サーバー)の起動	はい	はい	いいえ	いいえ
iDRAC ハードリセット	いいえ	はい	いいえ	いいえ
ESM ログのクリア	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
Dell EMC CMC Console の起動	いいえ	いいえ	はい	いいえ
<b>電源管理関連のタスク</b>				
電源ステータスのチェック	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
強制電源オフ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
パワーサイクル	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
正常電源オフ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
電源オン	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
電源リセット	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
LED 識別表示オン	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
LED 識別表示オフ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

SCOM コンソールでモニタリング機能ベースのタスクを実行するには、SCOM での OMIMSSC モニタリング機能ベースのタスクの実行、p. 67 を参照してください。

## ノードへの接続の確認

ノード インターフェイスの確認タスクを実行することで、選択した Dell EMC デバイスまたは DRAC/iDRAC とそれに対応するインターフェイスが到達可能かどうかを確認できます。タスクが正常に実行されると、サーバーとインターフェイスへの到達可能性のサマリーが表示されます。

## PowerEdge サーバーの保証情報の表示

保証情報の取得タスクを実行することで、Dell EMC デバイスの保証ステータスを表示できます。

## SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでの OMSA の起動

Dell OpenManage Server Administrator の起動タスクを実行することで、Dell OMSA アプリケーションを起動できます。

**メモ:** Internet Explorer を使用している場合、System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack のタスクは、リモート コンソールを開きます。

## SCOM コンソールを使用した iDRAC の起動

Dell EMC Remote Access Console の起動タスクを実行することで、Dell iDRAC アプリケーションを起動できます。

## SCOM コンソールを使用したモノリス型サーバーでのリモート デスクトップの起動

Dell EMC リモート デスクトップの起動タスクを実行することで、Dell EMC モノリス型サーバーでリモート デスクトップを起動できます。

**メモ:** Dell EMC リモート デスクトップは、Windows オペレーティング システムがインストールされており、管理下ノードでリモート デスクトップが手動で有効化されている場合にのみ起動できます。

## リモート iDRAC のハード リセット操作の実行

サーバーのオペレーティング システムをシャットダウンせずに、iDRAC をリモートでリセットできます。このタスクは、WMI を使用して iDRAC Service Manager ( iSM ) を介して検出された PowerEdge サーバーでのみ使用可能です。リモートで iDRAC をリセットするには、まずホスト オペレーティング システムで管理者権限があることを確認する必要があります。

iDRAC をリモートでリセットするには、SCOM コンソールで次の手順を実行します。

1. 左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC 状態ビュー ] > [ Dell EMC サーバー ( iSM ) 状態ビュー ] の順にクリックします。  
状態情報が表示され、WMI を使用して iSM を通じて検出されたサーバーが作業中のペインに一覧されます。
3. リモートで iDRAC をリセットするサーバーを選択します。  
右ペインの [[ タスク ]] セクションに、選択したサーバーで実行できるタスクが表示されます。
4. [ iDRAC のハード リセット ] をクリックします。  
[[ タスクの実行 - iDRAC のハード リセット ]] ウィンドウが表示されます。
5. [ 実行 ] をクリックします。  
[[ タスクステータス - iDRAC のハードリセット ]] ウィンドウがリセットの状態が表示されます。
6. [ 閉じる ] をクリックします。  
iDRAC は、サーバー オペレーティング システムをシャットダウンせずに正常にリセットされます。

## Embedded Server Management ( ESM ) ログのクリア

ハードウェア ログとも呼ばれる Server Administrator Embedded Server Management ( ESM ) ログは、エラー修正コード ( ECC )、システムのリセットと起動、およびプローブしきい値の変更など、ハードウェアによって生成されるすべてのシステム イベントのリストを維持します。ハードウェアエラーが表示されたときやシステムが正しく機能しないときなどに、このログを参照できます。

ESM ログのクリア タスクを実行するには、次の手順を実行します。

1. 左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ Dell EMC ] を展開します。
3. [ ダイアグラム ビュー ]、[ 状態ビュー ]、または [ アラート ビュー ] のいずれかを展開します。
4. タスクを実行するデバイスを選択します。  
デバイスによって使用されるモニタリング機能を使用して実行可能なタスクのリストが、SCOM コンソールの [ タスク ] ペインに表示されます。
5. [ タスク ] ペインで、[ Dell EMC Windows Server タスク ] > [ ESM ログのクリア ] を選択します。  
[[ タスクの実行 ]] ウィンドウが表示されます。
6. [ 実行 ] をクリックします。  
選択したデバイスの ESM ログが削除されます。

**メモ:** ESM ログのクリア タスクを実行すると、タスク実行画面には、開始しているタスクの結果のみが表示されます。たとえば、ESM ログがクリアされていない場合でも、タスク実行画面には、成功したという結果が表示されることがあります。これは、ESM ログのクリア タスクの開始が成功したことを表しています。

## 電源管理関連のタスク

OMSA を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能によってサポートされます。

- Dell EMC PowerEdge サーバーおよびラック型ワークステーションの電源ステータスを確認します。このタスクは、System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack のライセンス不要バージョンによって監視されているサーバーでのみ実行できます。電源ステータスの確認タスクを実行することで、電源ステータスを確認し、IPMI シェルを使用して電源制御タスクを管理することができます。
- オペレーティングシステムをシャットダウンせずに PowerEdge サーバーの電源を切る - 強制電源オフ タスクを実行することで、オペレーティングシステムをシャットダウンせずに、PowerEdge サーバーの電源をオフにすることができます。
- PowerEdge サーバーの電源を入れ直す - 電源サイクル タスクを実行することで、PowerEdge サーバーの電源をオフにしてから、遅延後に再度電源をオンにすることができます。
- PowerEdge サーバーの電源を正常にオフにする - 正常電源オフ タスクを実行することで、オペレーティングシステムをシャットダウンし、その後、PowerEdge サーバーの電源をオフにすることができます。
- PowerEdge サーバーの電源をオンにする - 電源がオフ状態の場合に、電源オン タスクを実行することで、PowerEdge サーバーの電源をオンにすることができます。
- PowerEdge サーバー電源のリセット - 電源がオフ状態の場合に、電源リセット タスクを実行することで、PowerEdge サーバーの電源をオンにすることができます。
- 識別 LED を有効にすることで OMSA ベースのサーバーを識別する - LED 識別表示オン タスクを実行することで、点滅する LED を使用してサーバーを識別する機能を有効にすることができます。同様に、LED 識別表示オフ タスクを実行すると、点滅する LED を使用してサーバーを識別する機能が無効になります。

**メモ:** アドバンス電源制御 を有効にするには、BMU をデフォルトのパスにインストールします。BMU がデフォルトのパスにインストールされていない場合は、コンソール タスクを作成します。コンソール タスクの作成方法の詳細については、「[識別 LED 使用したデバイスとデバイス電源ステータスの識別](#)」を参照してください。

## Dell CMC コンソールの起動

**Dell EMC CMC コンソールの起動**タスクを実行することで、Dell EMC シャーシにインストールされている Chassis Management Controller (CMC) アプリケーションを起動できます。

# OMIMSSC アプライアンスの設定とデータのバックアップおよび復元

OMIMSSC のバックアップ機能は、登録済みのすべての SCOM コンソール、検出されたデバイスとライセンス情報、OMIMSSC ダッシュボードで実行中のジョブ、認定資格プロフィール、構成設定項目に関する情報を保存します。新しい VM の OMIMSSC アプライアンス データを復元するには、新しい VM に OMIMSSC アプライアンスを導入し、バックアップ ファイルを復元します。

**① メモ:** 既存の OMIMSSC アプライアンス データをバックアップして、同じアプライアンス バージョンの新しい OMIMSSC アプライアンスの仮想マシンでのみ復元できます。たとえば、OMIMSSC バージョン 7.3 アプライアンスのデータをバックアップして、新しい OMIMSSC バージョン 7.3 アプライアンスの仮想マシンでのみ復元できます。

## トピック :

- [OMIMSSC 管理ポータルを使用した OMIMSSC の設定とデータのバックアップ](#)
- [OMIMSSC アプライアンスの設定とデータの復元](#)

## OMIMSSC 管理ポータルを使用した OMIMSSC の設定とデータのバックアップ

### 前提条件

SCOM 管理サーバーと同じドメインに Windows ネットワーク共有が作成されていることを確認します。

### このタスクについて

バックアップ機能は OMIMSSC アプライアンスのデータをバックアップし、カスタム Windows ネットワーク共有にバックアップ ファイルを作成します。

OMIMSSC アプライアンス データのバックアップは、次の手順に従って行います。

### 手順

1. パスワードを入力して、デフォルトの管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。  
[ 管理ポータル ] ログイン ページが表示されます。
2. 左側のペインで、[ 設定 ] > [ バックアップ アプライアンス ] の順に選択します。  
[ OMIMSSC アプライアンス設定とデータのバックアップ ウィザード ] が表示されます。

図 9. OMIMSSC アプライアンス設定とデータのバックアップ ウィザード

3. [ Windows ネットワーク共有のバックアップ用パス ] ボックスに、バックアップ ファイルを保存するための Windows ネットワーク共有のパスを入力します。

**メモ:** Windows ネットワーク共有は、SCOM 管理サーバーと同じドメインにあるようにしてください。

4. [ Windows ネットワーク共有の認定資格プロフィール ] ドロップダウン メニューから、Windows ネットワーク共有にアクセスするための認定資格プロフィールを選択します。

Windows 認定資格プロフィールを作成するには、[ 新規作成 ] をクリックします。

5. バックアップ ファイルを暗号化するには、強力なパスワードを入力して再度確認します。

6. [ テスト接続 ] をクリックします。

Windows ネットワーク共有に問題なく接続できると、メッセージが表示されます。

7. [ バックアップ ] をクリックします。

バックアップ オペレーションが完了したことを示すメッセージが表示されます。

**メモ:** バックアップ ファイルは、指定された Windows ネットワーク共有に ZIP ファイルとして保存されます。

8. [ 閉じる ] をクリックします。

## OMIMSSC アプライアンスの設定とデータの復元

### このタスクについて

登録済みのすべての SCOM コンソール、検出されたデバイスとライセンス情報、OMIMSSC ダッシュボードで実行中のジョブ、認定資格プロフィール、デバイス検出設定の設定項目、Dell EMC アラート リレー サーバーに関する情報が復元されます。OMIMSSC アプライアンスの設定とデータを復元するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. デフォルトの管理者として、OMIMSSC 管理者ポータルにログインします。
2. 左ペインで、[ 設定 ] > [ アプライアンスをリストア ] の順に選択します。  
[ OMIMSSC アプライアンスの設定とデータの復元 ] ウィザードが表示されます。情報とアラートメッセージを読みます。
3. [ バックアップ ファイルの Windows ネットワーク共有パス ] ボックスに、次の形式で Windows ネットワーク共有ファイルの (バックアップを保存した) 場所を入力します。 \\<share name>\<folder name>\<filename>.tar.gz

**メモ:** Windows ネットワーク共有内のバックアップファイルの場所は、SCOM 管理サーバーと同じドメインにあるようにしてください。

- [ Windows ネットワーク共有の認定資格プロフィール ] ドロップダウンメニューで、OMIMSSC が Windows ネットワーク共有にアクセスするために使用する必要がある認定資格プロフィールを選択します。Windows 認定資格プロフィールを作成するには、[ 新規作成 ] をクリックします。

**Restore OMIMSSC Appliance Settings and Data**

The Restore OMIMSSC settings and data feature restores information about all the enrolled SCOM consoles, discovered devices along with license information, running jobs details in OMIMSSC dashboard, credential profiles, and configuration settings in a new VM of the appliance.

Restore OMIMSSC appliance settings and data backed up from another OMIMSSC appliance version 7.3 for SCOM.

**When you click Restore, the current OMIMSSC Admin Portal session is closed, and the OMIMSSC Appliance restarts. To view the status, log in to OMIMSSC Admin Portal after approximately 30 minutes, and view the activity logs in Jobs and Logs Center.**

**Restore Appliance Settings and Data from Windows Network Share**

Windows Network Share path of backup file ⓘ

**Credential Profile**

Credential profile for Windows Network Share ⓘ  ▼  
[Create New](#)

**Backup file password**

Password ⓘ

図 10. OMIMSSC アプライアンスの設定とデータの復元ウィザード

- [ パスワード ] ボックスに、暗号化されたバックアップファイルのパスワードを入力します。

**メモ:** バックアップされたファイルは、パスワードで暗号化されます。したがって、パスワードが正しくないと、リストア処理は失敗します。

- [ テスト接続 ] をクリックします。  
接続が正常に開始されると、メッセージが表示されます。

- [ リストア ] をクリックします。  
リストア処理が完了したことを示すメッセージが表示されます。

When you restore an OMIMSSC appliance, the current OMIMSSC admin portal session is closed, and the OMIMSSC appliance restarts. To view the status, log in to the OMIMSSC admin portal after approximately 30 minutes, and view the log files

- 続行するには、[ はい ] をクリックします。  
OMIMSSC アプライアンスの設定とデータが復元され、アプライアンスが自動的に再起動されます。リストア処理のステータスを表示するには、[OMIMSSC アプライアンス データのリストアステータスの表示](#)、p. 79 を参照してください。

**メモ:** アプライアンスの設定とデータを復元すると、サービス パック アップデート セクションで以前に設定した [リポジトリ URL] は保持されず、デフォルトのパスに復元されます。カスタム リポジトリからサービス パックを使用してアプライアンスをアップグレードするには、サービス パック アップデート セクションで [リポジトリ URL] を再入力する必要があります。

# SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスのアップグレード

以下を使用して、SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを最新バージョンにアップグレードできます。

- <https://linux.dell.com/repo/omimssc-scom/> で利用可能なサービス パック — OMIMSSC バージョン 7.2 をバージョン 7.3 にアップグレードするときに使用します。
- OMIMSSC のバックアップおよびリストア機能 — OMIMSSC バージョン 7.1 および 7.1.1 をバージョン 7.2 にアップグレードするときに使用します。そのサービス パックを使用して、OMIMSSC バージョン 7.2 からバージョン 7.3 にアップグレードできます。

さらに、SCOM コンソールの [[ アップデートと推奨事項 ]] ページにアクセスして、Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft SCOM で利用可能なアップデートがあるかどうかを確認できます。

**メモ:** カスタム リソース プールを作成した場合、カスタム リソース プール内に存在する SCOM Management Server は OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 に登録されます。次の手順を実行して、カスタム リソース プールの SCOM Management Server を登録解除し、OMIMSSC アプライアンスに All Management Server Resource Pool ( AMSRP ) SCOM Management Server を登録します。

- OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 から SCOM 管理グループの登録を解除します。サポート サイトにある『*System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center バージョン 7.2 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。
- サービス パックを使用して、OMIMSSC アプライアンスをバージョン 7.2 から 7.3 にアップグレードします。
- アップグレード後、SCOM Management Server を SCOM 向け OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.3 に登録します。  
SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスへの SCOM 管理グループの登録、p. 27 を参照してください。

## トピック :

- サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード
- OMIMSSC アプライアンス データのバックアップおよび復元によるアプライアンスのアップグレード
- SCOM コンソールの [ アップデートと推奨事項 ] ページを使用した OMIMSSC アプライアンスのアップデート

## サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード

### 前提条件

- 実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、完了するまで待ちます。
- 『*Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) for System Center Operations Manager (SCOM) の拡張性に関するテクニカル ホワイトペーパー (初版発行 A00)*』で提供されている拡張性ガイドラインに従い、OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 を使用して、Dell EMC アラート リレー サーバー( 以前のプロキシ管理サーバー )を構成し、OMIMSSC アプライアンスと同期させます。

### このタスクについて

SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入してセットアップした後、必要とされる重大な欠陥修正または機能追加が利用可能になったサービス パックのアップデートを利用できる場合は、OMIMSSC のサービス パック アップデート機能を使用してアップグレードできます。サービス パックの主なメリットは次のとおりです。

- サービス パック ファイルは、任意の HTTP サーバーに直接保存して、サービス パックのファイルを使用してアップデートを行なうことができます。
- これらのサービス パックは段階的に適用することができます。ただし、一度アップデートした場合、ロールバックはできません。
- サービス パックは累積的です。つまり、最新のサービス パックには以前のすべてのリリースの修正が含まれています。

**メモ:** サービス パック アップデート機能を使用した、OMIMSSC バージョン 7.1 および 7.1.1 から OMIMSSC バージョン 7.3 への OMIMSSC アプライアンスのアップグレードはサポートされていません。アップグレードするには、OMIMSSC アプライアンスのデータをバックアップし、OMIMSSC バージョン 7.2 アプライアンスにそれを復元します。サービス パックを使用して、OMIMSSC バージョン 7.2 をバージョン 7.3 にアップグレードします。バックアップ ファイルの作成と OMIMSSC アプライアンス データの復元の詳細については、「SCOM データ用の OMIMSSC アプライアンスのバックアップと復元」セクションを参照してください。

オフラインまたはオンラインで保存されたサービス パックを使用して、次のように OMIMSSC をアップグレードします。

## 手順

1. OMIMSSC 管理ポータルにログインして、[ 設定 ] > [ サービス パック アップデート ] を選択します。
2. サービス パック アップグレードのオンラインまたはオフラインのいずれかの方法を選択します。
  - **オンライン方式**
    - a. [ デフォルトのリポジトリへのリセット ] をクリックし、デフォルトのリポジトリパスを `https://linux.dell.com/repo/omimssc-scom/latest/` にリセットします。
  - **オフライン方法**
    - a. `https://linux.dell.com/repo/omimssc-scom/` から `OMIMSSC_v7.3.0_<build>_SCOM-yumRepo_<revision>.zip` ファイルをダウンロードし、リポジトリに保存します。
    - b. サービス パック アップデートファイルを ZIP ファイルから抽出し、HTTP を介してリポジトリをホストします。
    - c. [ リポジトリ URL ] ボックスに、`https://<servername>:<portname>/<repository path>` の形式で URL 情報を入力します。リポジトリ URL にアンダースコア ( `_` ) を入力しないでください。

サービス パックのファイル形式が HTTP サーバーでサポートされていることを確認します。サポートされていない場合は、HTTP 管理者に問い合わせてサポートを追加してください。次のファイル形式がサポートされています。

- RPM
- XML
- TXT
- BZ2. BZ2 ファイル形式を有効にするには、次の手順を実行します。
  - a. リポジトリ ファイルが保存されているサーバーで、IIS マネージャーを起動します。
  - b. ホスト名を展開します。[ サイト ] > [ デフォルト Web サイト ] をクリックします。
  - c. [ アクション ペイン ] で [ 追加 ] をクリックします。
  - d. ファイル名拡張子を BZ2 として、MIME タイプを APP または BZ2 として入力します。
  - e. [ OK ] をクリックします。

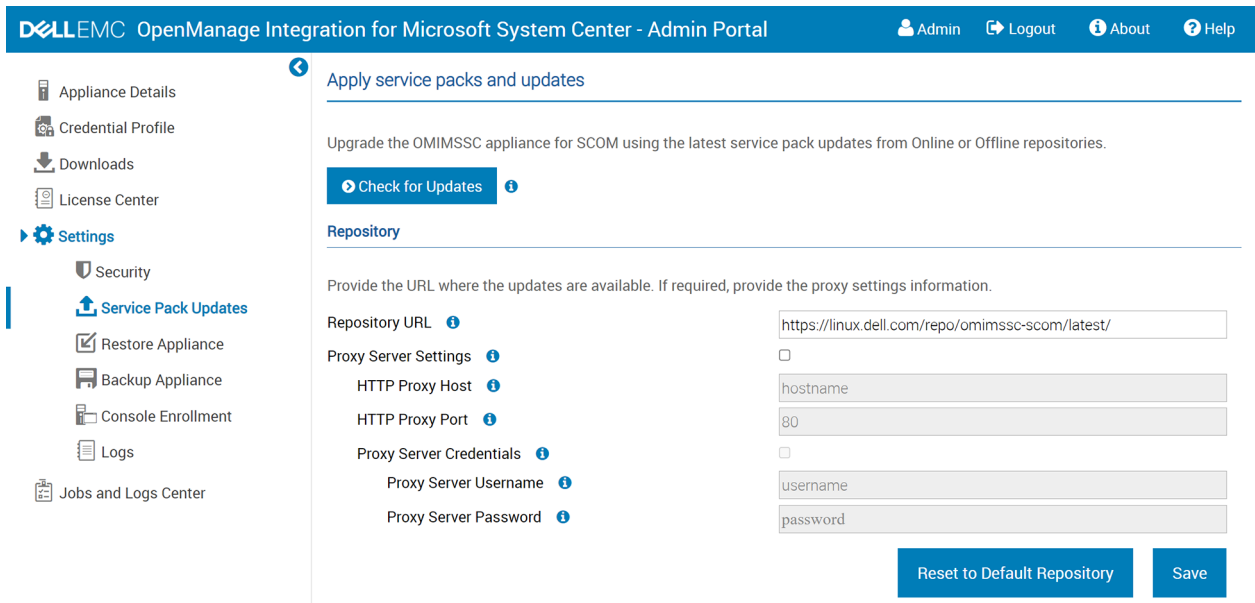


図 11. サービス パック アップデート ウィザード

3. 必要に応じて、[ プロキシ サーバー設定 ] チェック ボックスを選択し、プロキシ サーバー情報と、サーバーにアクセスするための認証情報を入力します。

4. [ アップデートのチェック ] をクリックします。  
リポジトリで使用可能な OMIMSSC アプライアンスおよびサービス パック アップデートの現在のバージョンが表示されます。
5. [ 適用 ]、[ OK ] の順にクリックします。
6. ログを表示するには、左ペインで [ 設定 ] > [ ログ ] の順にクリックします。
7. アップグレード ログ ディレクトリーで、サービス パックのアップグレードのログ ファイルを表示またはダウンロードするには、次の手順を実行します。
  - a. <service pack version number>ディレクトリーを選択します。  
たとえば、[ 7.1.1.2035 ディレクトリー ] を使用して、サービス パックのアップグレードのログ ファイルを表示またはダウンロードすることができます。
8. OMIMSSC アプライアンス VM が再起動し、サービス パックのアップデートが適用されます。15~20 分間待ってから OMIMSSC 管理ポータルにログインし、ブラウザのキャッシュ履歴を削除します。

## 次の手順

OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.3 へのアップグレード後、次の操作を実行します。

1. SCOM コンソールで、DellProxyMSgroup から [ オーサリング グループ ] > [ ] の順に移動し、以前プロキシ管理サーバーと呼ばれていた Dell EMC アラート リレー サーバーを特定します。[ DellProxyMSgroup ] を右クリックし、[ グループメンバーの表示 ] を選択します。
2. OMIMSSC 管理ポータルから [ Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラー ] をダウンロードします。
3. OMIMSSC バージョン 7.2 を使用して以前構成された特定の Dell EMC アラート リレー サーバー（またはプロキシ管理サーバー）上で、[ Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラー ] をインストールし、『Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center (OMIMSSC) for System Center Operations Manager (SCOM) の拡張性に関するテクニカル ホワイトペーパー (A01 バージョン)』で提供されるガイドラインに従って構成します。
4. エージェントによって管理されるシステムとして、アラート リレー サーバーを検出します。  
アラート リレー サーバーは、[ Dell EMC アラート リレー サーバー状態ビュー ] にリストされています。
5. デフォルトの Web ブラウザーのキャッシュをクリアし、Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードにログインします。  
[ SCOM MS と同期 ] を選択し、OMIMSSC アプライアンスにより、アラート リレー サーバーと管理サーバーに関する詳細を同期します。
6. プロキシ管理サーバー関連の不要な詳細を削除するには、次のようにします。
  - a. プロキシ管理サーバーのオーバーライド、すなわち Dell EMC Agent Resource<X>オーバーライドを特定します。ここで、X は 20 個のプロキシ管理サーバーを使用した拡張可能モード セットアップでの 0~19 の値です。そして、SCOM コンソールから削除します。
  - b. エージェントを除く DellProxyMSgroup からメンバーを削除します。
  - c. [ DellProxyMSGroup ] を削除します。
  - d. [ Administration ] > [ インストール済み管理パック ] の順に移動し、リストされている順序で Dell EMC 管理パックを削除します。最後に、Dell EMC グループ作成ライブラリーバージョン 7.2.0.0 の管理パックを SCOM コンソールから削除します。

# OMIMSSC アプライアンス データのバックアップおよび復元によるアプライアンスのアップグレード

OMIMSSC のバックアップ機能は、登録済みのすべての SCOM コンソール、検出されたデバイスとライセンス情報、OMIMSSC ダッシュボードで実行中のジョブ、認定資格プロフィール、構成設定項目に関する情報を保存します。OMIMSSC アプライアンスをバージョン 7.1 および 7.1.1 から最新バージョン 7.3 にアップグレードするには、次の操作を実行する必要があります。

- SCOM バージョン 7.2 の OMIMSSC アプライアンスにバックアップされたファイルを復元する
  - サポート サイトで使用可能なサービス パックを使用して、OMIMSSC バージョン 7.2 を 7.3 にアップグレードする
- ① メモ:** サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョン 7.1 および 7.1.1 から最新バージョンの 7.3 へのアップグレードはサポートされていません。

## OMIMSSC 7.1 および OMIMSSC 7.1.1 のデータのバックアップ

### このタスクについて

OMIMSSC ダッシュボードに実行中のジョブがある場合は、ジョブが完了するまで待ってから、アプライアンス データをバックアップします。

OMIMSSC アプライアンス データのバックアップは、次のようにして作成します。

## 手順

1. OMIMSSC アプライアンス VM を起動します。  
テキストベース ユーザー インターフェイス ( TUI ) が表示されます。
2. 管理パスワードを入力して、Enter を押します。  
アプライアンス構成オプションが表示されます。
3. 矢印キーで [ アプライアンス データのバックアップ ] に移動して、Enter を押します。

## IP アドレスを使用した OMIMSSC 7.1 および 7.1.1 バージョンのデータのリストア

### 手順

1. Hyper-V または ESXi に OMIMSSC アプライアンスのバージョン 7.2 を導入します。OMIMSSC のダウンロードおよび導入の詳細については、[ SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの導入と構成、p. 20 ] を参照してください。
2. パスワードを入力して、デフォルトの管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
3. 左側のペインで、[ 設定 ] > [ バックアップ アプライアンス ] の順に選択します。  
[ アプライアンスをリストア ] ウィザードが表示されます。情報とアラート メッセージを読みます。
4. [ IP アドレスを使用してアプライアンスをリストア ] オプションを選択します。
5. [ アプライアンス アドレス ] ボックスに、バックアップ データが保存されている OMIMSSC 7.1 または 7.1.1 アプライアンスの IP アドレスを入力します。
6. [ 登録済み SCOM MS FQDN ] ボックスに、OMIMSSC に登録されている SCOM 管理対象サーバーの FQDN を入力します。登録済み SCOM 管理サーバーの FQDN の取得、p. 79 を参照してください。

**Restore Appliance**

previous appliance. This will ensure seamless restore of the appliance data.

When you click Restore, the current OMIMSSC Admin Portal session is closed, and the OMIMSSC Appliance restarts. To view the status, log in to OMIMSSC Admin Portal after sometime, and view the log files.

**Restore Using an IP Address or Custom Path**

Restore Appliance using an IP Address

Restore Appliance from a custom CIFS share

Appliance IP Address

Enrolled SCOM MS FQDN (Recommended)

Restore Cancel

図 12. IP アドレスを使用したアプライアンスのリストア

**メモ:** 登録済み SCOM 管理サーバーの FQDN パラメーターが未入力であるか誤って入力されると、Dell EMC Feature Management Dashboard で矛盾が発生する可能性があります。リストア処理が完了したら、Dell EMC Feature Management Dashboard にインストールされているすべての機能について、使用可能なバージョンをアップデートします。

7. [ リストア ] を選択します。

OMIMSSC 7.1 または OMIMSSC 7.1.1 のデータがリストアされ、アプライアンスが自動的に再起動します。リストア操作のステータスを表示するには、OMIMSSC アプライアンス データのリストア ステータスの表示、p. 79 を参照してください。

## 登録済み SCOM 管理サーバーの FQDN の取得

### 手順

1. SCOM コンソールを起動します。
2. 左側のペインで、[ オーサリング ] を選択します。
3. [ 管理パック オブジェクト ] をクリックして、[ オブジェクトの検出 ] をダブルクリックします。
4. [ 検索対象 ] ボックスで、**Dell EMC 機能管理ホスト 検出**を検索します。
5. 右クリックして、[ オーバーライド ] > [ サマリー ] > [ クラスのすべてのオブジェクト：管理サーバー ] の順に選択します。  
[ オーバーライド サマリー ] ウィザード ダイアログ ボックスが表示されます。
6. クラス=オブジェクトの**検出**、パラメーター=**FMP** ホスト **FQDN** を探し、対応する MS FQDN 名の有効な値を探します。

## OMIMSSC アプライアンス データのリストア ステータスの表示

### このタスクについて

OMIMSSC アプライアンス データをリストアしたら、すべてのサービスが開始されるまで 15 分間ほど待ってから、ログインしてください。アプライアンスのデータのリストアのために OMIMSSC で実行されているジョブのステータスを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. デフォルトの管理者として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. リストアのログを表示するには、[ 設定を選択 ] > [ ジョブとログ センター ] をクリックします。
3. [ 汎用ログ ] > [ アプライアンス ログ ] をクリックします。
  - ① **メモ:** OMIMSSC アプライアンスのバージョン 7.1 と 7.1.1 からリストアする場合は、すべての管理パックが OMIMSSC 7.2 バージョンにアップデートされるまで待ちます。また、Feature Management Dashboard がアップデートされ、アプライアンスが自動的に再起動されたことを確認します。1 時間ほど待ってから、アップデートされたダッシュボードを表示します。
  - ① **メモ:** OMIMSSC データをリストアしたら、データがバックアップされていた旧バージョンの OMIMSSC アプライアンスの VM の電源をオフにします。

## OMIMSSC バージョン 7.2 から 7.3 へのアップグレード

### このタスクについて

OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.1 または 7.1.1 のデータを OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 に復元した後、Dell Technologies サポート サイトで利用可能なサービス パックを使用して、OMIMSSC バージョン 7.2 を最新バージョンの 7.3 にアップグレードできます。サービス パックをダウンロードしてアップグレードする方法の詳細については、「[サービス パックを使用した OMIMSSC アプライアンスのバージョンのアップグレード](#)、p. 75」を参照してください。

## SCOM コンソールの [ アップデートと推奨事項 ] ページを使用した OMIMSSC アプライアンスのアップデート

### 前提条件

次のいずれかの前提条件が満たされていることを確認します。

SCOM コンソールで Dell EMC PowerEdge サーバーが検出されモニタリングされている。

Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ビュー管理パックは、OMIMSSC アプライアンスの以前の導入の一部としてインストールされている。

## このタスクについて

SCOM コンソールの [ アップデートと推奨事項 ] ページには、OMIMSSC アプライアンスで利用可能なアップデートが一覧表示されます。OMIMSSC アプライアンスのインストールされているバージョン、最新バージョン、最新バージョンのリリース日に関する情報が得られます。


SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを最新バージョンにアップデートするには、次の手順に従います。

## 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ 管理 ] > [ 管理パック ] > [ アップデートと推奨事項 ] の順に選択します。
2. 作業中のペインで、[ Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft SCOM ] を右クリックして、[ MP の取得 ] を選択します。OMIMSSC アプライアンスがすでにインストールされている場合は、ステータス列に [ アップデートが利用可能 ] と表示されず。そうでない場合は、ステータスが [ インストールされていません ] になります。
3. [ インストール ] をクリックします。OMIMSSC アプライアンスの最新バージョン向けの Dell Technologies ダウンロード ページが表示されます。SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスを導入するには、OVA または VHD ファイルをダウンロードして、[ SCOM 向け OMIMSSC アプライアンスの導入および設定 ] の項にある手順に従ってください。

# OMIMSSC に登録された SCOM 管理グループの登録解除

## このタスクについて

 **メモ:** SCOM 管理グループの SCOM 管理サーバーを登録解除する前に、いずれかの管理サーバーで OMIMSSC アプライアンスの共有の場所を開いている場合はそれを閉じます。

## 手順


1. OMIMSSC ADMIN として OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
2. 左ペインを展開するには、[ > ] アイコンをクリックして、[ 設定 ] > [ コンソール登録 ] の順に選択します。登録済みのすべての SCOM 管理サーバーが表示されます。
3. SCOM 管理サーバーの登録を解除するには、登録名を選択して [ 登録解除 ] をクリックします。SCOM 管理グループ内に複数の SCOM 管理サーバーがある場合は、この操作によってすべての SCOM 管理サーバーの登録を SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスから解除します。登録の解除が完了すると、アプライアンスを使用してモニタリングされているすべての Dell EMC 管理パックと Dell EMC デバイスが、SCOM コンソールから削除されます。
4. 確定するには、[ はい ] をクリックします。[[ ジョブとログ ]] ページが表示されます。[ 実行中 ] タブに登録解除ジョブが表示され、[ 進行状況ステータス ] にジョブの進行状況が表示されます。

サブタスクのステータスを表示するには、登録解除ジョブを展開します。登録解除中、OMIMSSC アプライアンスは SCOM コンソールで次のアクティビティを実行します。

- 検出されたデバイスとそれに関連するジョブが、SCOM コンソールおよび OMIMSSC アプライアンスから削除されます。
- インポートしたすべての Dell EMC 管理パックが削除されます。
- OMIMSSC アプライアンスのレジストリー エントリーが削除されます。
- Client for NFS およびリモート PowerShell の有効化などの前提条件が、以前の設定に戻ります。

## タスクの結果

選択したモニタリング範囲、モニタリングモード、および SCOM 環境で検出されたデバイスの数に応じて、登録解除ジョブには 15 分から 1 時間以上かかります。登録解除ジョブが完了するまでにそれ以上の時間がかかり、正常に完了できなかった、または登録解除が起動されたときに SCOM 管理サーバーにアクセスできない場合は、[ コンソール登録 ] > [ その他 ] > [ 強制登録解除 ] の [ 強制登録解除 ] オプションを使用できます。登録済みの SCOM 管理サーバーのエントリーは、SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスから強制的に削除されます。SCOM コンソールの以前 ( OMIMSSC アプライアンスに登録する前 ) の設定は元に戻されないため、インポートしたすべての Dell EMC 管理パック、OMIMSSC アプライアンスのレジストリー エントリー、および Dell EMC デバイスの詳細を手動で削除する必要があります。詳細については、[登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ](#)、p. 86 を参照してください。

 **注意:** Dell Technologies は、SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスを使用して SCOM 管理サーバーを登録解除するためには [ 登録解除 ] オプションを選択することを推奨します。データの損失を防ぐためには、すべてのシナリオで [ 強制登録解除 ] オプションは推奨されません。SCOM コンソールにアクセスできない、または登録解除操作が完了できない場合にのみ、使用してください。

## OMIMSSC VM の削除

### このタスクについて

OMIMSSC アプライアンス VM を削除する前に、1つまたは複数の登録済み管理サーバーの登録解除を実行したことを確認します。OMIMSSC アプライアンス VM を削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. Windows サーバーの Hyper-V Manager で、OMIMSSC を使用している VM 上で、[ アプライアンス VM ] を右クリックして、[ オフにする ] をクリックします。
2. [ アプライアンス VM ] を右クリックして、[ 削除 ] をクリックします。

## トラブルシューティング

### トピック：

- OMIMSSC アプライアンスの導入および OMIMSSC 管理ポータル関連の問題
- OMIMSSC アプライアンス関連の問題のある SCOM 管理グループの登録
- OMIMSSC アプライアンス関連の問題のある SCOM 管理グループの登録解除
- Dell EMC デバイスに関する問題の検出とモニタリング
- その他の問題

## OMIMSSC アプライアンスの導入および OMIMSSC 管理ポータル関連の問題

### OMIMSSC アプライアンスの導入後、OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられない

アプライアンスを作成して操作すると、コマンドライン インターフェイス (CLI) で IP アドレスが割り当てられなかったり表示されなかったりします。

対策：物理スイッチにマップされている仮想スイッチの設定が正しいことを確認してから、OMIMSSC アプライアンスに接続します。


### SCOM コンソールで OpenManage Integration Dashboard を起動できない

#### このタスクについて

登録後に、OpenManage Integration Dashboard が SCOM コンソールにロードされない場合、または OMIMSSC アプライアンスの IP に変更がある場合。

回避策 - ユニット モニターで OMIMSSC アプライアンスの IP をアップデートします。

#### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ オーサリング ] を選択します。
2. [ オーサリング ] > [ 管理パック オブジェクト ] > [ モニター ] の順に選択します。
3. [ 検索対象 ] フィールドで、管理サーバーの下にある **Dell EMC SDK Override Appliance IP** を検索します。
4. [ Dell EMC SDK Override Appliance IP ] を右クリックし、[ オーバーライド ] > [ モニターのオーバーライド ] > [ クラスの全オブジェクト ] の順にクリックします。  
[ プロパティのオーバーライド ] ウィザードが表示されます。
5. パラメーター名で [ Dell EMC Appliance IP ] を選択します。
6. オーバーライド値を更新し、[ OK ] をクリックします。  
 **メモ:** 他の上書きパラメーターを選択していないことを確認します。

## Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにログインできない

Mozilla Firefox ブラウザーを使用して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。

```
Secure Connection Failed
```

回避策 - ブラウザーの Admin portal の前回のエントリから作成された証明書を削除します。

## OMIMSSC アプライアンスに接続できない

OMIMSSC アプライアンスを導入して、OMIMSSC アプライアンス アイコンをダブルクリックすると、次のメッセージが表示されます。

```
Connection to server failed.
```

対策：

- OMIMSSC アプライアンスの IP および FQDN を信頼できるサイトとして追加します。
- DNS で、前参照ゾーンと逆引き参照ゾーンにアプライアンスの IP および FQDN を追加します。
- C:\ProgramData\VMMLogs\AdminConsole ファイルにエラー メッセージがないか確認します。

## OMIMSSC と SCOM コンソールの間の接続ができない

このタスクについて

OMIMSSC が導入されているサーバーを再起動すると、OMIMSSC アプライアンスと SCOM コンソールの間の接続が切れます。これは、ユーザーの SCOM コンソールの実行ポリシーがアクティブになっていないためです。SCOM コンソールのユーザー アカウントを使用して SCOM コンソール サーバーにログインして、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次のタスクが完了するまで接続は復元されません。

手順

1. PowerShell 実行ポリシーを次のように設定します。

- ローカル システム= RemoteSigned
- SCOM コンソール アカウント=制限なし

ポリシー設定の詳細については、次の Microsoft のマニュアルを参照してください。

- PowerShell 実行ポリシー： [https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about\\_execution\\_policies?view=powershell-7](https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_execution_policies?view=powershell-7)
- PowerShell グループ ポリシー： [https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about\\_group\\_policy\\_settings?view=powershell-7](https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_group_policy_settings?view=powershell-7)

2. 実行ポリシーを設定したら、SCOM コンソール サーバーを再起動します。

## OMIMSSC アプライアンス関連の問題のある SCOM 管理グループの登録

OMIMSSC アプライアンスを導入した後、OMIMSSC を使用した管理サーバーの登録が失敗するか、Dell EMC 管理パックが正常にインストールされない。

対策：

- OMIMSSC アプライアンスの導入中に、VM のゲスト時間とホストを同期するオプションが有効になっていることを確認します。

- OMIMSSC VM ネットワークの設定中に、IPv4 構成で固定 IP アドレスを割り当てる場合は、IP アドレスを入力して変更を保存します。CLI で [ ネットワークの設定 ] オプションを再度開いて、ホスト名を変更します。OMIMSSC VM のネットワーク設定、p. 24 を参照してください。

## ローカルアカウントとドメインアカウントのユーザー名は一致しているにもかかわらずパスワードが異なる場合に発生した問題

管理サーバーまたはアラート リレー サーバーで、ドメイン ユーザー アカウントとローカル ユーザーのユーザー名が同じでパスワードが異なると、次のような問題が発生します。

- OMIMSSC アプライアンスと SCOM コンソールの間の接続を正常にテストできない。
- Dell EMC OpenManage Integration Dashboard で検出ジョブを正常に実行しても、それぞれの Dell EMC デバイスの状態ビューとダイアグラム ビューに SCOM オブジェクトが検出されない。
- SCOM コンソールで検出されたデバイスが、Dell EMC デバイスの状態ビューとダイアグラム ビューで監視されていない状態のままになる。

例：

- ドメイン ユーザー アカウント：domain\user1、pwd1
- ローカル ユーザー アカウント：user1、Pwd2

ユーザーがこのドメイン ユーザー アカウントで登録しようとしても、テスト接続操作がうまくいきません。

**回避策：** OMIMSSC アプライアンスに SCOM コンソールを登録するときに、ドメイン ユーザー アカウントとローカル ユーザーアカウントに別のユーザー名を使用するか、単一のユーザーアカウントをローカル ユーザーとして使用します。

Dell EMC デバイスを検出する前に、管理サーバーとアラート リレー サーバーで、ドメイン ユーザー アカウントの構成を変更するようにします。

## Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードのビュー管理パックのインポートが、Microsoft System Center-Operations Manager 2012 R2 で失敗する

### このタスクについて

Dell EMC OpenManage Integration ダッシュボードのビュー管理パックをインポートするには、次の操作を行います。

### 手順

1. Microsoft System Center-Operations Manager 2012 R2 用のアップデート ロールアップ 14 をインストールします。最新のアップデート ロールアップ情報およびインストール手順の詳細については、それぞれの Microsoft マニュアルを参照してください。
2. 最新のアップデート ロールアップがインストールされると、C:\Program Files\Microsoft System Center 2012 R2\Operations Manager\Server\Management Packs for Update Rollups にある次の管理パックが管理サーバーで使用可能になります。これらの管理パックを SCOM コンソールにインポートします。
  - Microsoft.SystemCenter.Visualization.ServiceLevelComponents
  - Microsoft.SystemCenter.Visualization.Library
  - Microsoft.SystemCenter.Visualization.Component.Library
3. Dell EMC OMIMSSC 構成管理パックをインポートし、OMIMSSC 管理ポータルから SCOM 管理サーバーを登録します。登録の詳細については、サポートサイトの『System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center に関するユーザーズガイド』を参照してください。

# OMIMSSC アプライアンス関連の問題のある SCOM 管理グループの登録解除

## 登録解除中にアクセスできなくなった SCOM コンソールの手動クリーンアップ

### このタスクについて

登録解除中に SCOM コンソールにアクセスできなくなり、強制的に登録解除すると、アクセスできなくなったコンソールにはインストールされていた管理パックが残ります。SCOM コンソールでインストールされている管理パックを削除するには、次のようにします。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ オーサリング ] を選択します。
2. グループのリストを表示するには、[ グループ ] を選択します。
3. グループのリストで [ DellProxyMSGGroup ] を選択します。
4. グループに追加された明示的なメンバーがないか確認し、削除します。
5. グループを右クリックして、[ 削除 ] をクリックします。  
DellProxyMSGGroup が削除されます。
6. 左側のペインで [ 管理 ] を選択します。
7. SCOM 2016 以降でインストールされている管理パックのリストを表示するには、[ 管理 ] > [ 管理パック ] > [ インストール済み管理パック ] を選択します。
8. コンソールから管理パックを削除するには、次の順序で管理パックを右クリックして [ 削除 ] をクリックします。
  - Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー 関連ユーティリティ
  - Dell EMC Managed Server iSM Management Pack
  - Dell EMC Server OpenManage Integration Dashboard ビュー
  - Dell EMC Windows Server ( 拡張可能エディション )
  - Dell EMC Feature Management Task Refresher
  - Dell EMC Feature Management Override
  - Dell EMC Managed Server Model Library
  - Dell EMC グループ作成
  - Dell EMC Server Operations Library
  - Dell EMC 機能管理
  - Dell EMC シャーシ CMC ビュー
  - Dell EMC シャーシ CMC モデル
  - Dell EMC CMC Operations Library
  - Dell EMC サーバ表示
  - Dell EMC SDK ApplianceIP Override
  - Dell EMC Server Model
  - Dell EMC Server View Library
  - Dell EMC Server Model Library
  - Dell EMC CMC モデル
  - Dell EMC AgentResource 0 Override
  - Dell EMC NetworkSwitch ビュー
  - Dell EMC NetworkSwitch
  - Dell EMC PerformanceThreshold Monitor Override
  - Dell EMC Base Hardware Library
  - Dell EMC Operations Library Common
  - Dell EMC Appliance Information Management Pack
  - Dell EMC Configuration Management Packすべての管理パックとオーバーライドが削除されます。
9. 次のパスたどって、ローカル ドライブにある Dell Management Pack フォルダを削除します。 %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\\

10. レジストリー エディターで Dell Server Management Pack Suites のレジストリー エントリーを削除するには、次の手順に従います。
  - a. [ HKEY\_LOCAL\_MACHINE ] > [ ソフトウェア ] > [ Dell ] の順に選択します。
  - b. **Dell Server Management Pack suite** を右クリックして、レジストリー エントリーを削除します。

## 登録解除ジョブの完了後に OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 によって設定された前提条件を手動で復元する

OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.3 で登録解除ジョブが完了した後、OMIMSSC アプライアンス バージョン 7.2 によって SCOM Management Server で設定された前提条件は復元されません。

**回避策** : SCOM Management Server で、手動で次の設定を復元します。


- SSL リスナー
- Basic 認証サポート
- WinRM HTTPS を許可するファイアウォール ルール
- PS Remoting
- WinRM クライアント認証
- WinRM サービス認証
- WinRM AllowUnencrypted サービス

## Dell EMC デバイスに関する問題の検出とモニタリング

### OMIMSSC の再起動後にデバイスを検出および監視できない

#### このタスクについて

OMIMSSC を再起動すると、SCOM コンソールと OMIMSSC アプライアンスとの間の接続が切断されます。アプライアンスが起動された後、次の検出およびモニタリング サイクルの間に、Dell EMC デバイスのすべての検出およびモニタリング機能が復元されます。

 **メモ**: 検出およびモニタリング サイクルのデフォルトは 24 時間です。

24 時間のサイクルより前に Dell EMC デバイスの検出およびモニタリングを開始するには、オーバーライド値を変更してください。オーバーライド値を変更するには、次の操作を行います。

#### 手順

1. OMIMSSC にログインします。
2. [ プロファイルおよび設定 ] > [ 設定 ] の順に選択します。
3. [ 編集 ] タブをクリックし、オーバーライド値を編集するデバイスを選択します。
4. 検出間隔列で、オーバーライド値を編集して、[ 適用 ] をクリックします。  
オーバーライド値を変更すると、ただちに検出が再度トリガーされます。  
(オプション)[ ジョブとログ センター ] > [ スケジュール ] ジョブを選択すると、適用された変更が表示されます。

### デバイスを検出するために OMIMSSC で実行しているジョブが 5 時間を過ぎても進行状態のままになる

OMIMSSC から実行されたデバイス検出ジョブが 5 時間を過ぎても実行中のタスク リストにスタックしたままです。

**対策** : 同じ IP アドレス セットのデバイス検出ジョブを新たに作成して実行します。

## ターゲット デバイス上の SNMP トラップの宛先を設定できない

### このタスクについて

原因：

- ユーザーは管理者権限を持っていません。
- ターゲット デバイスでスロットを使用できないため、トラップ宛先 IP アドレスを設定できません。
- ターゲット iDRAC で System Lockdown モードが有効になっています。

### 回避策

- ユーザーにターゲット デバイスの管理者権限があることを確認します。
- トラップ宛先 IP アドレスを設定するために、ターゲット iDRAC でスロットが使用可能であることを確認します。
- ターゲット iDRAC の System Lockdown モードを無効にします。

## 検出されたシャーシまたはネットワーク スイッチからアラートを受信できない

### このタスクについて

シャーシまたはネットワーク スイッチを検出した後、次のように手動で設定して SCOM コンソールでアラートを受信します。

- SCOM コンソール上のシャーシまたはネットワーク スイッチ オブジェクトに対して有効な SNMP コミュニティ文字列アカウントは、[ Administration ] > [ Run As 設定 ] > [ プロファイル ] > [ SNMP 監視アカウント ] の順に設定されています。
- シャーシまたはネットワーク スイッチのイベント アラート オプションを有効にします。
- シャーシまたはネットワーク スイッチのアラート送信先フィールドに、関連づけられている Dell EMC アラート リレー サーバーの IP アドレスを入力します。

**メモ:** シャーシまたはネットワーク スイッチの検出後、[[ モジュラー システム ビュー ]] または [[ ネットワーク スイッチ ビュー ]] ページの [ アラート リレー サーバー ] 列に、関連づけられている Dell EMC アラート リレー サーバーのリストが表示されます。

## OMIMSSC による Dell EMC デバイスのデータ同期の問題の解決

### このタスクについて

認証情報、HTTPS ポート番号、SNMP ポート番号、またはコミュニティ文字列が無効であるために、SCOM で検出されたデバイスが OMIMSSC と同期されないことがあります。その場合、OMIMSSC はデバイスを検出できないため、各デバイスは IP アドレスでリストされます。同期のエラーを解決するには、関連認証情報を入力する必要があります。

同期のエラーは、次の手順に従って解決します。

### 手順

1. SCOM コンソールの左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC OpenManage Integrations ビュー ] > [ OpenManage Integration Dashboard ] を選択します。
3. 管理者として OMIMSSC にログインします。
4. [ モニタリング ] > [ 同期エラーの解決 ] を選択します。  
同期に失敗したデバイスの IP アドレスのリストが表示されます。
5. デバイスを選択して、デバイスの認定資格プロフィールを選択します。  
デバイス認定資格プロフィールを作成するには、[ 新規作成 ] をクリックします。[デバイス認定資格プロフィールの作成](#)、p. 39 を参照してください。
6. ジョブ名を入力し、必要に応じて [ ジョブ リストに移動 ] チェック ボックスを選択すると、ジョブが送信された時点で自動的にジョブのステータスが表示されます。
7. [ 終了 ] をクリックします。

## その他の問題

### Dell EMC Feature Management Dashboard での問題の解決

OMIMSSC でリストア機能を使用すると、Dell EMC Feature Management Dashboard で次のような問題が発生することがあります。

#### FQDN を間違えて指定したり、FQDN を指定しなかったりすると、OMIMSSC のバージョンが 7.1 と表示される

OMIMSSC 管理ポータルでのリストア操作時に、間違った管理サーバー FQDN を指定したり、管理サーバー FQDN を指定しなかったりすると、Dell EMC Feature Management Dashboard に、モニタリング機能に使用できるアプライアンスのバージョンは 7.1 と表示されます。

1. リストア操作が完了したら、SCOM コンソールで [ オーサリング ] を選択します。
2. [ 管理パック オブジェクト ] を展開します。
3. [ オブジェクトの検出 ] をダブルクリックします。
4. [ 検索対象 ] フィールドで、[ **Dell Feature Management ホスト検出** ] を探します。
5. [ Dell Feature Management ホスト検出 ] を右クリックして、[ オーバーライド ] > [ オブジェクト検出のオーバーライド ] > [ クラスのすべてのオブジェクト：管理サーバー ] の順にクリックします。
6. [ FMP ホスト FQDN ] を選択して、リストア操作時に使用される管理サーバーの FQDN の値にオーバーライド値を設定します。FMP ホストの FQDN 名は次の手順で取得できます。
  - a. OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
  - b. [ ジョブとログ センター ] > [ 汎用ログ ] > [ アプライアンス ログ ] を選択します。
  - c. [ アクティビティ ログ ] に次のようなメッセージが表示されます。

Information: The Dell registry entry on the MS with FQDN <name> has been updated.

7. [ OK ] をクリックします。

#### Feature Management Dashboard に、残りの管理サーバーに関する情報が表示されない

OMIMSSC 管理ポータルでの登録に使用する管理サーバーが SCOM 管理グループから削除されると、Dell EMC Feature Management Dashboard に残りの管理サーバーに関する情報が表示されなくなります。Feature Management Dashboard の機能をリカバリーするには、次の手順を実行します。

1. サービス パックをアップデートします。
2. 管理グループから削除された管理サーバーを起動します。
3. [[ コマンドプロンプト ]] ウィンドウで、次のコマンドを実行します。Run **reg export HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Dell\Dell Server Management Pack Suites c:\Export.txt**
4. 管理グループの管理サーバーのどれかを起動します。
5. エクスポートされた C:\Export.txt ファイルを管理サーバーにコピーします。
6. [[ コマンドプロンプト ]] ウィンドウで **reg import c:\Export.txt** を実行します。
7. [ FQDN を間違えて指定したり、FQDN を指定しなかったりすると、OMIMSSC のバージョンが 7.1 と表示される ] セクションの手順 1~6 を実行してください。
8. [ OK ] をクリックします。

#### Feature Management Dashboard で、サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能とシャーシ モニタリング機能に異なる OMIMSSC バージョンが表示される

Feature Management Dashboard に、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能と Dell EMC シャーシ モニタリング機能の 2 つの OMIMSSC バージョンのエントリが利用可能と表示されます。例えば、サーバーのモニタリングはバージョン 7.1 に、シャーシの方はバージョン 7.2 になっていたりします。Feature Management Dashboard から使用可能なバージョンが 7.1 になっているモニタリング機能を削除するには、次の手順を実行します。

1. [[ コマンドプロンプト ]] ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
Run reg export HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Dell\Dell Server Management Pack Suites
C:\Export.txt
```

2. エクスポート後に、次のコマンドを実行します。

- **reg delete HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Dell**

レジストリー エントリーを完全に削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- **reg delete HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Dell (Yes/No)?**

削除する場合は「**Y**」、しない場合は「**N**」と入力します。

**①** **メモ:** 登録されている管理サーバー FQDN を取得する場合は、このガイドの「OMIMSSC アプライアンスのリストア」セクションを参照してください。

レジストリー エントリーの削除後、使用可能な OMIMSSC のバージョンのアップデートが Feature Management Dashboard に反映させるまで 10~15 分かかります。

**①** **メモ:** バージョン 7.1 のレジストリー エントリーを表示するには、以前に登録されていた管理サーバーでレジストリー エディターを起動するようにしてください。

**①** **メモ:** 次の場合にも、OMIMSSC の 2 つの異なるバージョン番号が表示されます。

- バージョンのアップグレード時に、Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能および DRAC モニタリング機能をインポートしなかった場合。
- リストアの実行後にインポートを行った場合。

## イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する

### このタスクについて

iSM 管理パックがプロキシ エージェントを検出しようとする時、管理サーバーでイベント ID 33333 の警告イベントが生成されます。このイベントが発生しないようにするには、プロキシ エージェントをターゲットとする iSM 検出を無効にする必要があります。

プロキシ エージェントで実行される iSM 検出を無効にし、イベント ID 33333 が再度生成されないようにするには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールにログインします。
2. 左ペインで、[ オーサリング ] > [ 管理パック オブジェクト ] を選択し、[ オブジェクト検出 ] をダブルクリックします。
3. [ 検索対象 ] フィールドで、**iSM** を検索します。
4. **検出タイプ** : [ Dell サーバー ] > [ Dell サーバーの検出 ] を選択します。
5. [ Dell サーバーの検出 ] を右クリックして、[ オーバーライド ] > [ オブジェクト検出のオーバーライド ] > [ 特定のグループ ] の順にクリックします。  
[ オブジェクトの選択 ] ウィザードが表示されます。
6. [ DellProxyMSGGroup ] グループを選択し、[ OK ] をクリックします。

## Internet Explorer を使用して証明書署名リクエストをダウンロードできない

**回避策** : Internet Explorer で、[ インターネット オプション ] > [ セキュリティ ] を選択します。インターネット ゾーンで [ レベルのカスタマイズ ] をクリックします。セキュリティ設定ウィンドウの [ ダウンロード ] で、[ ファイルのダウンロード ] を有効にします。

## アプライアンスをアップグレードした後、OMIMSSC 管理ポータルが例外を表示する

**回避法**：SCOM 用の OMIMSSC アプライアンスをアップグレードした後、ブラウザのキャッシュを削除し、OMIMSSC 管理ポータルにログインします。

## ネットワークに問題がある場合、Dell EMC アラート リレー サーバーと関連付けられたデバイスは Dell EMC OpenManage Integration Dashboard から削除されない

### このタスクについて

Dell EMC アラート リレー サーバー インストーラーをアンインストールすると、アラート リレー サーバーの関連付けられたデバイスが SCOM コンソールから自動的に削除されます。Dell EMC OpenManage Integration Dashboard のホームページで [ SCOM MS と同期 ] を選択してアラート リレー サーバーの詳細を同期すると、ネットワーク問題のエラーメッセージが表示されることがあります。関連付けられているデバイスは、Dell EMC OpenManage Integration Dashboard に引き続き表示されます。

### 回避策

Dell EMC OpenManage Integration Dashboard からデバイスを手動で削除します。

## リファレンス トピック

### トピック：

- OMIMSSC でサポートされているモニタリング機能
- Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC のモニタリング機能の設定
- 検出されたデバイスの重要度レベル
- SCOM コンソールでのタスクの実行
- デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド
- OMIMSSC での PowerEdge サーバーのライセンス対象モニタリングの主要機能
- OMIMSSC によって監視されているサーバーおよびラック型ワークステーションのハードウェア コンポーネント
- OMIMSSC によるモニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント
- OMIMSSC によって監視されるネットワーク スイッチのハードウェア コンポーネント
- OMIMSSC モニタリング機能によって提供される表示オプション
- OMIMSSC のユニット モニター
- OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって使用されるイベント ルール

## OMIMSSC でサポートされているモニタリング機能

このセクションでは各項で、SCOM 対応 OMIMSSC アプライアンスでサポートされるモニタリング機能について説明します。

### Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能

Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能は、次のデバイスに対する指定検出方法に基づく詳細あるいは拡張性のあるインベントリを作成し、モニタリングを行います：

- 第 12 世代、第 13 世代、iDRAC 9 ベースの PowerEdge サーバー
- PowerVault サーバー
- Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーと、Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェア モニタリング。
- Dell Precision ラック

これらのデバイスのインベントリおよびモニタリングは、モニタリング設定に基づいて、次の方法のいずれかで管理下の Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションにインストールされた iDRAC または iDRAC サービス モジュール (iSM) から実行できます。

- WS-Man を使用した iDRAC
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- WMI を使用した iSM

これは、ライセンス付きの機能です。iSM の対応プラットフォームのリストについては、サポート サイトの『iDRAC サービス モジュールインストールガイド』を参照してください。

### 管理パック

表 9. Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)	ライブラリ	ライブラリ

表 9. Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
	%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library <b>拡張性のある管理パックと詳細な管理            パック</b> C:\PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Server Monitoring	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Dell.Connections.HardwareLibrary.mp</li> <li>● Dell.OperationsLibrary.Server.mp</li> </ul> <b>モニタリング対象管理パック</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● iSM-WMI で検出された Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションの場合：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Dell.ManagedServer.iSM.mp</li> <li>○ Dell.ManagedServer.Model.mp</li> <li>○ Dell.View.Server.mp</li> </ul> </li> <li>● iDRAC-WS-MAN で検出された Dell EMC サーバーまたはラック型ワークステーションの場合：               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Dell.Model.Server.mp</li> <li>○ Dell.OperationsLibrary.Server.mp</li> <li>○ Dell.Server.OOB.mp</li> <li>○ Dell.View.Server.mp</li> </ul> </li> <li>● Dell.Model.Server.mp</li> <li>● Dell.Server.SDK.mp</li> <li>● Dell.Server.SDKServer.mp</li> <li>● Dell.View.Server.mp</li> </ul>

## 設定の前提条件

- iSM がインストールされていること
  - iSM-WMI からデバイスを検出する WMI 機能が有効に設定されていること
  - ホスト OS からの iDRAC アクセスによってデバイスを検出するために [ホスト OS からの iDRAC アクセス] が有効に設定されていること
- iDRAC に対する WS-MAN ( WS-Management ) 接続性があること。
- ファイアウォールで SNMP ポートが有効になっていること。
- SCOM でアラートを受信するには、iDRAC で OS から iDRAC へのパススルー設定を有効にします。
- Dell Device Helper がインストールされていること。
- WinRM 設定で MaxEnvelopeSizekb の値が高めになっていること ( Windows Server 2008 R2 の場合のみ ) 。

## 管理サーバー ( MS ) の要件

- Microsoft System Center—Operations Manager 2012 以降 : Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能は、Operations Manager 2012 以降を実行している管理サーバーでのみ使用できます。
- Microsoft の SMASH ライブラリー MPB : Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能で Dell EMC PowerEdge サーバーを検出するには、Microsoft の SMASH ライブラリー MPB が必要です。 [Web Services Management \( WS-Man \) と SMASH デバイス テンプレートのインストール](#)、p. 126 を参照してください。

## 管理下システム要件

- 必要な iSM バージョンが Dell EMC デバイスにインストールされています。モニタリング要件に基づいて、iDRAC コンソールから次の機能を有効にする必要があります。
  - iSM-WMI から監視する Windows Management Instrumentation ( WMI ) 機能
  - ホスト IP を使用して iDRAC から監視するホスト OS からの iDRAC アクセス ( 試験的機能 )
- iDRAC7 以降
  - ① **メモ:** iDRAC ファームウェアバージョン 2.40.40.40 以降を使用している場合は、Transport Layer Security ( TLS ) バージョン 1.1 以降がデフォルトで有効に設定されています。Microsoft System Center Configuration Manager 向け Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.2 をインストールする場合は、<https://www.support.microsoft.com/en-us/kb/3140245>

で TLS アップデートの詳細情報を参照してください。お使いの Web ブラウザに基づいて、TLS 1.1 以降のサポートを有効にする必要があります。

## 機能管理タスク

次の表に、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] で使用可能な Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能のタスクを示します。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能をインポートしないと表示されません。

**メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。

表 10. 機能管理タスク

タスク	説明
[ エージェントプロキシの有効化 ]	対応する iSM バージョンを実行している Dell EMC PowerEdge サーバ用のエージェントプロキシを有効にし、これらのサーバの検出も始動させます。
[ 拡張可能機能 ( ライセンス対象 ) への設定 ]	システムで詳細機能が実行されている場合、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] はこのモニタリング方法のために詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
[ 詳細機能 ( ライセンス対象 ) への設定 ]	システムで拡張可能機能が実行されている場合、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] はこのモニタリング方法のために拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
[ 優先モニタリング方法 ( ライセンス対象 ) として設定 ]	デバイスが Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能と Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能の両方から監視されている場合、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能を、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションの優先モニタリング方法として有効にします。
[ イベント自動解決を有効にする ]	イベント自動解決機能を有効にします。
[ イベント自動解決を無効にする ]	イベント自動解決機能を無効にします。
[ Run-As アカウントの関連付け ]	このタスクでは、SMASH 検出に使用される Run As アカウントを、稼働状態のモニタリングに必要なすべての Dell サーバー オブジェクトに関連付けます。詳細については、 <a href="#">Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能</a> 、p. 127 を参照してください。
[ モニタリング機能 ( ライセンス対象 ) の削除 ]	Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能を削除します。
[ ダッシュボードの更新 ]	[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を更新します。 <b>メモ:</b> [ ダッシュボードの更新 ] タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。

表 10. 機能管理タスク ( 続き )

タスク	説明
[ ノード数の更新 ]	この機能を使用して、監視されるサーバーのノード数を更新します。

## Dell EMC シャーシ モニタリング機能

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2/FX2s シャーシ、PowerEdge VRTX シャーシ、PowerEdge M1000E シャーシ、および Dell OEM Ready シャーシ上の Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modulation ( CMC/OME-M ) の検出とモニタリングについて、次を使用してサポートします。

- SNMP および/または WS-Man プロトコル
- Redfish

Dell EMC シャーシ モニタリング機能は、対応する Microsoft System Center - Operations Manager の個々のシャーシ コンポーネントの詳細モニタリングもサポートします。

## 管理パック

表 11. Dell EMC シャーシ モニタリング機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC シャーシ モニタリング	<p><b>ライブラリ</b></p> <p>%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library</p> <p><b>モニタリング対象管理パック</b></p> <p>%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Chassis Monitoring</p>	<p><b>ライブラリ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dell.Connections.HardwareLibrary.mp</li> <li>• Dell.OperationsLibrary.Common.mp</li> </ul> <p><b>モニタリング対象管理パック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dell.CMC.SDK.mp</li> <li>• Dell.Model.CMC.mp</li> <li>• Dell.CMC.Sync.mp</li> <li>• Dell.View.SDKCMC.mp</li> </ul>

## 設定の前提条件

- ファイアウォールで SNMP ポートが有効になっていること。
- Dell Device Helper がインストールされていること。
- 管理サーバーと管理下ノードの間に WS-Man 接続があること。

## Dell EMC シャーシ モニタリングの要件

- スロット検出と相関を機能させるには、Dell Device Helper Utility がインストールされていることを確認してください。
- シャーシコントローラ、IO モジュール、IO モジュールグループ、電源装置、および電源装置グループコンポーネントを監視します。
- シャーシ デバイスの正常性を監視するには、コミュニティ文字列 Run As アカウントを Dell Modular Chassis クラス、またはそれぞれのシャーシ オブジェクト ( 異なるシャーシ デバイスに異なる Run As アカウントがある場合 ) をターゲットとして、SNMP モニタリング アカウントと関連付けます。
- Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) のシャーシ スロットおよびシャーシ スロット サマリーを検出するには、Run As アカウントを作成し、そのアカウントを Dell CMC ログイン アカウント Run As プロファイルに関連付けます。また、SCOM コンソールから CMC スロット検出も有効にします。
- シャーシ詳細モニタリングを実行するには、Dell EMC CMC/OME-M へのアクセスに必要な WS-Man 資格情報で Run As アカウントを作成し、そのアカウントをプロファイル ( Dell CMC ログイン アカウント Run As プロファイル ) に関連付けます。

**メモ:** Dell EMC CMC/OME-M 用に AD ドメイン資格情報を使用している場合は、`username@domainname.com` というフォーマットで資格情報を入力してください。

## サーバー モジュールとシャーシ スロット サマリーを相関させるための Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) 機能の設定

サーバモジュールを相関させるために Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) 機能を設定するには、Run As アカウント を作成してそれを Run As プロファイルに関連付け、シャーシスロットサマリーの自動入力を行います。

1. シャーシの CMC/OME-M に接続する権限のある、簡易認証タイプの Run As アカウント を作成します。また、ユーザー資格情報を設定するには、ベーシックまたはダイジェストの Run As アカウント タイプを使用します。
2. 特定の管理サーバーに対して選択的に設定を適用できるようにするため、Run As アカウント設定で、高セキュリティまたは低セキュリティ オプションを選択します。
3. 作成した Run As アカウントを Dell CMC ログインアカウント のプロファイルに関連付け、プロファイル上で設定できる適切なクラス、グループ、またはオブジェクトを選択します。

CMC/OME-M のスロットサマリー検出を有効にするには、Dell CMC スロット検出 で有効化プロパティを True にオーバーライドします。これは、デフォルトでは無効になっています。

**メモ:** サーバー管理アクション アカウントを SCOM 管理者グループに追加します。

**メモ:** スロット検出後、RunAs アカウント と RunAs プロファイル 間のリンクを削除、またはスロット検出ワークフローを無効化すると、検出されたスロットには古いデータが残ります。

## 機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な Dell EMC シャーシ モニタリングのタスクを一覧にしたものです。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC シャーシ モニタリング機能をインポートした後にのみ表示されます。

**メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。

**メモ:** Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して別のタスクを実行する前に、タスクが完了するのを待ってください ( ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します )。

表 12. 機能管理タスク

タスク	説明
[ 拡張可能モニタリングの設定 ]	システムで詳細機能が実行されている場合、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] は詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。  以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。
[ 詳細モニタリングの設定 ]	システムで拡張可能機能が実行されている場合、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] は拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。
[ ノード数の更新 ]	ノード数を更新します。
[ ダッシュボードの更新 ]	[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を更新します。  <b>メモ:</b> [ ダッシュボードの更新 ] タスクはダッシュボードをただちに更新しない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかる場合があります。

## Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー相関機能

シャーシ モジュラー型サーバー相関機能は次をサポートします。

- シャーシ スロットでライセンス対象またはライセンス不要のモニタリング機能を使用して検出されたモジュラー型サーバー相関。  
 ⓘ **メモ:** Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) スロット検出はデフォルトで無効になっています。このため、相関機能を動作させるには、CMC/OME-M スロット検出を有効にします。
- シャーシ共有ストレージコンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバの相関。  
 ⓘ **メモ:** シャーシ共有コンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバーとの相関を示すために、Dell EMC シャーシ詳細モニタリングをインポートします。

## 管理パック

表 13. Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー相関モニタリング機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー相関	<b>ライブラリ</b> %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library <b>モニタリング対象管理パック</b> %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\ChassisModular ServerCorrelation	<b>ライブラリ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dell.Connections.HardwareLibrary.mp</li> <li>• Dell.OperationsLibrary.Common.mp</li> </ul> <b>モニタリング対象管理パック</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dell.ChassisModularServer.Correlation.mp</li> </ul>

## 管理サーバー ( MS ) の要件

### 分散型 SCOM 環境におけるシャーシ ブレード相関

プロキシエージェントを有効化するには、次の手順を実行します。

1. SCOM コンソールで [ 管理 ] をクリックします。
2. [ 管理 ] ペインで、[ 管理 ] > [ デバイス管理 ] > [ 管理サーバー ] を展開します。
3. シャーシデバイスを検出した管理サーバーを選択します。
4. 右クリックして、[ プロパティ ] を選択します。
5. [ 管理サーバプロパティ ] で、[ セキュリティ ] をクリックします。
6. [ このサーバをプロキシとして動作させて、他のコンピュータの管理下オブジェクトを検出する ] を選択します。
7. [ OK ] をクリックします。

## 機能管理タスク

次の表は、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] で使用可能な Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー相関機能のタスクを一覧にしたものです。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー相関のモニタリング機能をインポートした後にのみ表示されます。

- ⓘ **メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ⓘ **メモ:** Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して別のタスクを実行する前に、タスクが完了するのを待ってください ( ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します )。

表 14. 機能管理タスク

タスク	説明
[ ノード数の更新 ]	ノード数を更新します。
[ ダッシュボードの更新 ]	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。

表 14. 機能管理タスク（続き）

タスク	説明
	<p>① <b>メモ:</b> ダッシュボードの更新タスクはダッシュボードをただちに更新しない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかる場合があります。</p>
[ シャーシ モジュラー型サーバー関連機能のアップグレード ]	Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連機能を最新バージョンにアップグレードします。
[ シャーシ モジュラー型サーバー関連機能の削除 ]	Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー関連機能を削除します

## Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、M シリーズ、Z シリーズ、N シリーズ、S シリーズ スイッチなどのネットワーク スイッチを検出して監視します。ネットワーク スイッチ モニタリング機能では、SNMP ベースで通信が行われます。

Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能は、サポート対象の Microsoft System Center—Operations Manager の個々のスイッチ コンポーネントの詳細レベルでのモニタリングも行います。

### 管理パック

表 15. Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能に必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルトの場所	管理パック
Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング	<p><b>ライブラリ</b></p> <p>%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\Library</p> <p><b>モニタリング対象管理パック</b></p> <p>%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.2\NetworkSwitch Monitoring</p>	<p><b>ライブラリ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dell.Connections.HardwareLibrary.mp</li> <li>Dell.OperationsLibrary.Common.mp</li> </ul> <p><b>モニタリング対象管理パック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dell.NetworkSwitch.mp</li> <li>Dell.View.NetworkSwitch.mp</li> </ul>

### 機能管理タスク

次の表は、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] で使用できる Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング タスクの表です。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、ネットワーク スイッチ モニタリング機能をインポートするまで表示されません。

- ① **メモ:** イベント ログ内のエラー ログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、モニタリング機能のインポート中に、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] がインポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して別のタスクを実行する前に、タスクが完了するのを待ってください（ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します）。

表 16. 機能管理タスク

タスク	説明
[ ノード数の更新 ]	ノード数を更新します。
[ ダッシュボードの更新 ]	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。

表 16. 機能管理タスク（続き）

タスク	説明
	<p>① <b>メモ:</b> ダッシュボードの更新タスクはダッシュボードをただちに更新しない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかる場合があります。</p>
[ 拡張可能モニタリングの設定 ]	<p>システムで詳細エディションが実行されている場合、Dell EMC Feature Management Dashboard は拡張エディションに切り替わります。</p> <p>以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。</p>
[ 詳細モニタリングの設定 ]	<p>システムで拡張エディションが実行されている場合、Dell EMC Feature Management Dashboard は詳細エディションに切り替わります。</p> <p>以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこのモニタリング機能の最新バージョンを使用してください。</p>

## Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC のモニタリング機能の設定

[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] には、OMIMSSC アプライアンスを使用してさまざまな Dell EMC デバイスを監視するためのモニタリング機能を設定するオプションが用意されています。これらのデバイスには、PowerEdge サーバー、PowerEdge Storage Spaces Direct Ready ノード、Dell EMC Precision ラック、Dell Remote Access Controller ( DRAC )、Dell EMC ネットワーク スイッチ、Dell EMC OEM サーバー、および PowerEdge FX2、PowerEdge VRTX、PowerEdge M1000E、PowerEdge MX7000 を含む Dell EMC シャーシなどが含まれます。Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して、モニタリング機能をインポート、アップグレード、および削除することが可能です。

## Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のインポート

### このタスクについて

[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を使用すると、使用可能な OMIMSSC モニタリング機能を表示し、機能に必要な管理パックのインポート、アップグレード、および削除のために、それらを自動的に設定することができます。

モニタリング機能をインポートするには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールを起動します。
2. 左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
3. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] の順に展開します。

[ Dell Technologies Feature Management Dashboard ] ページでは、インストールされている Dell EMC モニタリング機能、現在使用中のバージョン、アップグレード可能なバージョン、モニタリングレベル、現在のライセンスで使用されているノードの合計数、必要なライセンス（存在する場合）のリストを表示することができます。

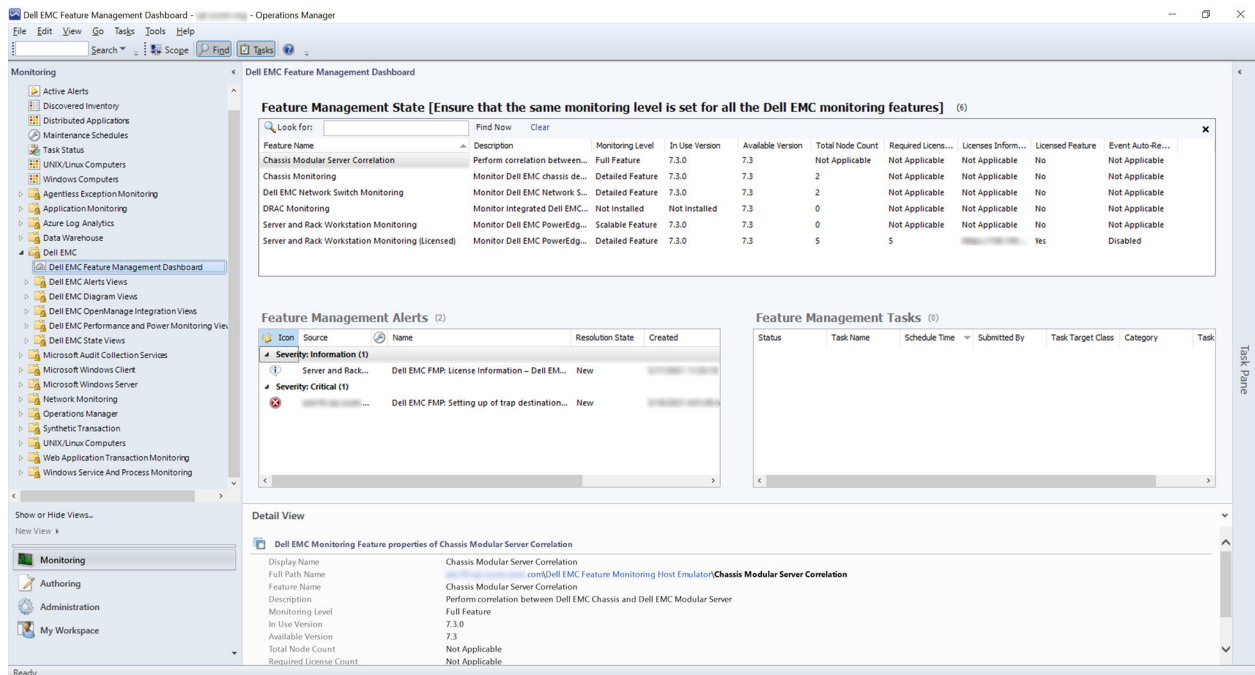


図 13. Dell EMC Feature Management Dashboard

4. インストールするモニタリング機能を選択します。
5. [ タスク ] ペインで [ Dell EMC モニタリング機能タスク ] を展開します。
6. タスクをクリックして、機能をインポートします。
7. [ タスクの実行 ] 画面で、[ 事前定義された RunAs アカウントの使用 ] を選択します。
8. [ 実行 ] をクリックします。
9. タスクが正常に完了したら、[ 閉じる ] をクリックします。

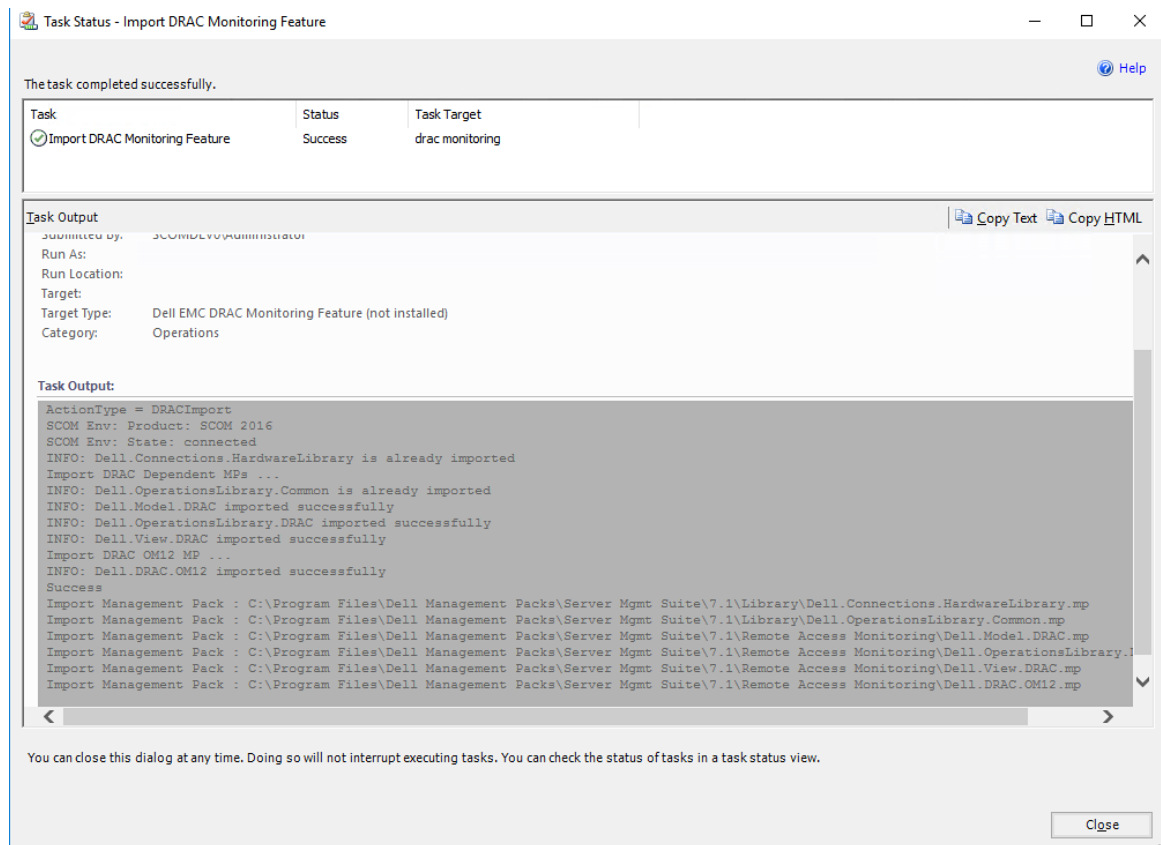


図 14. モニタリング機能のインポートのタスク ステータス

10. 有効にする各モニタリング機能について手順 3~8 を繰り返します。

### タスクの結果

**メモ:** [ Dell Technologies Feature Management Dashboard ] を使用して別のタスクを実行する前に、現在のタスクが完了するまで待ちます。

## Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のアップグレード

### このタスクについて

OMIMSSC アプライアンスの最新のモニタリング機能を利用するには、リリースされるごとに最新のモニタリング機能にアップグレードする必要があります。Feature Management Dashboard でモニタリング機能をアップグレードするには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールを起動します。
2. [ モニタリング ] を選択します。
3. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] の順に展開します。
4. アップグレードするモニタリング機能を選択します。
5. [ タスク ] ペインで [ Dell EMC モニタリング機能タスク ] を展開して、アップグレードタスクを選択します。
6. [ タスクの実行 ] アップグレード画面で、[ 事前定義された Run As アカウトの使用 ] を選択します。
7. [ 実行 ] をクリックします。

**注意:** データ ロスにつながるオーバーライドを行う必要がある依存関係または関連付けがある場合、タスクは完了できず、適切なメッセージが表示されます。タスクを続行するには、[オーバーライド] をクリックして、[警告/エラーの自動解決] のオーバーライドを [ True ] に設定します。

8. タスクを完了したら、[ 閉じる ] をクリックします。

## 拡張可能エディションおよび詳細エディション対応の Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能のカスタマイズ

表 17. Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した OMIMSSC モニタリング機能のカスタマイズ - 拡張可能エディションと詳細エディション

機能	拡張可能エディション	詳細エディション
[ Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ]	サーバーおよびコンポーネントグループレベルでのインベントリおよび正常性モニタリング	コンポーネント ( メモリー、プロセッサ、センサー、ネットワーク インターフェイス、ストレージコントローラー、ディスク、ボリューム ) の詳細なインベントリおよびモニタリング。BIOS 情報も表示。
[ Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のコンポーネントまでのインベントリ。</li> <li>サーバー、ラック型ワークステーション、コンポーネントグループレベルでの正常性モニタリング。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のコンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。</li> <li>電力、温度、ネットワークインターフェースカードのプロセッサ、メモリ、1 秒あたりのコンピュータの使用量 ( CUPS )、PCIe SSD の摩耗レベルのメトリックと、IO パフォーマンスのメトリックを表示。</li> </ul>
[ Dell EMC シャーシ モニタリング ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャーシインベントリ</li> <li>シャーシスロットサマリ</li> <li>シャーシの正常性モニタリング</li> </ul>	個々のシャーシ コンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。
[ DRAC モニタリング ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>iDRAC インベントリ</li> <li>iDRAC の正常性モニタリング</li> </ul>	適用なし。
[ Dell EMC シャーシ モジュラー型サーバー 関連 ]	モジュラー型サーバーとシャーシを関連 ( モジュラー型サーバー内にあるシャーシからコンポーネントまでのインベントリと正常性を表示 )。	適用なし。
[ Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク スイッチ インベントリ</li> <li>ネットワーク スイッチの正常性モニタリング</li> </ul>	個々のネットワーク スイッチ コンポーネントのインベントリおよび正常性モニタリング。

## Dell EMC Feature Management Dashboard を使用したモニタリング機能の削除


### このタスクについて

モニタリング機能を削除または無効にするには、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] を使用します。いずれかのモニタリング機能を削除する前に、開いているすべてのアラートを閉じるか解決します。モニタリング機能を削除する際に、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] は、すべてのオーバーライド参照をインストール フォルダーのバックアップとしてエクスポートします。ただし、カスタム グループ情報およびオーバーライド インスタンス レベル情報は将来再使用できません。


モニタリング機能を削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールを起動し、[ モニタリング ] を選択します。






2. [ モニタリング ] ペインで、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC Feature Management Dashboard. ] を展開します。  
[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] ペインには、SCOM コンソールで現在使用可能なモニタリング機能のリストが表示されます。
3. 削除するモニタリング機能を選択します。
4. [ タスク ] ペインの下にある [ Dell EMC モニタリング機能タスク ] を展開します。
5. モニタリング機能を削除するには、[ 機能の削除 ] をクリックします。  
たとえば、[ Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング ] 機能を削除するには、[ タスク ] ペインで [ モニタリング機能の削除 ] をクリックします。
6. [ タスクの実行 - 機能の削除 ] 画面で、[ 事前定義された Run As アカウントの使用 ] をクリックします。
7. [ 実行 ] をクリックします。  
 **注意:** データ ロスにつながるオーバーライドを行う必要がある依存性または関連付けがある場合、タスクを正常に実行できません。タスクを続行するには、[ オーバーライド ] をクリックして、[ 警告/エラーの自動解決 ] のオーバーライドを [ True ] に設定します。
8. タスクを完了したら、[ 閉じる ] をクリックします。

### タスクの結果

-  **メモ:** カスタム グループまたはインスタンスで参照されるオーバーライドがある場合、[ Dell EMC Feature Management Dashboard ] で [ モニタリング機能の削除 ] タスクを実行すると失敗することがあります。このような場合は、カスタム グループに関連付けられたオーバーライドまたはインスタンスを削除してください。

## 検出されたデバイスの重要度レベル

SCOM コンソールで検出された Dell EMC デバイスの重要度レベルを示す記号。

-  - 正常/OK - コンポーネントは正常に動作しています。
-  - 重要/故障/エラー - コンポーネントが故障しているか、故障しそうな状態です。コンポーネントに対する迅速な対応が必要で、交換が必要な場合もあります。データ喪失が発生している可能性があります。
-  - 警告/非重要 - プローブまたはその他のモニタリング装置が、許容レベルを超えたまたは下回ったコンポーネントの読み取り値を検出しました。コンポーネントが引き続き動作している場合もありますが、故障する可能性があります。また、障害のある状態でコンポーネントが動作している可能性もあります。
-  - 正常性の状態は特定のコンポーネントに適用されません。
-  - サービスを使用できません。

## SCOM コンソールでのタスクの実行

### 手順

1. SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] を選択します。
2. [ Dell EMC ] を展開します。
3. [ ダイアグラム ビュー ]、[ 状態ビュー ]、または [ アラート ビュー ] のいずれかを展開します。
4. タスクを実行するデバイスを選択します。  
デバイスによって使用されるモニタリング機能を使用して実行可能なタスクのリストが、SCOM コンソールの [ タスク ] ペインに表示されます。
5. [ タスク ] ペインで、実行するタスクをクリックします。  
タスクが開始され、タスクが正常に実行されると、タスクの概要が表示されます。

# デバイス検出プロセスをカスタマイズするためのプロパティのオーバーライド

## このタスクについて

検出パラメーター、パフォーマンス、正常性メトリックを上書きすることで、Dell EMC デバイスの検出をカスタマイズできます。検出パラメーター、パフォーマンス、および正常性メトリックをオーバーライドするには、OpenManage Integration ダッシュボードで次の手順を実行します。

## 手順

1. SCOM の左ペインで、[ モニタリング ] をクリックします。
2. [ Dell EMC ] > [ Dell EMC OpenManage Integrations ビュー ] > [ Dell EMC OpenManage Integration Dashboard ] をクリックします。
3. OpenManage Integration ダッシュボードにログインするための資格情報を入力します。ユーザー名を `domain\username` の形式で入力します。
4. 左ペインで、[ プロファイルと設定 ] をクリックします。
5. [ プロファイルと設定 ] を選択します。  
[ 検出、モニタリング、およびパフォーマンスの上書き ] ページが表示されます。使用可能なデバイス タイプに設定された検出タイプとモニタリング間隔が表に示されます。
6. [ 編集 ] をクリックします。  
[ 検出、モニタリング、およびパフォーマンス間隔の上書き ] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. フィールドでデータを選択または入力して、モニタリング設定をカスタマイズします。
  - a. オーバーライドの必要があるモニタリング プロパティを含むデバイス タイプに対応するチェック ボックスを選択します。
  - b. デバイス検出および正常性ステータス ジョブを自動的に実行するための時間頻度を入力します。
  - c. メトリックの収集を有効にするには、ドロップダウン メニューから [ はい ] を選択し、メトリックを収集する必要がある間隔を入力します。
  - d. [ 適用 ] をクリックします。

## 次の手順

さまざまなオペレーションに対して OMIMSSC アプライアンスによって設定される推奨デフォルト間隔は次のとおりです。

- 検出間隔：86,400 秒 ( 24 時間 )
- 正常性間隔：21,600 秒 ( 6 時間 )
- メトリック間隔：21,600 秒 ( 6 時間 )

可能性のあるパフォーマンス問題を回避するために、これらの間隔を変更することはお勧めしません。ただし、これらの間隔を変更する場合は、十分なリソースが確保されていること、適正な SQL サーバー設計およびサイズの考慮事項に従っていることを確認します。詳細については、それぞれの Microsoft マニュアルを参照してください。

## OMIMSSC での PowerEdge サーバーのライセンス対象モニタリングの主要機能

### iDRAC9 PowerEdge サーバーのシステム設定ロックダウン モード

システム設定ロックダウン モード機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーで使用でき、ファームウェア アップデートを含むシステムの設定をロックします。システム設定ロックダウン モードを有効にした後：

- システムの設定を変更することはできません。この機能は、システムが誤って変更されないようにするためのものです。iDRAC コンソールを使用して、システム設定ロックダウン モードを有効または無効にできます。
- サーバーでトラップの宛先情報を設定することはできません。したがって、アラートはモニタリング用に生成されません。このような場合は、システム設定ロックダウン モードが有効になっていること、およびアラートのトラップの宛先情報が設定されていないことを示す重大なアラートによって通知されます。

**メモ:** デル・テクノロジーでは、サーバー検出間隔を更新または変更した直後に、[ Dell OM : システム設定ロックダウンアラート ルール間隔 ] を更新することを推奨しています。この推奨事項により、一定の間隔でサーバー検出が完了した後に、システム ロックダウン モードのアラートが生成されるようになります。

システム設定ロックダウン モードについては、Dell EMC ダイアグラム ビューの [ 詳細ビュー ] ペインで確認できます。この機能の詳細については、サポート サイトで入手可能『iDRAC9 バージョン3.00.00.00 ユーザーズ ガイド』を参照してください。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能の iDRAC および iSM の両方の方法で検出されたサーバーで使用できます。

## iDRAC9 PowerEdge サーバーの iDRAC グループ マネージャー

iDRAC グループ マネージャー機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーで利用でき、同じローカル ネットワーク上の iDRAC およびその関連サーバーの基本的な管理を簡素化します。グループ マネージャー機能により、別のアプリケーションを必要とせずに対多のコンソールを使用できるようになります。iDRAC グループ マネージャーを使用して、サーバー障害の目視検査などの手動方式よりも強力な管理が可能になり、ユーザーは一連のサーバーに関する情報を確認することができます。

ダイアグラム ビューの [ 詳細ビュー ] ペインで、iDRAC オブジェクトの下にある iDRAC グループ マネージャー、iDRAC グループ マネージャーのステータス、および iDRAC グループ名に関する情報を確認できます。この機能の詳細については、サポート サイトで入手可能な『iDRAC9 バージョン3.00.00.00 ユーザーズ ガイド』を参照してください。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能の iDRAC および iSM の両方の方法で検出されたサーバーで使用できます。

## イベント自動解決

このセクションでは、イベント自動解決機能を使用した Dell デバイス イベントの自動解決または確認について説明します。

Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack は、Dell デバイスからイベントを受信して処理します。これらのイベントは、問題、情報、および解決イベントとして幅広く分類できます。これらのイベントはすべて、手動で閉じるまでコンソールに残ります。ノードで問題が解決された後でも、問題イベントと対応する解決イベントは、手動で確認されるまでコンソールに残ります。イベント自動解決機能は、このような Dell デバイスイベントを自動的に解決または確認します。

イベントの自動解決は、次のように分類できます。

- 問題から問題 - 1つの問題イベントが別の問題イベントを解決します。たとえば、温度センサーは、警告しきい値を超えたときに警告イベントを送信します。アクションがない場合、特定の時間が経過すると、同じセンサーは重要イベントを超えたときに重要イベントを送信します。この場合、警告イベントは存在しないため、警告イベントの重要性はありません。警告イベントは確認され、コンソールには重要イベントだけが表示されます。
- 問題から解決 - 1つの解決イベントまたは正常イベントが問題イベントを解決します。たとえば、温度センサーは、警告しきい値を超えたときに警告イベントを送信します。管理者が適切なアクションを実行すると、同じセンサーが、一定時間の経過後に、解決イベントまたは通常イベントを送信します。この場合、警告イベントは存在しないため、警告イベントの重要性はありません。警告イベントは確認され、コンソールには通常イベントだけが表示されます。

この機能は、iDRAC WS-Man を介して検出されたサーバーでのみ使用できます。デフォルトでは、イベント自動解決は無効になっています。イベント自動解決の有効化タスクを使用して、この機能を有効にします。イベント自動解決の有効化やイベント解決の無効化などのタスクは、[ Dell EMC ] > [ Dell EMC Feature Management Dashboard ] > [ Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) ] > [ Dell EMC モニタリング機能タスク ] で実行できます。

## iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーの容量計画

Dell サーバー容量チェック ユニット モニターを使用して、サーバーの使用率が設定された容量しきい値を超えたかどうかを監視できます。ユニット モニター - Dell サーバー容量チェックでは、各サーバーの最後の1日のシステムまたは CUPS の平均使用率を、設定されている容量しきい値と比較して監視します。このユニット モニターはデフォルトでは無効に設定されています。Dell サーバー容量チェック ユニット モニターを有効にするには、パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化、p. 47 を参照してください。

最小しきい値は1で、最大しきい値は99です。デフォルトのしきい値は60です。しきい値は、指定された範囲内で設定できます。つまり、1~99です。指定した範囲以外のしきい値を指定すると、そのしきい値はデフォルト値にリセットされます。

最後の1日のシステムまたは CUPS の平均使用率が設定されたしきい値を超えると、サーバごとに警告イベントが生成されます。最後の1日のシステムまたは CUPS の平均使用率が設定されたしきい値内に戻ると、警告イベントが自動的に解決されます。

警告アラートの詳細は、[ モニタリング ] の下の [ アラート詳細 ] ペインで確認できます。

## 障害が発生した CMC または OpenManage Enterprise-Modular のステータスの検出と復元

[iDRAC による障害が発生した Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular ( CMC/OME-M ) の検出] 機能を使用すると、ラックスタイル管理 ( RSM ) が有効になっているモジュラー型サーバーの iDRAC が、障害のあるまたは使用できない CMC を検出します。この機能を使用することで、障害が発生した Dell EMC CMC/OME-M を通常の状態に戻す迅速な修復アクションを実行できます。

Dell シャーシコントローラセンサーは、Dell EMC CMC/OME-M の有無または障害を示します。[ センサー ] の下で [ Dell EMC ダイアグラム ビュー ] > [ Dell シャーシコントローラセンサー ] をクリックして、ユニット モニターから取得された正常性状態を確認できます。

### メモ:

- Dell シャーシコントローラセンサーは、拡張可能管理パックおよび詳細管理パックの両方のエディションで使用できません。
- iDRAC による障害が発生した Dell EMC CMC/OME-M の検出は、YX3X および iDRAC9 ベースの PowerEdge FX2 シャーシでサポートされています。

## iDRAC および iSM を介して検出された PowerEdge サーバーのポート接続情報

メモ: この機能は、iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーでのみサポートされています。

サーバーポート接続情報機能では、スイッチポートからサーバーポートへの物理マッピング、および iDRAC 専用ポート接続に関する情報が提供されます。この機能は、サーバーのネットワークポートに接続されているスイッチポートと iDRAC 専用ポートを特定することで、ケーブルエラーのデバッグを減らすのに役立ちます。サーバーポート接続に関する情報は、Dell EMC ダイアグラムビューの [ 詳細ビュー ] ペインの iDRAC NIC および NIC オブジェクトの下で確認できます。各 NIC のインベントリ情報とともに、スイッチのシャーシ ID 情報とポート ID 情報が入力されます。この機能は、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能の iDRAC および iSM の両方の方法で検出された Dell EMC PowerEdge サーバーで使用できます。

## OMIMSSC によって監視されているサーバーおよびラック型ワークステーションのハードウェアコンポーネント

次の表は、OMIMSSC で、iDRAC-WS-Man または iSM-WMI を介して検出された Dell EMC デバイスの拡張可能機能および詳細機能でサポートされる、モニタリング対象ハードウェアコンポーネントの情報を示しています。

表 18. サーバーおよびラック型ワークステーションの監視対象ハードウェアコンポーネント - 拡張可能機能および詳細機能

ハードウェアコンポーネント	iDRAC WS-Man を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能		iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能	
	拡張性	詳細	拡張性	詳細
BIOS	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
バッテリーセンサーグループ	いいえ	はい	はい	はい
バッテリーセンサー	いいえ	はい	いいえ	はい
電流センサーグループ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
電流センサー	いいえ	はい	いいえ	いいえ
ファンセンサーグループ	いいえ	はい	はい	はい
ファンセンサー	いいえ	はい	いいえ	はい

表 18. サーバーおよびラック型ワークステーションの監視対象ハードウェア コンポーネント - 拡張可能機能および詳細機能（続き）

ハードウェアコンポーネント	iDRAC WS-Man を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能		iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能	
	拡張性	詳細	拡張性	詳細
ホスト NIC グループ	いいえ	はい	はい	はい
ホスト NIC	いいえ	はい	いいえ	はい
iDRAC ネットワークインタフェース	はい	はい	はい	はい
iDRAC	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
iDRAC ライセンス	いいえ	いいえ	いいえ	はい
iDRAC ライセンスグループ	いいえ	いいえ	はい	はい
インテリジェンセンサグループ	いいえ	はい	はい	はい
インテリジェンセンサ	いいえ	はい	いいえ	はい
ライセンスグループ	はい	いいえ	-	-
ライセンス	いいえ	はい	-	-
メモリ	はい	いいえ	いいえ	はい
メモリインスタンス	はい	はい	-	-
物理ネットワークインタフェース	いいえ	はい	いいえ	はい
物理ネットワークインタフェースグループ	はい	はい	はい	はい
プロセッサグループ	はい	いいえ	はい	はい
プロセッサ	はい	いいえ	いいえ	はい
電源装置グループ	はい	はい	はい	はい
電源装置	いいえ	はい	いいえ	はい
PCIe SSD エクステンダ	いいえ	はい	いいえ	はい
PCIe SSD バックプレーン	いいえ	はい	いいえ	はい
PCIeSSD 物理ディスク	いいえ	はい	いいえ	はい
サーバーセンサー	いいえ	はい	-	-
サーバーストレージ	はい	はい	-	-
ストレージコントローラコネクタ	いいえ	はい	-	-
ストレージコントローラ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラセンサー	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラバッテリーグループ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラバッテリー	いいえ	はい	いいえ	はい

表 18. サーバーおよびラック型ワークステーションの監視対象ハードウェア コンポーネント - 拡張可能機能および詳細機能（続き）

ハードウェアコンポーネント	iDRAC WS-Man を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能		iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能	
	拡張性	詳細	拡張性	詳細
ストレージ仮想ディスクグループ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージ仮想ディスク	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスクグループ	いいえ	はい	-	-
ストレージコントローラ物理ディスク	いいえ	はい	-	-
ストレージコントローラエンクロージャ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ EMM	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャファアンセンサーグループ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャファアンセンサー	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ電源装置グループ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ電源装置	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ温度センサーグループ	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャ温度センサー	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージコントローラエンクロージャセンサー	いいえ	はい	いいえ	はい
ストレージ コネクタの内部/外部/直接接続物理ディスクグループ	-	-	いいえ	はい
ストレージ コネクタの内部/外部/直接接続物理ディスク インスタンス	-	-	いいえ	はい
SD カードグループ	いいえ	はい	はい	はい
SD カード	いいえ	はい	いいえ	はい
温度センサーグループ	いいえ	はい	はい	はい
温度センサー	いいえ	はい	いいえ	はい

表 18. サーバーおよびラック型ワークステーションの監視対象ハードウェア コンポーネント - 拡張可能機能および詳細機能（続き）

ハードウェアコンポーネント	iDRAC WS-Man を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能		iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能	
	拡張性	詳細	拡張性	詳細
電圧センサーグループ	いいえ	はい	はい	はい
電圧センサー	いいえ	はい	いいえ	はい

## OMIMSSC によるモニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント

次の表は、拡張可能機能および詳細機能でサポートされる、モニタリング対象ハードウェア コンポーネントの情報を示しています。

表 19. モニタリング対象シャーシのハードウェア コンポーネント - 拡張可能機能および詳細機能のサポート。

ハードウェアコンポーネント	PowerEdge MX7000		PowerEdge M1000e		PowerEdge FX2		PowerEdge VRTX	
	拡張性	詳細	拡張性	詳細	拡張性	詳細	拡張性	詳細
CMC/OME-M スロット情報	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
CMC/OME-M スロット	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ファングループ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
IO モジュールグループ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
電源装置グループ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ファン	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
IO モジュール	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
電源装置	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
PCIe デバイスグループ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
PCIe デバイス	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
保管時	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい
ストレージコントローラー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ仮想ディスクグループ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ仮想ディスク	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスクグループ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージコントローラ物理ディスク	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ストレージエンクロージャ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい

# OMIMSSC によって監視されるネットワーク スイッチのハードウェア コンポーネント

次の表は、拡張可能機能および詳細機能でサポートされる、モニタリング対象ネットワーク スイッチ ハードウェア コンポーネントの情報を示しています。

表 20. モニタリング対象のネットワーク スイッチ ハードウェア コンポーネント — 拡張可能機能および詳細機能

ハードウェアコンポーネント	検出モード	
	拡張性	詳細
スイッチ	はい	はい
ファングループ	はい	はい
ファンユニット	いいえ	はい
電源装置グループ	はい	はい
電源供給ユニット	いいえ	はい
インタフェース	はい	いいえ
ユーザーポートグループ	はい	いいえ
ユーザーポートインスタンス	いいえ	はい

# OMIMSSC モニタリング機能によって提供される表示オプション

ビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能			ネットワーク スイッチ
	iDRAC WS-Man を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	シャーシ	
アラート ビュー	はい	はい	はい	はい
ダイアグラムビュー	はい	はい	はい	はい
パフォーマンスおよび電源モニタリングビュー	はい	はい	はい	はい
状態ビュー	はい	はい	はい	はい

OMSA ( エージェントベース ) を使用したサーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能によってサポートされるビューの詳細については、サポート サイトにある『Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC Windows Server Agent-based and iDRAC7 or iDRAC8 SNMP Management Pack ユーザーズ ガイド』を参照してください。

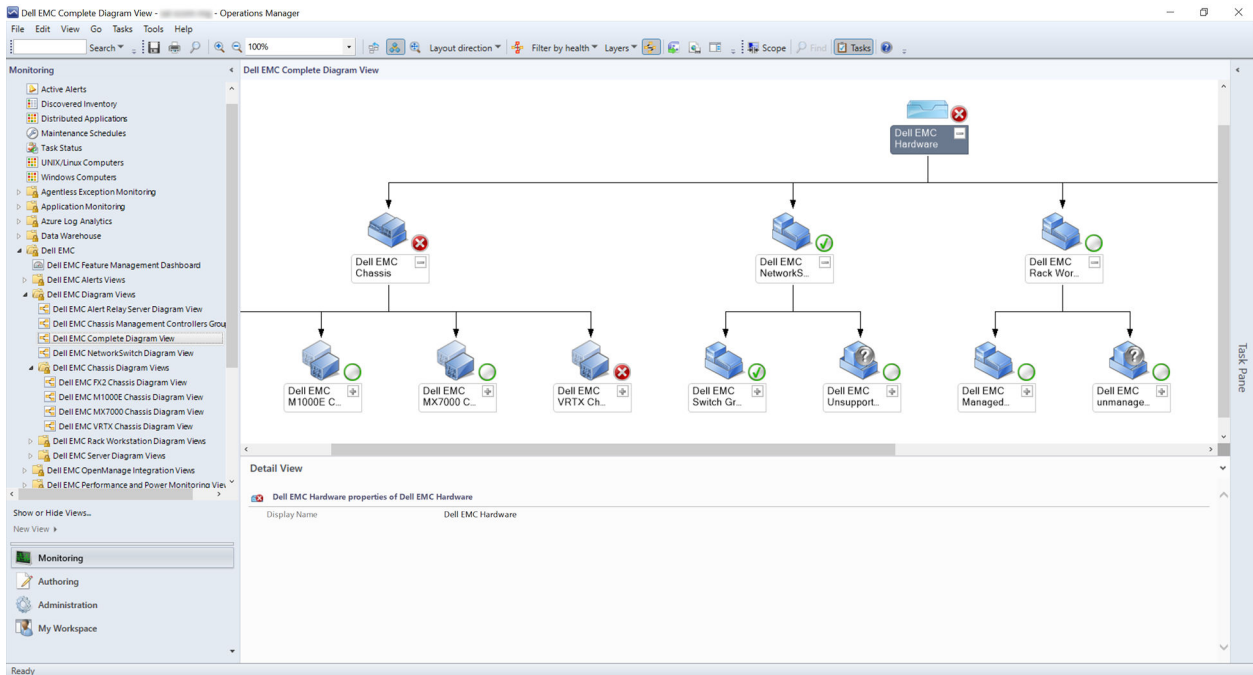
# OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラムビュー

表 21. OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるダイアグラムビュー

SCOM コンソールに表示されるダイアグラムビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能			
	サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
完全ダイアグラムビュー	はい	はい	いいえ	はい
ラック型ワークステーションのダイアグラムビュー	はい	はい	いいえ	いいえ
モジュラー型サーバーのダイアグラムビュー	はい	はい	いいえ	いいえ
モノリス型サーバーのダイアグラムビュー	はい	はい	いいえ	いいえ
Sled サーバーのダイアグラムビュー	はい	はい	いいえ	いいえ
ユニットのダイアグラムビュー	はい	はい	いいえ	いいえ
Remote Access Controller グループのダイアグラムビュー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
CMC グループのダイアグラムビュー	いいえ	いいえ	はい	いいえ
シャーシのダイアグラムビュー	いいえ	いいえ	はい	いいえ
ネットワークスイッチのダイアグラムビュー	いいえ	いいえ	いいえ	はい

## OMIMSSC でサポートされている完全ダイアグラムビュー

Dell EMC 完全ダイアグラムビューには、SCOM コンソールで監視されているすべての Dell EMC デバイスがグラフィック表示されます。図では、個々のデバイスとそのコンポーネントのステータスを展開して確認できます。



モニタリング機能によって表示される完全ダイアグラム ビューには、次の情報が含まれています。

- Dell EMC モジュラー型およびモノリス型サーバー
- Dell EMC Sled グループ
- Dell EMC ラック型ワークステーショングループ
- Dell EMC ラック型ワークステーション
- Chassis Management Controller
- Remote Access Controller
- Dell EMC 管理対象外システム

## ラック型ワークステーション ダイアグラム ビュー

Dell EMC ラック型ワークステーションのダイアグラム ビューでは、サポートされているすべての Dell EMC ラック型ワークステーションがグラフィック表示され、ダイアグラム内の個々のデバイスやそれらのコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。ダイアグラム内のラック型ワークステーションを選択して、[ 詳細ビュー ] セクションに詳細を表示します。

## モジュラー型およびモノリス型システムのダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ

Dell EMC モジュラー型システムのダイアグラム ビューと Dell EMC モノリス型サーバーのダイアグラム ビューには、次のコンポーネントに関する情報が表示されます。

表 22. モジュラー型およびモノリス型システムのダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ

モジュラー型およびモノリス型のダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ	OMIMSSC モニタリング機能	
	サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)
物理ネットワークインターフェース	はい	はい
メモリ	はい	はい
PSU	はい	はい
センサー	はい	はい
プロセッサ	はい	はい

表 22. モジュラー型およびモノリス型システムのダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ ( 続き )

モジュラー型およびモノリス型のダイアグラム ビューに表示されるコンポーネント データ	OMIMSSC モニタリング機能	
	サーバーおよびラック型ワークステーション ( ライセンス対象 )	iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション ( ライセンス対象 )
ストレージ コンポーネント	はい	はい
BIOS ( インベントリーのみ )	はい	はい
BIOS	いいえ	いいえ
iDRAC NIC	はい	はい
ホスト NIC	はい	はい
SD カード	はい	はい
ネットワークインタフェースグループ	いいえ	いいえ
ライセンス	はい	はい
メモリグループ	いいえ	いいえ
PSU グループ	いいえ	いいえ
センサー グループ	いいえ	いいえ
プロセッサグループ	いいえ	いいえ
ストレージ コンポーネント グループ	いいえ	いいえ
ホスト NIC グループ	いいえ	いいえ
iDRAC	いいえ	いいえ
iDRAC ライセンスグループ	いいえ	いいえ
PCIe/ SSD グループ	いいえ	いいえ
SD カードグループ	いいえ	いいえ

## OMIMSSC でサポートされているモジュラー型システムのダイアグラム ビュー

モジュラー型システムのダイアグラム ビューは、すべての Dell EMC モジュラー型システムをグラフィック表示します。このビューでダイアグラム内の個々のデバイスやコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。

## OMIMSSC でサポートされているモノリス型サーバーのダイアグラム ビュー

Dell EMC モノリス型サーバーのダイアグラム ビューは、すべてのモノリス型システムをグラフィック表示します。このビューでダイアグラム内の個々のデバイスやコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。

## OMIMSSC でサポートされている Sled サーバーのダイアグラム ビュー

Dell EMC Sled サーバーのダイアグラム ビューは、すべての Sled サーバーをグラフィック表示します。このビューでダイアグラム内の個々のデバイスやコンポーネントを展開して、そのステータスを確認できます。ダイアグラム内の Sled サーバーを選択して、[ 詳細ビュー ] セクションに詳細を表示します。

## OMIMSSC でサポートされている PowerEdge サーバー ユニットのダイアグラム ビュー

Dell EMC モジュラー型システム ビューまたは Dell EMC モノリス型サーバー ダイアグラム ビューから Dell EMC PowerEdge サーバーを選択して、その特定のシステムに固有のダイアグラムを表示します。システム固有のダイアグラムは、OMIMSSC モニタリング機能によってサポートされているコンポーネントのステータスを図示しています。

## OMIMSSC でサポートされる Remote Access Controller グループのダイアグラムビュー

Remote Access Controller グループ ダイアグラムビューには、すべての iDRAC6、iDRAC7、および iDRAC8 デバイスが図示されます。ダイアグラム内のコンポーネントを選択して、[ 詳細ビュー ] セクションに詳細を表示します。

## ストレージコントローラーのコンポーネント階層

ハードドライブ、コネクタ、VD、コントローラー、センサー、エンクロージャなどのコンポーネントのステータスと正常性を表示するには、任意の Dell EMC システム インスタンス ダイアグラム ビューで [ ストレージ ] コンポーネントを展開します。

## OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー

表 23. OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー

SCOM コンソールに表示される状態ビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能			
	サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
サーバーおよびラック型ワークステーションの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
管理対象ラック型ワークステーションの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
FM サーバーの状態ビュー	はい	いいえ	いいえ	いいえ
スレッド サーバーの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
サーバー (iSM) の状態ビュー	いいえ	はい	いいえ	いいえ
スレッド サーバー (iSM) の状態ビュー	いいえ	はい	いいえ	いいえ
DRAC の状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ	いいえ
管理対象ワークステーション (ライセンス対象) の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ	いいえ
スレッド サーバー (ライセンス対象) の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ	いいえ
管理対象外サーバー (ライセンス対象) の状態ビュー	はい	いいえ	いいえ	いいえ
FX2 シャーシの状態ビュー	いいえ	いいえ	はい	いいえ

表 23. OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示される状態ビュー（続き）

SCOM コンソールに表示される状態ビュータイプ	OMIMSSC モニタリング機能			
	サーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	iSM-WMI を使用したサーバーおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象)	シャーシ	ネットワーク スイッチ
MX1000E シャーシの状態ビュー	いいえ	いいえ	はい	いいえ
MX7000 シャーシの状態ビュー	いいえ	いいえ	はい	いいえ
VRTX シャーシの状態ビュー	いいえ	いいえ	はい	いいえ
ネットワーク スイッチの状態ビュー	いいえ	いいえ	いいえ	はい

## OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって表示されるパフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビュー

パフォーマンス ビューでは、パフォーマンス オブジェクトとカウンターから収集されたパフォーマンス データを表示する方法をカスタマイズできます。これには、履歴および現在の動作データをまとめて表示する機能が含まれます。[ 結果 ] ペインのグラフ内のルールからデータを表示するには、[ 詳細 ] ペインで [ 表示 ] を選択する必要があります。

### PowerEdge サーバーおよびワークステーションの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能のパフォーマンス モニタリング ビューおよび電源モニタリング ビュー

PowerEdge サーバーおよびワークステーションでは、次の OMIMSSC パフォーマンス モニタリング ビューと電源モニタリング ビューが表示されます。

- Dell パフォーマンスビュー
- ディスク パフォーマンス - iSM

**メモ:** デフォルトでは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象) 機能のすべてのパフォーマンス メトリック ルールが無効になっています。

サーバーとラック型ワークステーションの OMIMSSC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビューの一部として、次のシステムボード使用状況ビューが表示されます。

- CPU 使用率 (%)
- IO 使用率 (%)
- メモリ使用率 (%)
- システム全体の使用率 (%)

**メモ:**

- システム ボードの使用率メトリクスは、第 13 世代の PowerEdge サーバーの一部でのみサポートされます。デフォルトでは、Dell サーバのパフォーマンスルールは無効に設定されています。
- Dell EMC パフォーマンスビュー には、CPU のパフォーマンスインデックス、メモリおよび I/O の使用率インデックス、およびシステムレベルの CUPS インデックスがグラフィック形式で表示されます。

### シャーシの OMIMSSC のライセンス対象モニタリング機能のパフォーマンスおよび電源モニタリング ビュー

Dell EMC シャーシでは、次の OMIMSSC パフォーマンスおよび電源モニタリング ビューが表示されます。

- Dell EMC シャーシパフォーマンスビュー

**メモ:** Dell EMC シャーシ パフォーマンス ビューは、Dell EMC シャーシ モニタリング機能の詳細機能がインストールされていて、メトリック パラメーターをオーバーライド時に [メトリック モニタリング] を [はい] として選択した場合にのみ使用できます。

## OMIMSSC のユニット モニター

ユニット モニターは、パフォーマンス カウンターを 2 サイクル連続して監視し、しきい値を超えているかどうかを確認します。しきい値を超えると、Dell EMC PowerEdge サーバーの状態が変化し、アラートが生成されます。このユニット モニターはデフォルトで無効になっています。SCOM コンソールの [オーサリング] ペインで、しきい値を (有効に) オーバーライドできます。ユニット モニターは、Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング機能の Dell Windows Server オブジェクトで使用できます。ユニット モニターのしきい値を有効にするには、[パフォーマンスおよび電源モニタリングのユニット モニターの有効化](#)、p. 47 を参照してください。Dell ユニット モニターはモニタリング対象のオブジェクトで発生するさまざまな状況を評価します。この評価の結果が、対象の正常性状態を決定します。

Dell ユニット モニターには以下が含まれます。

- イベント モニター — このモニターは Dell 計装が Windows イベント ログに記録するイベントによってトリガーされ、対応するオブジェクトの稼働状態を示します。
- 定期モニター — 秒間隔で設定された定期的なポーリングによってトリガーされます。

## PowerEdge サーバーおよびワークステーション用の System Center Operations Manager 向けの、OMIMSSC および Dell EMC Windows サーバー エージェント ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 の SNMP 管理パック バージョン 7.3 のライセンス対象監視機能のユニットモニター

OMIMSSC のライセンス バージョン (iDRAC WS-Man) によって提供される次のすべてのユニット モニターは、[定期] タイプです。

- Dell EMC PowerEdge サーバ
  - Dell サーバー Run As アカウント関連
  - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell サーバー電源装置
  - Dell サーバー電源供給ユニット
- Dell サーバープロセッサグループ
  - Dell サーバープロセッサグループ
- Dell サーバシャーシコントローラセンサー
  - Dell サーバシャーシコントローラセンサー
- Dell ストレージコントローラ
  - Dell サーバーストレージコントローラ
- Dell サーバーコントローラバッテリー
  - Dell サーバーコントローラバッテリーユニット
- Dell バッテリーセンサー
  - Dell サーバーバッテリーセンサーの正常性
- Dell バッテリーセンサーグループ
  - Dell サーバーバッテリーグループセンサーの正常性
- Dell 電流センサー
  - Dell サーバー電流センサーの正常性
- Dell ファンセンサー
  - Dell サーバーファンセンサーの正常性
- Dell ファンセンサーグループ
  - Dell サーバーファングループセンサーの正常性
- Dell インテリジョンセンサー
  - Dell サーバーインテリジョンセンサーの正常性
- Dell モジュラー型ブレード サーバー (オペレーティング システムあり)
  - Dell サーバー Run As アカウント関連
  - Dell サーバー ユニット モニター

- Dell モジュラー型ブレード サーバー (オペレーティング システムなし)
  - Dell サーバー Run As アカウント関連
  - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell モノリス型サーバー (オペレーティング システムあり)
  - Dell サーバー Run As アカウント関連
  - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell モノリス型サーバー (オペレーティング システムなし)
  - Dell サーバー Run As アカウント関連
  - Dell サーバー ユニット モニター
- Dell ネットワークインタフェースグループ
  - Dell サーバーネットワークインタフェースグループ
- Dell iDRAC ネットワークインタフェース
  - Dell サーバー iDRAC ネットワークインタフェースユニット
- Dell サーバ容量しきい値チェック
  - Dell サーバ容量しきい値チェック
- Dell サーバーホスト NIC
  - Dell サーバーホスト NIC
- Dell サーバーライセンス
  - Dell サーバーライセンス
- Dell サーバーライセンスグループ
  - Dell サーバーライセンスグループ
- 物理ネットワークインタフェース
  - Dell サーバーネットワークインタフェースユニット
- PCIe SSD バックプレーン
  - Dell サーバー PCIeSSD バックプレーン
- PCIe SSD エクステンダ
  - Dell サーバー PCIe SSD エクステンダ
- PCIe SSD 物理ディスク
  - Dell サーバー PCIe SSD 物理ディスクの予測障害ディスク
  - Dell サーバー PCIe SSD 物理ディスクのプライマリステータス
- Dell サーバー SD カード
  - Dell サーバー SD カード
  - Dell サーバー SD カードグループ
- Dell サーバーコネクタエンクロージャ
  - Dell サーバーコネクタエンクロージャ
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ EMM
  - Dell サーバーエンクロージャ EMM
- Dell ストレージコントローラエンクロージャファンセンサー
  - Dell サーバーエンクロージャファンセンサー
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ物理ディスク
  - Dell サーバーエンクロージャ外部物理ディスク
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ電源装置
  - Dell サーバーエンクロージャ電源装置
- Dell ストレージコントローラエンクロージャ温度センサー
  - Dell サーバー温度センサー
- Dell ストレージコントローラ内部物理ディスク
  - Dell サーバー内部物理ディスクユニット
- Dell ストレージコントローラ物理ディスク
  - Dell サーバーコントローラダイレクトアタッチド物理ディスク
- Dell ストレージグループ
  - Dell サーバーストレージ
- Dell ストレージ仮想ディスク
  - Dell サーバーコントローラ仮想ディスクユニット
- Dell 温度センサー
  - Dell サーバー温度センサーの正常性
- Dell 温度センサーグループ
  - Dell サーバー温度センサグループの正常性

- Dell 電圧センサー
  - Dell サーバー 電圧センサーの正常性
- Dell 電圧センサーグループ
  - Dell サーバーセンサー電圧グループ

## Dell EMC シャーシ モニタリング機能のためのユニット モニター

シャーシのシャーシ モニタリング機能によって提供される次のユニット モニターはすべて、定期タイプです。

- Dell EMC CMC/OME-M
  - Dell シャーシ Run As アカウントの関連付け
  - Dell CMC ステータス
- Dell シャーシ正常性全般
  - Dell シャーシ正常性全般ユニット モニター
- Dell シャーシ I/O モジュール
  - Dell シャーシ I/O モジュール正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell モジュラー型シャーシ ファン
  - Dell シャーシ ファン正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型コントローラー
  - Dell シャーシ CMC 正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型コントローラー グループ
  - Dell シャーシ CMC グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型電源装置
  - Dell シャーシ電源装置正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型電源装置グループ
  - Dell シャーシ電源装置グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシ モジュラー型 PCIe デバイス
  - Dell シャーシ PCIe デバイス正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージエンクロージャ
  - Dell シャーシストレージ エンクロージャ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラ
  - Dell シャーシストレージ コントローラー正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
  - Dell シャーシストレージ コントローラー バッテリー正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラ仮想ディスク
  - Dell シャーシストレージ仮想ディスク正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラエンクロージャ内部物理ディスク
  - Dell シャーシストレージ内部物理ディスク プライマリー正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター
  - Dell シャーシストレージ内部物理ディスクの予測障害正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell シャーシストレージコントローラエンクロージャ外部物理ディスク
  - Dell シャーシストレージ外部物理ディスク プライマリー正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター
  - Dell シャーシストレージ外部物理ディスクの予測障害正常性ステータス ポーリングに基づいたユニット モニター

## Dell EMC ネットワーク スイッチ モニタリング機能のユニット モニター

ネットワーク スイッチ モニタリング機能によって提供される次のユニット モニターはすべて、定期タイプです。

- Dell EMC ネットワークスイッチ
  - Dell EMC ネットワークスイッチのステータス
- Dell EMC ネットワークスイッチファングループ
  - Dell EMC ネットワーク スイッチ ファン グループ正常性全般ユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチファンユニット
  - Dell EMC ネットワーク スイッチ ファン正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチユーザーポートグループ
  - Dell EMC ネットワーク スイッチ ユーザー ポート グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチユーザーポートユニット
  - Dell EMC ネットワーク スイッチ ユーザー ポート正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワーク スイッチの電源供給ユニット

- Dell EMC ネットワーク スイッチ電源正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチの電源グループ
  - Dell EMC ネットワーク スイッチ電源グループ正常性ポーリングに基づいたユニット モニター
- Dell EMC ネットワークスイッチインタフェース
  - Dell EMC ネットワーク スイッチ インターフェイス正常性全般ユニット モニター

## OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能によって使用されるイベントルール

SCOM コンソールを使用するデータ センター管理者は、システムで実行されているルールやモニタリングについて把握しておく必要がある場合があります。OMIMSSC のさまざまなモニタリング機能が使用するイベントルールによって、関連するイベントルールの情報が管理者に提供されます。

### PowerEdge サーバーおよびワークステーションの OMIMSSC のライセンス対象 ( iDRAC WS-Man ) モニタリング機能によって処理されるイベントルール

#### Dell システム イベント処理のルール

OMIMSSC は Dell EMC PowerEdge サーバーからのルールを処理します。

#### iDRAC-WS-Man を介した Dell EMC PowerEdge サーバー

Dell EMC サーバーおよびラック モニタリング ( ライセンス対象 ) 機能を使用して検出された Dell EMC PowerEdge サーバーに対するすべての情報、警告、および重大 SNMP トラップには、対応する SNMP トラップルールがあります。これらの各ルールは、次の基準に基づいて処理されます。

- ソース名 = Dell サーバー IP
- OID = トラップイベントの実際のトラップ ID
- データプロバイダ = SNMP トラップイベントプロバイダ

### PowerEdge サーバーおよびワークステーション用の OMIMSSC のライセンス対象 ( iSM-WMI ) モニタリング機能によって処理されるイベントルール

次の項には、iSM-WMI を使用した Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能に固有のルールがリストされています。

- Dell システム イベント処理ルール - OMIMSSC は、Dell EMC PowerEdge サーバーからのルールを処理します。
- iSM-WMI を使用した Dell EMC PowerEdge サーバー - この機能を使用して検出された Dell EMC PowerEdge サーバーに関するすべての情報、警告、および重要なイベントには、対応するイベントルールがあります。これらの各ルールは、次の基準に基づいて処理されます。
  - ソース名 = 「Lifecycle Controller ログ」
  - イベント番号 = イベントの実際のイベント ID
  - データ プロバイダー = Windows システム イベント ログ

### OMIMSSC のライセンス対象シャーシ モニタリング機能によって処理されるイベントルール

- Dell システム イベント処理ルール - OMIMSSC アプライアンスは、シャーシ トラップからのルールを処理します。
- Dell EMC シャーシ デバイス : シャーシ デバイスのすべての情報、警告、重大 SNMP トラップには、対応する SNMP トラップルールがあります。これらの各ルールは、次の基準に基づいて処理されます。
  - ソース名 = DRAC/CMC の名前または IP
  - OID = DRAC または CMC SNMP トラップ イベントの実際のトラップ ID

○ データプロバイダ = SNMP トラップ

**メモ:** 情報アラートはデフォルトでオフになっています。これらのアラートを受信するには、情報アラート管理パックをインストールします。

## 追加リソース

表 24. 追加リソース

文書	説明	入手先
System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) リリースノート	SCOM 用 OMIMSSC アプライアンスの新機能、既知の問題、および回避策についての情報を提供します。	1. <a href="http://Dell.com/esmmanuals">Dell.com/esmmanuals</a> にアクセスします。 2. [ Microsoft System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け OpenManage Integration ], 必要なアプリケーション バージョンの順に選択します。
System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack ユーザーズ ガイド	System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack のインストール、設定、使用、およびトラブルシューティングに関する情報が記載されています。	3. [ ドキュメント ] タブを選択して、以下のドキュメントにアクセスします。
System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack リリースノート	System Center Operations Manager 用 Dell EMC Windows Server Agent ベースおよび iDRAC7 または iDRAC8 SNMP Management Pack の新機能、既知の問題、および回避策に関する情報が記載されています。	
『System Center Operations Manager ( SCOM ) 向け Dell EMC OpenManage Integration with Microsoft System Center ( OMIMSSC ) による拡張性』テクニカル ホワイト ペーパー	OMIMSSC 環境に Dell EMC アラート リレーサーバーを追加して、モニタリング機能を拡張する方法について説明します。	

# Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス

直接リンクを使用して Dell EMC サポート サイトに移動するか、検索エンジンを使用して、一連のシステム管理ツールに関連するサポート コンテンツにアクセスします。

- 直接リンク：
  - Dell EMC エンタープライズ システム管理および Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/esmmanuals>
  - Dell EMC 仮想化ソリューション：[www.dell.com/virtualizationsolutions](http://www.dell.com/virtualizationsolutions)
  - Dell EMC OpenManage：<https://www.dell.com/openmanagemanuals>
  - iDRAC：<https://www.dell.com/idracmanuals>
  - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement>
  - Dell EMC Serviceability Tools：<https://www.dell.com/serviceabilitytools>
- Dell EMC サポート サイト：
  1. <https://www.dell.com/support> にアクセスします。
  2. [ すべての製品の参照 ] をクリックします。
  3. [ すべての製品 ] ページで [ ソフトウェア ] をクリックして、次に必要なリンクをクリックします。
  4. 必要な製品をクリックして、必要なバージョンをクリックします。

検索エンジンを使用する場合は、検索ボックスにドキュメントの名前とバージョンを入力します。

# デル・テクノロジーズへのお問い合わせ

## このタスクについて

デル・テクノロジーズでは、オンラインおよび電話によるサポートとサービス オプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国または地域、および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。

**① メモ:** アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデル・テクノロジーズ製品カタログで連絡先をご確認いただけます。

デル・テクノロジーズのセールス、テクニカル サポート、またはカスタマー サービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

## 手順

1. [Dell.com/support](https://Dell.com/support) にアクセスします。
2. ページの右下で、リストから希望の国または地域を選択します。
3. [ サポートへのお問い合わせ ] をクリックして、該当するサポート リンクを選択します。

## 用語集

表 25. 本ガイドで使用する用語

用語	説明
アラート リレー サーバー	Dell EMC アラート リレー サーバー (旧称プロキシ管理サーバー) は、OMIMSSC 環境において監視能力を高めるのに役立ちます。
AMSRP	All Management Server Resource Pool
CMC/ OME-M	Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise—Modular
DRAC/ iDRAC	特に指定のない限り、Dell EMC PowerEdge サーバー、Dell ブランド OEM サーバー、Dell OEM Ready サーバーの Dell Remote Access Controller/ integrated Dell Remote Access Controller です。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング	データセンターで、サポート対象の Windows オペレーティングシステムを実行している PowerEdge サーバー、PowerVault モノリス型およびモジュラー型システム、Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックを、サポートされている OpenManage Server Administrator (OMSA) を使用して検出およびモニタリングする OMIMSSC のライセンスが不要の機能です。
Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーション モニタリング (ライセンス対象)	データセンターで、第 12 世代、第 13 世代、および iDRAC 9 ベースの PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックを検出およびモニタリングする OMIMSSC のライセンスベース機能です。Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM Ready サーバーと Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノードのハードウェア モニタリング機能もサポートされています。
FMD	Dell EMC Feature Management Dashboard
iSM	iDRAC サービス モジュールは、サーバーで実行される軽量ソフトウェアであり、オペレーティングシステムからのモニタリング情報を使用して iDRAC を補完します。iSM とサポート対象プラットフォームの詳細については、 <a href="https://Dell.com/support">Dell.com/support</a> の『iDRAC サービス モジュールインストールガイド』を参照してください。
MS	管理サーバー
MP	管理パック
OMIMSSC	Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center—Operations Manager
PowerEdge サーバー	特に指定がない限り、PowerEdge モノリス型サーバー、PowerEdge モジュラー型サーバー、PowerVault デバイス、サポート対象ラック型ワークステーション、Dell ブランド OEM サーバー、Dell OEM Ready サーバー。
SCOM	Microsoft System Center for Operations Manager。

## 追加トピック

### トピック：

- トラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするための SCOM の設定
- SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成
- 複数の Run As アカウントの関連付け
- Web Services Management ( WS-Man ) と SMASH デバイス テンプレートのインストール
- Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能

## トラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするための SCOM の設定

### このタスクについて

SCOM でトラップとトラップベースのユニット モニターをモニタリングするには、次の手順を実行します。

### 手順

1. SCOM コンソールを起動し、[ 管理 ] を選択します。
2. [ 管理 ] ペインで、[ Run As 設定 ] > [ プロファイル ] と移動します。
3. 使用可能なプロファイルのリストから、[ SNMP モニタリング アカウント ] を右クリックし、[ プロパティ ] をクリックします。  
[ はじめに ] 画面が表示されます。
4. [ 次へ ] をクリックします。  
[ Run As プロファイルの一般プロパティの指定 ] 画面が表示されます。
5. [ 次へ ] をクリックします。  
[ Run As アカウント ] 画面が表示されます。
6. [ 追加 ] をクリックします。
7. デバイスを検出するには、[ Run As アカウント ] ドロップダウン メニューからコミュニティ文字列を選択します。
  - ① **メモ:** Run As アカウントのコミュニティ文字列を使用できない場合は、それを作成します。「[SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成](#)」を参照してください。
  - ② **メモ:** デバイスの検出に複数の Run As アカウントを使用している場合は、各デバイスをそれに関連する Run As アカウントに関連付けます。詳細については、「[複数 Run As アカウントの関連付け](#)」を参照してください。
8. [ OK ] をクリックします。
9. ウィザードの指示に従ってタスクを完了した後、[ 閉じる ] をクリックします。

## SNMP モニタリングのための Run As アカウントの作成

### 手順

1. SCOM コンソールを起動し、[ 管理 ] を選択します。
2. [ 管理 ] ペインで、[ Run As 設定 ] > [ アカウント ] の順にクリックします。
3. [ アカウント ] を右クリックして、[ Run As アカウントの作成 ] をクリックします。  
[ はじめに ] 画面が表示されます。
  - ① **メモ:** ネットワーク モニタリングのための Run As アカウントの詳細については、[Microsoft のマニュアル](#)を参照してください。
4. [ 次へ ] をクリックします。

- [ 一般プロパティ ] 画面が表示されます。
- [ Run As アカウントのタイプ ] ドロップダウン メニューから、コミュニティ文字列を選択します。
  - [ 表示名 ] ボックスに、コミュニティ文字列名を入力し、[ 次へ ] をクリックします。
  - [ コミュニティ文字列 ] ボックスに、コミュニティ文字列を入力し、[ 次へ ] をクリックします。  
[ 配布セキュリティ ] 画面が表示されます。
  - [ 低セキュリティ - 管理下コンピューターのすべてに資格情報を自動配布する ] オプションを選択して、[ 作成 ] をクリックします。
  - ウィザードの指示に従ってタスクを完了した後、[ 閉じる ] をクリックします。
  - [ この Run As アカウントを次のオブジェクトの管理に使用する ] で、[ すべてのターゲット対象オブジェクト ] を選択して、Run As アカウントをすべての Dell EMC デバイスに関連付けます。
  - [ OK ] をクリックします。

## 複数の Run As アカウントの関連付け

### 手順

- [ **トラップとトラップベースのユニット モニターのための運用マネージャーの設定** ] のステップ 1~6 を実行します。
- [ Run As アカウントの追加 ] 画面で、[ 選択したクラス、グループ、またはオブジェクト ] オプションを選択します。
- [ 選択 ] > [ クラス ] をクリックします。  
[ クラス検索 ] 画面が表示されます。  
**メモ:** また、コミュニティ文字列の Run As アカウントを、オブジェクトおよびグループに関連付けることもできます。詳細については、[www.docs.microsoft.com](http://www.docs.microsoft.com) にある SCOM に関するマイクロソフトのマニュアルを参照してください。
- [ フィルター ( オプション ) ] ボックスにクラス名を入力します。デバイスのタイプに基づいて、[ Dell EMC サーバー ]、[ Dell CMC/OME-M ]、または [ Dell EMC DRAC/MC ] を入力します。
- [ 検索 ] をクリックします。
- [ 使用可能なアイテム ] で、追加するクラスを選択します。
- [ OK ] をクリックします。
- [ Run As アカウントの追加 ] 画面で、[ OK ] をクリックします。
- 管理する各クラス タイプについて、ステップ 2~8 を繰り返します。
- [ 保存 ] をクリックします。
- ウィザードの指示に従ってタスクを完了した後、[ 閉じる ] をクリックします。


## Web Services Management ( WS-Man ) と SMASH デバイス テンプレートのインストール

### 手順

- [www.microsoft.com/en-in/download/confirmation.aspx?id=29266](http://www.microsoft.com/en-in/download/confirmation.aspx?id=29266) から、次の SMASH ライブラリー MPB ファイルを一時的な場所である WS-ManagementAndSMASHDeviceDiscoveryTemplate.msi にダウンロードします。
- SMASH ライブラリー MPB ファイルをユーザーまたはデフォルトの場所にコピーするには、MSI ファイルを実行します。
- SCOM コンソールを起動します。
- 左ペインで、[ 管理 ] を選択します。
- [ 管理パック ] を選択して、作業中のペインで [ 管理パックをインポート ] を選択します。
- [ 追加 ] > [ ディスクから追加 ] を選択します。
- Microsoft SMASH ライブラリー MPB ファイルをダウンロードした場所の詳細を入力するか、場所を参照します。
- MPB ファイルを選択して [ 開く ] をクリックします。  
[ 管理パックのインポート ] 画面が表示され、[ インポート リスト ] にテンプレートが表示されます。
- [ インストール ] をクリックします。

# Run As アカウントの関連付けタスク - Dell EMC サーバーおよびラック型ワークステーションのモニタリング機能

[ Run As アカウントの関連付け ] タスクでは、SMASH 検出に使用される Run As アカウントを、正常性モニタリングに必要なすべての Dell サーバー オブジェクトに関連付けます。このタスクは、オブジェクトレベルの関連付けを実行するオプションとして使用できます。

 **警告:** [ Run As アカウントの関連付け ] タスクは、必要な場合にのみ実行してください。このタスクは、すべての Dell サーバ オブジェクトの設定に影響します。Dell サーバー Run As アカウント関連付けユニット モニターは、オブジェクトレベルの関連付けを自動的に実行します。